2022年度　　研究

科目名(日本語)	**看護研究法**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Methods of Nursing Research	必修	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	坂本　なほ子				
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授）村上好恵（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

実際の研究テーマに即して研究方法を応用可能になるような知識や、研究を計画するための考え方を修得する。

【３】　到達目標

基本的な研究のあり方と看護研究に関する理論と実際について探究できる。
研究課題に適した研究方法を理解し応用し、研究対象を的確に把握、分析・解釈し、その結果を看護学に応用する能力を身につける。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護研究とは	看護研究とは何かを考える	坂本
2	研究プロセスと研究計画	研究プロセスを概観する	坂本
3	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの設定について考える	坂本
4	文献検索	文献検索方法について学ぶ	坂本
5	文献レビュー	文献の読み方を学ぶ	坂本
6	研究デザイン①	研究デザインの選び方について学ぶ	坂本
7	研究デザイン②	各種研究デザインについて学ぶ	坂本
8	データ収集法①	量的データの収集法について学ぶ	坂本
9	データ収集法②	量的データの収集法について学ぶ	坂本
10	解析方法・解析計画①	仮説検定・解析計画について学ぶ	坂本
11	解析方法・解析計画②	仮説検定・解析計画について学ぶ	坂本
12	仮説検定・解析計画③	仮説検定・解析計画について学ぶ	坂本
13	質的研究①	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
14	質的研究②	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
15	質的研究③	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
16	質的研究④	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
17	質的研究⑤	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
18	質的研究⑥	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
19	質的研究⑦	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
20	質的研究⑧	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
21	質的研究⑨	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
22	研究計画書の作成	研究計画書の作成について学ぶ	坂本
23	結果のまとめ方①	調査結果のまとめ方を学ぶ	坂本
24	結果のまとめ方②	調査結果のまとめ方を学ぶ	坂本
25	ディスカッション①	自己の研究クリティーク発表とディスカッション	坂本
26	ディスカッション②	自己の研究クリティーク発表とディスカッション	坂本
27	ディスカッション③	自己の研究クリティーク発表とディスカッション	坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

講義は遠隔方式で行う。
講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(20%)、レポート(80%)から総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を行う。

【9】　教科書

1)　南裕子：看護における研究第2版、日本看護協会出版会、2017

【10】　参考書

1)　高木廣文、林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方、中山書店、2006

【11】　備考(関連科目等)

自身の卒業研究について再確認しておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

科目名(日本語)	**看護学特別研究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Research	必修	実習	1～2年次・秋	6単位 270時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護研究科・教授）横井郁子（看護学研究科・教授）小林寅喆（看護学研究科・教授） 村上好恵（看護学研究科・教授）福島富士子（看護学研究科・教授）伊藤桂子（看護学研究科・教授） 菊池麻由美（看護学研究科・教授）原三紀子（看護学研究科・教授）藤原和美（看護学研究科・教授） 夏原和美（看護学研究科・教授）湯浅玲奈（看護学研究科・教授）坂本なほ子（看護学研究科・教授） 荒木暁子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授） 望月由紀子（看護学研究科・准教授）成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	各指導教員に確認すること。				
オフィスアワー	各指導教員に確認すること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【2】　授業概要

看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、修士論文を作成する。研究を通じて研究者として必要な態度（謙虚さ、忠実性、真摯さ）を獲得する。

【3】　到達目標

1.興味・関心のある現象に関する課題を明らかにするための文献検討、文献クリティークを行う能力を習得する。
2.興味・関心のある現象について、フィールドワークに参加し、諸理論を用いて現象を捉える能力を習得する。
3.フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる
4.研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
5.課題の研究的探索に有効な研究方法を明確にし、研究計画を立案できる。
6.研究を進めるにあたり倫理的配慮について理解し、説明できる。
7.収集したデータを分析する能力を習得する。
8.得られた知見を論文として表現する能力を習得する。
9.データ収集から論文作成、成果発表までのプロセスにおいて研究者として必要な態度（謙虚さ、忠実性、真摯さ）を獲得する。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	各指導教員・副指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、修士論文の作成まで研究の過程を展開する。	各担当教員
2	指導体制	指導教員・副指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

【6】　事前・事後学習とその時間

各指導教員が適切な方法により実施する。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、研究計画書（20%）、論文（60%）から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【９】　教科書
適宜提示する

【10】　参考書
適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)
各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

科目名(日本語)	**がん看護学高度実践看護実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Practicum for CNS in Cancer Nursing	選択	実習	1～2年次・通年	10単位 500時間
科目責任者	村上 好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）寺原敦朗（大森病院放射線科・教授）山下尚美（看護学研究科・講師） 節原光江（大森病院・がん看護専門看護師） 黒澤亮子（大森病院・がん看護専門看護師）祖父江由紀子（大森病院・がん看護専門看護師） 堀孔美恵（大橋病院・がん看護専門看護師）勝俣範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科・教授） 根岸恵（聖隷横浜病院・がん看護専門看護師）小野寺恵子（日本医科大学武蔵小杉病院・がん看護専門看護師） 北爪麻紀（大森病院・がん放射線療法看護認定看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がん看護学特論ならびに演習での知識を統合し、がん看護領域における特殊性をふまえながら高度な実践能力を養うことができる。また、がん看護専門看護師として必要な役割（コンサルテーション、調整、倫理調整、研究、教育）を自立して行える実践能力の開発をめざす。

【３】　到達目標

1.がん患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力、予定治療の遂行に関わる臨床判断能力を習得し、ケア（care）とキュア（cure）を融合させた高度な看護実践能力について説明できる。
2.がん患者および家族あるいはがんサバイバーが、自律した、納得のいく日常生活を送ることができるような専門的な直接ケアと、施設と地域のシームレスな連携をはかる継続看護を実践することができる。
3.看護スタッフが対応困難と感じている患者や家族への看護について、コンサルテーション、倫理的調整、調整、教育などの実践活動を行うことを通して専門看護師の役割について説明できる。
4.臨床におけるがん看護の現状や教育ニーズを把握し、がん患者および家族やがんサバイバーへの看護の質向上を図るための教育や研究支援を実施することができる。
5.がん看護専門看護師として自己の専門性を発展させる領域（サブスペシャリティ）を見出し、必要な実践能力やケア開発能力について説明できる。
6.がん患者および家族やがんサバイバーに対する卓越した看護を開発していくための自身の課題を記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	1年春学期3週間2単位	1)実習施設に行き、受け持ち患者に対する直接ケアを行う。 2)看護スタッフや他職種とコミュニケーションを図る中で、がん看護専門看護師としての役割について探究する。 3)実習先：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院	村上・山下・節原・堀
2	1年秋学期3週間2単位	1)さまざまな臨床問題をもつがん患者を受け持ち、高度な直接ケアを実践する。 2)病棟カンファレンスで、受け持ち患者に対する直接ケアの内容を提示したり、看護スタッフが対応困難と感じている患者や家族への看護についてがん看護の専門的な立場から助言する機会をもつ。 3)実習先・東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院	村上・山下・節原・黒澤・堀
3	2年春学期2週間2単位	1)実際の活動場面に同行し、がん看護専門看護師としての役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）が、臨床現場において実際にどのように機能しているのか学ぶ。 2)実習先:聖隷横浜病院	村上・根岸
4	2年春学期～秋学期4週間4単位	1)継続して治療を受ける患者を受け持ち、臨床医の指導のもと、がん患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力、予定治療の遂行に関わる臨床判断能力を習得し、ケア（care）とキュア（cure）を融合させた高度な看護実践能力を開発する。 2)実習先：東邦大学医療センター大森病院、日本医科大学武蔵小杉病院	村上・山下・寺原・勝俣・小野寺・節原・祖父江・北爪

【６】　事前・事後学習とその時間

1.さまざまな臨床問題をもつがん患者および家族への看護について、臨床医およびがん看護専門看護師、教員等のスーパーバイズを受けながら多角的に検討し実践する。
2.施設で実習が不可能な社会情勢の場合には、遠隔形式をもちいて指導者および教員とディスカッションを行う。

【７】　評価方法・基準

事前課題への取り組み20%、実習への取り組み60%、レポート20%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

実習前・中・後で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

適宜紹介する。

【10】　参考書

適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

既習の特論・演習での学びや文献検討でえたエビデンスなどを統合して事前学習を丁寧に行うこと。詳細は、がん看護専門看護師高度看護実践実習実習要項を参照すること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	助産学課題実習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Practicum in Midwifery	選択	実習	2年次・通年	6単位 270時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授） 中田かおり（看護学研究科・講師）疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子 fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子　papermwdesu■gmail.com 富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおり kaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 疋田仁美　hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉　eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子 毎週月曜日10:00～11:00 松永佳子　毎週月曜日8:00～9:00 富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 中田かおり 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google class room　zoom pc

【2】　授業概要

周産期にある妊産褥婦とその家族を対象としたケアについて、文献検討を通して課題を抽出し、実習計画を立案する。立案した計画に沿ったケアを提供する。課題実習の中でデータ収集を行い、データを分析し、課題研究論文を作成する。

【3】　到達目標

1.周産期にある妊産褥婦とその家族に対する助産について、各自の関心に沿った課題に関する文献検討を行い、実習計画を立案することができる。
2.対象者に対しEvidenceに基づく助産診断および助産ケアを実施することができる。
3.課題実習を通して明らかとしたい課題を、課題研究論文として作成することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	課題の抽出を行い、実習計画を立案する。実習計画に沿って妊産褥婦または新生児を受持ち助産診断のもと助産ケアを実施する。また、実習を通して課題研究として必要なデータを収集し、データの分析後、課題研究論文を作成する。 実習を通して、多様な文化や生活環境にある女性のケアを実践することで、個別性を重視し、周産期各期に応じた質の高い管理・ケアのあり方について学ぶ。	福島・松永・富岡・青島・中田・疋田・伏見
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 周産期医療施設 診療所 助産所	福島・松永・富岡・青島・中田・疋田・伏見

【6】　事前・事後学習とその時間

対面、オンラインを活用してにて実施する。
詳細は、別途要項を参照のこと。

【７】　評価方法・基準

課題の明確化、実習計画の立案、実習への取り組み、課題研究論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。実習時間等の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

ゼミを通して、随時コメントする。

【９】　教科書

特に指定しない。

【10】　参考書

特に指定しない。

【11】　備考(関連科目等)

各指導教員のもとで、既習の特論、演習、実習での学びや文献検討で得たエビデンスなどを統合した事前学習を丁寧に行うこと。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**基礎看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing ArtsⅠ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【２】　授業概要

実践科学としての看護学の構造・看護の知の特徴についての理解を深めると共に、文献の検索・講読の方法を知り、論文をクリティカルに読む力を涵養する。文献検討を通して、関心のある看護現象の関連概念を整理し、自身のResearch questionを明確化する。

【３】　到達目標

1.看護学の発展過程、看護の知の特徴を捉え、関心のる看護やケアの現象を説明することができる。
2.自分が探求しようとする課題周辺の看護現象についての文献を分析的に読むことができる。
3.自分の実践を振り返り、自分が探求しようとする課題を明確化し、記述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護と看護科学	科目のオリエンテーション 看護・看護学・看護科学 関心のある看護の事象についての討論	菊池・小坂
2・3	「看護」、「ケア」とは	看護科学の発展過程 看護の知の特徴 「看護」・「ケア」の近似概念 看護学研究の特徴 文献の種類・文献の読み方	菊池・小坂
4～６	文献の検索方法・講読方法	文献の検索 論文の構造 論文のクリティーク 関心のある事象の記述・プレゼンテーション	菊池・小坂
7～15	文献の読み方（量的研究）	量的研究の方法 論文のクリティーク 関心のある事象の記述・プレゼンテーション	小坂
16～24	文献の検索（質的研究）	質的研究の方法 論文のクリティーク（質的記述的方法、GT、現象学的研究またはエスノグラフィーを用いた研究論文） 関心のある事象の記述・プレゼンテーション	菊池
25・26	文献検討を通したResearch Questionの創出	プレゼンテーション（関心領域の研究論文のクリティーク） 関心のある事象の記述・プレゼンテーション 関心事象の明確化	菊池・小坂
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前に準備を行って参加すること。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返りながら、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名(日本語)	**基礎看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing ArtsⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小坂　志保				
担当教員	小坂志保（看護学研究科・准教授）菊池麻由美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

・勘や経験に頼ったり、単にマニュアルやプロトコルに則るのではなく、最新のevidenceをもとに看護実践を行うことや、臨床看護師の看護研究を促進できる人材育成を目標として、自身のテーマに沿った国内外の文献を検索し、精読することによって具体的に根拠に基づく看護ケアの在り方について検討し、考察を深め他者へ効果的なプレゼンテーションができる能力を養う機会とする。
・自身の看護実践と文献検討を照らし合わせながら今後の研究テーマについて検討し、Research Questionの創出を目指す。

【３】　到達目標

・看護の現場で根拠に基づいた実践を行い、様々な看護ケアを科学的・哲学的に検証し探求することを目的として、国内外の文献を検索・検討・抄読したうえで、自身の考えを論理的に説明することができる。
・自身の看護実践をもとにテーマを創出し、看護ケアに関連する文献を分析的に読み、まとめ・プレゼンテーションすることができる。
・看護実践と文献検討から、clinical questionをresearch questionに転換し研究テーマを明確化できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	根拠に基づいた実践の導入	科目のオリエンテーション 根拠に基づいた実践(Evidence Based Practice)の紹介	菊池・小坂
2・３	根拠に基づいた実践の探求	看護実践とEvidence Based Practiceの関連について検討	菊池・小坂
４・５	文献検索方法	英語文献の文献検索方法をpubmedを用いて実践	菊池・小坂
6	プレゼンテーション方法	プレゼンテーション技法について	菊池・小坂
7	文献検索	関心ある自身のテーマに沿って関連文献の検索(量的研究)	小坂
8～13	文献検討(量的研究)	量的研究論文の精読	小坂
14・15	プレゼンテーション(量的研究)	量的研究論文について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
16	文献検索	関心ある自身のテーマに沿って関連文献の検索(質的研究)	菊池
17～22	文献検討(質的研究)	質的研究論文の精読	菊池
23・24	プレゼンテーション(質的研究)	質的研究論文について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
25	Clinical question から Research questionへの転換	文献検討を通して、Clinical QuestionからResearch Questionへの転換を行う	菊池・小坂
26	Research Questionの創出	自身の研究テーマとなるResearch questionを見出す	菊池・小坂
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。
あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

科目名(日本語)	**基礎看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing Arts Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）渡邉奈穂（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	授業開講日13:00～17:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【２】　授業概要

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマで参与観察・インタビューを計画、実施し、その結果に基づき関心テーマについて考察する。看護職者の実践や経験に関する質的データの収集方法を演習する。

【３】　到達目標

看護の本質や看護職者の生成と発達に焦点を当てた先行研究を多角的に検討し、看護職者の実践や経験を対象として研究する方法を修得する。
各自の看護実践を振り返ることで見出した関心テーマについてのインタビュー、参与観察を行い、看護職者の実践や経験を記述する方法を身につける。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	科目のオリエンテーション 質的研究方法におけるデータ収集と演習の方法	菊池・小坂・渡邉
2・３	質的研究の方法	研究デザインと哲学 データ分析方法	菊池・小坂・渡邉
４～６	データ収集方法	アンケート インタビュー 参与観察	菊池・小坂・渡邉
7～12	データ収集演習の準備	演習の依頼方法 計画書・依頼書・同意説明書・同意書・同意撤回書作成 演習依頼	菊池・小坂・渡邉
13～18	データ収集演習	インタビューまたは参与観察の実施	菊池・小坂・渡邉
19～21	データの作成	逐語録または参与観察記録の作成	菊池・小坂・渡邉
22～26	データの分析・プレゼンテーション	データの分析 演習成果の報告	菊池・小坂・渡邉
27	まとめ	演習総括	菊池・小坂・渡邉

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
各自の関心に沿って進める。臨床における参与観察・インタビューに基づいて演習する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

ホロウェイ　ウィーラー、野口道子訳、ナースのための質的研究入門、医学書院

【10】　参考書

別途、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名(日本語)	**基礎看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing ArtsⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）渡邉奈穂（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	事業開講日13:00～17:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

看護職者の実践や経験に関する質的データの分析方法を演習する。各自の看護実践や関心に沿ってテーマを設定し、実際に調査を行い、得られたデータの分析、分析結果の報告を行うことで、課題の明確化および研究方法の修得の機会とする。

【３】　到達目標

看護職者の実践や経験について実際の調査する演習を通して、各自の研究課題を明らかにする。
各自の関心に沿って選択したテーマに即してデータを収集し、そのデータを分析する。
分析結果に基づいて、各自の関心に即した特定の実践や経験について検討する。
これらを通して、質的データの分析方法を修得する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション 質的なデータの分析方法と演習方法	菊池・小坂・渡邉
2・３	データ分析方法	質的記述的方法・GT・GTA・現象学的アプローチ	菊池・小坂・渡邉
４～６	データ作成	逐語録作成	菊池・小坂・渡邉
７～9	データ分析①	データの切片化	菊池・小坂・渡邉
10～15	データ分析②	データのコード化	菊池・小坂・渡邉
16～21	データ分析③	データのカテゴリー化 ネーミング	菊池・小坂・渡邉
22～24	データ分析④	俯瞰図の作成	菊池・小坂・渡邉
25・26	プレゼンテーション	演習成果の報告	菊池・小坂・渡邉
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂・渡邉

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
演習の成果を研究計画書の形でまとめる。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

ホロウェイ　ウィーラー、野口道子訳、ナースのための質的研究入門、医学書院

【10】　参考書

別途、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

2022年度

科目名(日本語)	**看護技術特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing ArtsⅠ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

自らが関心のある看護現象をとらえるために、周辺領域の知、看護における知を概観する。授業での検討により、各自が関心のある看護の現象に潜む特徴や課題を明確化するとともに、関心のある看護現象の関連概念の整理をする。新しい知見を導き出すための文献検討の能力を養う機会とする。

【３】　到達目標

看護学の発展過程、看護の知の特徴を捉え、関心のる看護やケアの現象を説明することができる。
看護のについての文献を分析的に読むことができる。
自分の実践を振り返り、自分が探求しようとする課題を明確化し、記述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	「看護」、「ケア」とは	看護科学の発展過程 「看護」、「ケア」の近似概念 看護の知の特徴 看護学研究の特徴 関心のある看護の事象についての討論	菊池
2	文献の読み方①	文献の検索 文献の種類・文献の読み方 論文の構造	菊池
3	文献の読み方②	論文のクリティーク	菊池
4	文献の読み方③	サブトラクション	菊池
5	文献の検索	関心のある看護の事象を明確化し、関連する先行研究を検索する	菊池
6	文献の検索	関心のある看護の事象を明確化し、関連する先行研究を検索する 読むべき論文を選択する	菊池
7	文献検討	論文①・② 実存主義的な研究方法による研究論文 実証主義的な研究方法による研究論文	菊池
8	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文③ 論文の構造を読み取る 論文の内容を読み取る クリティーク	菊池
9	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文④ 研究の方法	菊池
10	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文⑤ 研究疑問と研究結果	菊池
11	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文⑥ 質的な研究で明らかになる研究課題、明らかにできない研究課題	菊池
12	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文⑦ 論文の一貫性 サブトラクションシートを用いた文献クリテーク	菊池
13	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文⑧ 研究課題と研究方法 サブトラクションシートを用いた文献クリテーク	菊池
14	質的研究方法を用いた論文の抄読	論文⑨ 研究課題と研究方法 サブトラクションシートを用いた文献クリテーク	菊池
15	まとめ	授業の総括 各自の課題の明確化	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進める。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返りながら、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

2022年度

科目名(日本語)	**看護技術特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing ArtsⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）岡本恵子（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

看護職者の生成と発達とそれを支援することに関連する理論を精読し、看護職者となり発達し続けること、それを支援することについての考察を深める。授業での検討により、各自が関心のある看護の現象に潜む特徴や課題を明確化するとともに、関心のある看護現象の関連概念の整理をする。新しい知見を導き出すための文献検討の能力を養う機会とする。

【３】　到達目標

対人援助職、とりわけ看護職者の生成と発達とそれを支援すること、およびそれを支援することについて探求し、自分の考えを論理的に説明することができる。
看護職の生成と発達、看護教育に関する文献を分析的に読むことができる。
自分の実践を振り返り、自分が探求しようとする課題を明確化し、記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護職者の生成と発達	科目のオリエンテーション 看護職者の生成と発達についての近似概念 事象を記述する方法 看護職者の生成と発達、およびその支援に関連する、関心のある事象についてのプレゼンテーション 看護職者の生成と発達、およびその支援に関連する討議	菊池
2	看護職者の生成と発達	「ベナー看護論」抄読	菊池・岡本
3	看護職者の生成と発達	「ベナー看護論」抄読	菊池・岡本
4	看護職者の生成と発達	「ベナー看護論」抄読	菊池・岡本
5	看護職者の生成と発達	「ベナー看護論」抄読	菊池・岡本
6	看護職者の生成と発達	「ベナー　ナースを育てる」抄読 正統的周辺参加理論	菊池・岡本
7	看護職者の発達への支援	「ベナー　ナースを育てる」抄読	菊池・岡本
8	護職者の発達への支援	「ベナー　ナースを育てる」抄読	菊池・岡本
9	護職者の発達への支援	「ベナー　ナースを育てる」抄読	菊池・岡本
10	文献の検索	関心のある看護の事象を明確化し、関連する先行研究を検索する 読むべき論文を選択する	菊池
11	文献検討	論文①	菊池
12	文献検討	論文②	菊池
13	文献検討	論文③	菊池
14	文献検討	論文④	菊池
15	まとめ	授業の総括	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進める。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。
あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

2022年度

科目名(日本語)	**看護技術演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing ArtsⅠ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）岡本恵子（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマで参与観察・インタビュー・質問紙調査を計画、実施し、その結果に基づき関心テーマについて考察する。看護職者の実践や経験に関する質的データの収集方法を演習する。

【３】　到達目標

看護の本質や看護職者の生成と発達に焦点を当てた先行研究を多角的に検討し、看護職者の実践や経験を対象として研究する方法を修得する。各自の看護実践を振り返ることで見出した関心テーマについてのインタビュー、参与観察を行い、看護職者の実践や経験を記述する方法を身につける。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	科目のオリエンテーション 質的研究方法におけるデータ収集と演習の方法	菊池・岡本
2	テーマの絞込①	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池・岡本
3	テーマの絞込②	文献検討	菊池・岡本
4	テーマの絞込③	文献検討結果報告、討議	菊池・岡本
5	演習計画の立案①	対象者の絞込、参加協力の依頼、インタビューガイド作成	菊池・岡本
6	データ収集演習①	インタビューによるデータ収集	菊池・岡本
7	データ収集演習②	インタビューによるデータ収集	菊池・岡本
8	データ分析演習①	逐語録の作成	菊池・岡本
9	データ分析演習②	逐語録の分析	菊池・岡本
10	演習計画の立案②	参与観察計画の作成	菊池・岡本
11	データ収集演習③	参与観察によるデータ収集	菊池・岡本
12	データ収集演習④	参与観察によるデータ収集	菊池・岡本
13	データ収集演習⑤	参与観察によるデータ収集	菊池・岡本
14	データ分析演習③	フィールドノーツの作成	菊池・岡本
15	データ分析演習④	フィールドノーツの分析	菊池・岡本

【６】　事前・事後学習とその時間

各自の関心に沿って進める。臨床における参与観察・インタビューに基づいて演習する。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

別途、提示する。

【10】　参考書

別途、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

2022年度

科目名(日本語)	**看護技術演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing ArtsⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）岡本恵子（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

看護職者の実践や経験に関する質的データの分析方法を演習する。各自の看護実践や関心に沿ってテーマを設定し、実際に調査を行い、得られたデータの分析、分析結果の報告を行うことで、課題の明確化および研究方法の修得の機会とする。

【３】　到達目標

看護職者の実践や経験について実際の調査する演習を通して、各自の研究課題を明らかにする。各自の関心に沿って選択したテーマに即してデータを収集し、そのデータを分析する。分析結果に基づいて、各自の関心に即した特定の実践や経験について検討する。これらを通して、質的データの分析方法を修得する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション 質的なデータの分析方法と演習方法	菊池・岡本
2	演習計画立案①	演習テーマの検討	菊池・岡本
3	演習計画立案②	データ収集・分析方法の検討	菊池・岡本
4	データ収集①	テーマに沿ったデータ収集①	菊池・岡本
5	データ収集②	テーマに沿ったデータ収集②	菊池・岡本
6	データ収集③	テーマに沿ったデータ収集③	菊池・岡本
7	データ分析①	収集したデータの分析①	菊池・岡本
8	データ分析②	収集したデータの分析②	菊池・岡本
9	データ分析③	収集したデータの分析③	菊池・岡本
10	データ分析④	収集したデータの分析④	菊池・岡本
11	データ分析⑤	分析結果に基づく検討	菊池・岡本
12	データ分析⑥	分析結果に基づく検討	菊池・岡本
13	演習まとめ	演習成果を報告する	菊池・岡本
14	質的な研究方法①	質的なデータの分析の方法：手順と意味①	菊池・岡本
15	質的な研究方法②	質的なデータの分析の方法：手順と意味②	菊池・岡本

【６】　事前・事後学習とその時間

演習の成果を研究計画書の形でまとめる。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

別途、提示する。

【10】　参考書

別途、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）中田かおり（看護学研究科・講師） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00 松永佳子毎週月曜日8:00～9:00 富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 渡邉幸恵				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom

【２】　授業概要

性と生殖、特に周産期における研究の動向やケアの在り方を追求する。周産期に関連する分野の研究内容を解釈し評価する。また、周産期に関わる専門職としての助産師教育のあり方について探究する。

【３】　到達目標

1. リプロダクティブヘルス/ライツの理念および性と生殖に関する理論や概念について説明できる。
2. 母性・助産領域における様々な身体的・心理社会的健康問題に関する研究課題を文献的に考察し、説明できる。
3. 女性が安全で快適な妊娠・出産を体験できるための支援方策を具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	性と生殖に関する概念	リプロダクティブヘルスの概念とわが国の現状	福島
2	研究の動向①	生殖と健康に関する研究の動向①	松永
3	研究の動向①	生殖と健康に関する研究の動向②	松永
4	研究の動向②	母性看護・助産活動と研究①	松永
5	研究の動向②	母性看護・助産活動と研究②	松永
6	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価①	松永
7	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価②	松永
8	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価③	松永
9	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価④	松永
10	妊娠期の助産師の役割	妊娠期の助産師の関わり、助産師外来の評価①	福島
11	妊娠期の助産師の役割	妊娠期の助産師の関わり、助産師外来の評価②	福島
12	院内助産での助産師の役割	院内助産での助産師の役割、関係者との連携①	松永・富岡・中田・渡邉
13	院内助産での助産師の役割	院内助産での助産師の役割、関係者との連携②	松永・富岡・中田・渡邉
14	分娩期の助産師の役割①	分娩期の助産師の関わり、よいお産とは①	松永・富岡・中田・渡邉
15	分娩期の助産師の役割①	分娩期の助産師の関わり、よいお産とは②	松永・富岡・中田・渡邉
16	分娩期の助産師の役割②	分娩の安全・安心・安楽の調和と助産師の役割①	松永・富岡・中田・渡邉
17	分娩期の助産師の役割②	分娩の安全・安心・安楽の調和と助産師の役割②	松永・富岡・中田・渡邉
18	産褥期の助産師の役割	産褥期の助産師の関わり①	松永・富岡・中田・渡邉
19	産褥期の助産師の役割	産褥期の助産師の関わり②	松永・富岡・中田・渡邉
20	不妊カップルのケア	不妊の現状とカップルに対するケア①	富岡
21	不妊カップルのケア	不妊の現状とカップルに対するケア②	富岡
22	支援に関連する概念	ソーシャルサポート	松永
23	支援に関連する概念	エンパワーメント	松永
24	産後うつ	産後うつの早期発見と予防①	中田
25	産後うつ	産後うつの早期発見と予防②	中田
26	切れ目のない支援	切れ目のない支援とは	福島
27	専門職育成	周産期における専門職の育成	福島

【6】　事前・事後学習とその時間

課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。
対面形式にて実施する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題に対する取り組みと授業への参加30%、レポート70%にて総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって、評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【9】　教科書

課題にそって授業開始時に提示する。

【10】　参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Reproductive Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）中田かおり（看護学研究科・講師） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子 fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子　papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおり kaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵 疋田仁美　hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉　eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子 毎週月曜日　10:00～11:00 松永佳子　毎週月曜日　8:00～9:00 富岡由美　毎週月曜日　10:00～11:00 中田かおり 毎週月曜日　12:00～13:00 渡邉幸恵 疋田仁美　毎週月曜日　12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日　12:00～13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【2】　授業概要

少子社会と出産・育児の問題、若者の性行動と性感染症の問題、生殖医療の発達とそれに伴う問題、中高年の健康問題など今日的な課題について概観する。受講生が自ら関心のある領域の課題を追究できるように進める。

【3】　到達目標

1. 母性、助産、性と生殖などの中から各自の関心のある領域やテーマの研究論文を検索し、最近の研究動向や話題について説明できる。
2. 研究論文の研究デザインや研究方法等を信頼性・妥当性の見地からクリティークすることを試みることができる。
3. クリティークのプロセスを通じて、各自が関心のある領域の課題を明確にし、自己の研究課題を述べることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	研究計画①	研究方法の概要、研究論文の構成①	松永
2	研究計画②	研究方法の概要、研究論文の構成②	松永
3	文献検討①	文献検討の意義、文献検討の方法①	松永
4	文献検討②	文献検討の意義、文献検索の方法②	松永
5	研究の動向①	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について①	福島
6	研究の動向②	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について②	福島
7	研究の動向③	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について③	福島
8	論文のクリティーク①	量的研究論文のクリティーク①	富岡
9	論文のクリティーク②	量的研究論文のクリティーク②	富岡
10	論文のクリティーク③	質的研究論文のクリティーク①	松永
11	論文のクリティーク④	質的研究論文のクリティーク②	松永
12	研究倫理	研究倫理	富岡
13	クリティークの実際①	課題についてのクリティーク①	富岡
14	クリティークの実際②	課題についてのクリティーク②	富岡
15	クリティークの実際③	各自の関心領域についてのプレゼンテーション①	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
16	クリティークの実際④	各自の関心領域についてのプレゼンテーション②	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
17	クリティークの実際⑤	各自の関心領域についてのプレゼンテーション③	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
18	クリティークの実際⑥	各自の関心領域についてのプレゼンテーション④	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
19	クリティークの実際⑦	各自の関心領域についてのプレゼンテーション⑤	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
20	研究課題の探求①	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
21	研究課題の探求②	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）①	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
22	研究課題の探求③	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）②	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
23	研究課題の探求④	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）③	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
24	研究課題の探求⑤	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）④	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
25	研究課題の探求⑥	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）⑤	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
26	研究課題の探求⑦	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）⑥	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
27	研究課題の探求⑧	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等⑦	福島・松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
講義およびゼミナール方式。課題に対して学生各自が個人ワークをして、その内容をプレゼンテーションする。そして、発表内容に関して全員でディスカッションし、学習を深める。対面形式にて実施する。

【７】　評価方法・基準
授業およびディスカッションへの取り組み(20%)、課題のプレゼンテーション(50%)、レポート(30%)で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、講評および解説する。授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法
個人ワーク、プレゼンテーションに際して、フィードバックやアドバイスを行う。

【９】　教科書
テキストは使用しない

【10】　参考書
以下の図書が参考になる。
1) 高木廣文、林邦彦「エビデンスのための看護研究の読み方・進め方」中山書店・2006年
2) 北素子、谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」医学書院・2009年
3) スー・プロクター、メアリー・レンフルー著、前原澄子訳「助産学研究入門エビデンスにもとづく実践をめざして」医学書院・2003年
4) ナンシー・バーンズ、スーザン･K･グローブ著、黒田裕子・中木高夫・小田正枝・逸見功監訳「看護研究入門」エルゼビア・ジャパン・2015年(第7版)

【11】　備考(関連科目等)
自らの関心のあるテーマについて、基本的な知見を広めておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Reproductive Health NursingⅡ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）中田かおり（看護学研究科・講師） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子 fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子　papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおり kaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵 疋田仁美　hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉　eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00 松永佳子　毎週月曜日 8:00～ 9:00 富岡由美　毎週月曜日 10:00～11:00 中田かおり 毎週月曜日 12:00～13:00 渡邉幸恵 疋田仁美　毎週月曜日 12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日 12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

女性のライフサイクルにおける健康課題と支援の方向を学ぶ。
性教育、出生前教育、月経教育などに対する教育プログラムを作成する。

【３】　到達目標

1. 学童期から更年期・老年期の女性がもつ健康問題や性と生殖に関する諸問題について分析検討し、援助のあり方を説明できる。
2. ヘルスプロモーション理論に沿って、学童期から成熟期、更年期・老年期の女性を対象にした健康教育プログラムを作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	女性の健康課題	女性のライフサイクルと健康課題	福島
2	性の成熟過程と避妊教育①	避妊、受胎調節法に関する国際的動向①	福島
3	性の成熟過程と避妊教育②	避妊、受胎調節法に関する国際的動向②	福島
4	様々な国の性教育①	性教育（避妊・受胎調節）に関する教育の国際比較①	福島
5	様々な国の性教育②	性教育（避妊・受胎調節）に関する教育の国際比較②	福島
6	避妊教育プログラム①	低容量ピルとコンドーム教育プログラム①	福島
7	避妊教育プログラム②	低容量ピルとコンドーム教育プログラム②	福島
8	性の成熟過程と性感染症予防教育①	我が国の現状と国際比較①	福島
9	性の成熟過程と性感染症予防教育②	我が国の現状と国際比較②	福島
10	女性の生涯を通した健康の保持増進①	思春期から更年期の健康教育①	福島
11	女性の生涯を通した健康の保持増進②	思春期から更年期の健康教育②	福島
12	健康教育の見学①	助産師が行う性教育・出産準備教育の見学①	富岡
13	健康教育の見学②	助産師が行う性教育・出産準備教育の見学②	富岡
14	健康教育の見学③	助産師が行う性教育・出産準備教育の見学③	富岡
15	健康教育の見学⑤	助産師が行う性教育・出産準備教育の見学①	富岡
16	健康教育の技法①	カウンセリングの実際①	福島
17	健康教育の技法②	カウンセリングの実際②	福島
18	健康教育の技法③	カウンセリングの実際③	福島
19	健康教育の企画と実際①	健康教育プログラムの作成　性教育①	中田
20	健康教育の企画と実際②	健康教育プログラムの作成　性教育②	中田
21	健康教育の企画と実際③	健康教育プログラムの作成　性教育③	中田
22	健康教育の企画と実際④	健康教育プログラムの作成　性教育④	松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
23	健康教育の企画と実際⑤	健康教育プログラムの作成　出産前教育①	中田
24	健康教育の企画と実際⑥	健康教育プログラムの作成　出産前教育②	中田
25	健康教育の企画と実際⑦	健康教育プログラムの作成　出産前教育③	中田
26	健康教育の企画と実際⑧	健康教育プログラムの作成　出産前教育④	中田
27	健康教育の企画と実際⑨	健康教育プログラムの作成　出産前教育⑤	松永・富岡・中田・渡邉・疋田・伏見

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
課題に基づくゼミナール形式で議論を行う。健康教育の実施、関連学会への参加とレポートの提出をする。
対面形式にて実施する。

【7】　評価方法・基準

授業およびディスカッションへの取り組み（20%）、教育プログラムの成果（50%）、関連学会に参加したレポート（30%）で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

健康教育プログラムの作成プロセスにおいて、フィードバックや助言を行う。

【９】　教科書

課題にそって授業開始時に提示する。

【10】　参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**助産学特論Ⅰ（助産学概論）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Midwifery Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）富岡由美（看護学研究科・准教授） 竹下直樹（佐倉病院・教授）日色雄一（日色鍼灸院・院長）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00 富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 竹下直樹授業修了後に質問を受け付ける。 日色雄一授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

講義とグループワークを中心に展開する。助産の基本的概念を中心に、助産の変遷、助産師教育の在り方など、広く今日の助産師のもつ課題を追求する、助産師としてのアイデンティティを獲得するためのコアとなる科目である。

【３】　到達目標

1.助産学における基本概念（助産や対象）、助産の変遷と現状、助産師の責任と役割、医療・保健チームの中での協働、社会的意義について説明できる。
2.母子保健の変遷とこれからの助産師の役割について考察し、助産学の位置付けやこれからの助産師の課題を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産の定義	オリエンテーション・助産の狭義・広義の定義	富岡
2	助産の概念	助産の概念（意義・助産援助のあり方）	福島
3	助産の歴史と文化①	社会の変化と助産の歴史について①	福島
4	助産の歴史と文化②	社会の変化と助産の歴史について②	福島
5	助産の歴史と文化③	助産の歴史と文化①	福島
6	助産の歴史と文化④	助産の歴史と文化②	福島
7	助産における専門性①	助産師の声明、綱領について	富岡
8	助産における専門性②	助産師に必要な倫理について	富岡
9	助産師教育①	助産師の教育について	富岡
10	助産師教育②	助産師の到達目標	富岡
11	母子保健と基盤施策①	健やか親子21について、子育て世代包括支援センターについて	富岡
12	母子保健と基盤施策②	母子保健施策の現状について	富岡
13	母子保健の現状について①	助産所の母子保健に対する支援について	富岡
14	母子保健の現状について②	助産所の母子保健に対する支援について（フィールドワーク）①	富岡
15	母子保健の現状について③	助産所の母子保健に対する支援について（フィールドワーク）②	富岡
16	母子保健の現状について④	助産所の母子保健に対する支援について（フィールドワーク）③	富岡
17	性・生殖と人権①	リプロダクティブ・ヘルスについて	富岡
18	性・生殖と人権②	助産とインフォームド・コンセントについて	富岡
19	出産に関する生命倫理①	助産と生命倫理について	竹下
20	出産に関する生命倫理②	出産前診断について	竹下
21	東洋医学①	助産と東洋医学①	福島
22	東洋医学②	助産と東洋医学②	福島
23	東洋医学③	助産と東洋医学③	日色
24	東洋医学④	助産と東洋医学④	日色
25	東洋医学⑤	助産と東洋医学⑤	日色
26	東洋医学⑥	助産と東洋医学⑥	日色
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

講義やグループワークそれに基づくプレゼンテーションを行う。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーション40%、レポート40%、ディスカッション20%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーション、ディスカッションについては授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートは講評・解説し、Active Academyに掲示する。授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【9】　教科書

1)我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座1基礎助産学［1］助産学概論」医学書院,2022年（第6版）
2)三砂ちづる編,「科学的根拠から考える　助産の本質」南山堂,2021年（第1版）

【10】　参考書

必要に応じて、随時参考図書を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ資料を取り寄せ予習をしておくこと。
授業は遠隔と対面形式にて実施する。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅲ（分娩期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅢ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）中田雅彦（大森病院・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵毎週月曜日12:00～13:00 中田雅彦授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

分娩期の助産診断に必要な産科学をはじめ、分娩の3要素が分娩進行に与える影響と、3要素の相互関係について理解を深め、助産診断に必要な理論を習得できるよう進める。また、産婦とその家族に対し、分娩各期の具体的ケアについて教授する。

【３】　到達目標

1、分娩の機序やフィジカルアセスメント法を理解したうえで助産過程を展開することができる。
2、助産診断のもと、産婦とその家族に対して安全で適切な援助の方法を述べることができる。
3、分娩時の異常や産科救急の処置について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩の定義、分娩の3要素	分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道）①	富岡
2	分娩の3要素	分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道）②	富岡
3	分娩の機序	陣痛発来から分娩終了までの機序①	富岡
4	分娩の機序	陣痛発来から分娩終了までの機序②	富岡
5	分娩の機序	陣痛発来から分娩終了までの機序③	富岡
6	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査①	富岡
7	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査②	富岡
8	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査③	富岡
9	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査④	富岡
10	分娩期の異常	分娩3要素の異常①	中田
11	分娩期の異常	分娩3要素の異常②	中田
12	分娩時の異常	分娩に伴う偶発疾患・合併症①	中田
13	分娩時の異常	分娩に伴う偶発疾患・合併症②	中田
14	分娩時の異常	産科救急（産科出血・産科ショック）①	中田
15	分娩時の異常	産科救急（産科出血・産科ショック）②	中田
16	分娩経過の診断	CTGの判読①	中田
17	分娩経過の診断	CTGの判読②	中田
18	分娩の経過診断	分娩期の診断と経過予測①	富岡
19	分娩の経過診断	分娩期の診断と経過予測②	富岡
20	分娩期の助産過程①	分娩期の助産診断とケア①	渡邉
21	分娩期の助産過程②	分娩期の助産診断とケア②	渡邉
22	分娩期の助産過程③	分娩期の助産診断とケア③	渡邉
23	分娩期の助産過程④	分娩期の助産診断とケア④	渡邉
24	分娩期の助産過程⑤	分娩期の助産診断とケア⑤	渡邉
25	分娩期の助産過程⑥	分娩期の助産診断とケア⑥	渡邉
26	分娩期の助産過程⑦	分娩期の助産診断とケア⑦	渡邉
27	まとめ	授業内容のまとめ	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

講義および提示した課題に対しプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。事前に提示した課題を行い、講義に参加すること。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

グループワークを含む講義への取り組み（10%）、筆記試験（中間テスト含む）（70%）、課題（20%）から総合的に評価する。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

課題については授業内で講評し返却する。グループワークは授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、授業内で解答に対する解説を行う。

【9】　教科書

1)我部山キヨ子, 藤井知行編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院, 2022年(第6版)
2)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局, 2020年

【10】　参考書

1）進純郎／堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院,2010年
2）町浦美智子「助産学実習プレブック―助産過程の思考プロセス」医歯薬出版株式会社,2015年
3）日本助産診断・実践研究会「実践 マタニティ診断」医学書院,2021年(第5版)

【11】　備考(関連科目等)

・母性看護学（分娩期）の復習をして臨むこと。
・DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助,村上明美医歯薬出版.仰臥位分娩を視聴すること。
・講義は対面と遠隔で行い、事前に通知をする。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅳ（産褥期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅣ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島富士子				
担当教員	松永佳子（看護学研究科・准教授）、中田かおり（看護学研究科・講師）、野田玲穂（大森病院・助産師）、杜裕美（大森病院・助産師）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 野田玲穂 杜裕美 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	松永佳子毎週月曜日：8:00～9:00 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 野田玲穂授業修了後に質問を受け付ける。 杜裕美授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom　PC

【２】　授業概要

講義の他に、事例を用いたグループワーク形式ですすめる。各種ガイドラインを参照し、身体、心理、社会的側面のスタンダードケアについて検討できる思考が身につくことを目指すため予習が不可欠である。乳房管理については、エキスパートによる講義と演習を実施する。

【３】　到達目標

1.産褥期にある女性の身体的、心理的、社会的変化を理解し、産褥期の女性及び家族のアセスメントを行い、根拠に基づく助産過程を展開できる。
2.産褥期にある女性やその家族に対する健康相談・教育・支援の計画立案ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩後2時間まで経過とケア①	分娩後2時間までの助産診断とケア：正常経過（事例からケアを考える）	松永
2	分娩後2時間までの経過とケア②	分娩後2時間までの助産診断とケア：異常経過（事例からケアを考える）	松永
3	産褥期の生殖器の解剖・生理	生殖器と他臓器との位置関係・血管の走行、ホルモン	松永
4	産褥期の乳房の解剖・生理	乳房の解剖と他臓器と位置関係・血管とリンパの走行、ホルモン	松永
5	産褥期の社会・心理（女性）	産褥期の女性の社会・心理の特徴	松永
6	産褥期の社会・心理（家族）	産褥期の家族の心理	松永
7	産褥期の異常とケア①	産褥期の異常とケア（身体）	松永
8	産褥期の異常とケア②	産褥期の異常とケア（精神）	松永
9	不快症状の緩和のためのケア	不快症状の緩和のためのケア	松永
10	母親役割獲得過程と支援	母親役割獲得過程と支援	松永
11	グリーフケア①	グリーフケアとは	松永
12	グリーフケア②	対象の理解	松永
13	産後2週間健康診査	産後2週間健康診査での診断と支援	松永
14	産後１か月の健康診査	産後１か月の健康診査での診断と支援	松永
15	産褥期の助産診断とケア①	産褥期の助産診断とケア事例の紹介	中田
16	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開①	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開① 経過診断と支援	中田
17	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開②	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開② 日常生活行動/社会心理状態の診断と支援	中田
18	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開③	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開③ 育児（母乳）の診断と支援	中田
19	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開④	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開の発表	中田
20	乳房管理（１）	ラクテーションコンサルタント（新生児の立場から）	野田
21	乳房管理（2）	ラクテーションコンサルタント（母の立場から）	朴
22	乳房管理（3）	特別の支援を要する事例の支援	松永
23	乳房管理（4）	就業を見据えた母乳育児の支援	中田
24	産後の家族計画指導①	産後の家族計画指導の概要	松永
25	産後の家族計画指導②	産後の家族計画指導案の立案	松永
26	産後の家族計画指導③	産後の家族計画指導案の発表	松永
27	まとめ	講義のまとめをおこなう	松永

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【7】　評価方法・基準

授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
講義時間の試験（50%）、グループワーク（助産過程および保険指導案）（25%：ルーブリック）、プレゼンテーション内容（25%：ルーブリック）で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【９】　教科書

1)我部山キヨ子, 藤井知行編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院・2021年　第6版
2)日本助産診断・実践学会「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2020年　第6版
3)日本助産診断・実践学会編「実践マタニティ診断」医学書院・2021年　第5版
4)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・2020年

【10】　参考書

随時紹介する

【11】　備考(関連科目等)

母性看護学（産褥期）を修得していることを前提に講義・演習を行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅵ(乳幼児の成長発達と育児支援)	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅥ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授） 髙月晋一（大森病院・准教授）松岡正樹（大森病院・助教） 濱崎祐子(大森病院・准教授）早乙女壮彦（大森病院・助教） 中田かおり（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおり kaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 髙月晋一 松岡正樹 濱崎祐子 早乙女壮彦 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 中田かおり　毎週月曜日11：00～12：00 髙岡晋一　授業終了後に質問を受け付ける 松岡正樹　授業終了後に質問を受け付ける 濱崎祐子　授業終了後に質問を受け付ける 早乙女壮彦　授業終了後に質問を受け付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

乳幼児の健全な心身の発育・発達過程とその特徴について講義を通して教授する。また、子どもを取り巻く環境を知り、成長発達に影響を及ぼす因子についてアセスメントできるように事例を通した学習をすることになるので、主体的な参加を求める。

【３】　到達目標

1. 乳幼児期の成長・発達について、身体的・心理的・社会的、生活という視点から説明できる。
2. 乳幼児を持つ家族の健康の保持増進のための相談・教育・援助活動について、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	乳幼児への保健対策①	乳幼児への保健対策の現状と課題①	富岡
2	乳幼児への保健施策②	乳幼児への保健対策の現状と課題②	富岡
3	乳幼児の成長・発達①	乳幼児の成長・発達①	濱崎
4	乳幼児の成長・発達②	乳幼児の成長・発達②	濱崎
5	乳幼児の成長・発達③	乳幼児の成長・発達③	早乙女
6	乳幼児の成長・発達④	乳幼児の成長・発達④	早乙女
7	乳幼児健康診査とスクリーニング、乳幼児の疾患①	乳幼児健康診査とマススクリーニング、乳幼児の循環器疾患①	髙月
8	乳幼児健康診査とスクリーニング、乳幼児の疾患②	乳幼児健康診査とマススクリーニング、乳幼児の循環器疾患②	髙月
9	感染症と予防接種、乳幼児の疾患①	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患①	松岡
10	感染症と予防接種、乳幼児の疾患②	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患②	松岡
11	乳幼児の生活と環境①	乳幼児の健康的な生活と環境①	富岡
12	乳幼児の生活と環境②	乳幼児の健康的な生活と環境②	富岡
13	幼児の事故防止①	幼児に起こりやすい事故とその予防①	富岡
14	幼児の事故防止②	幼児に起こりやすい事故とその予防②	富岡
15	子ども虐待の予防①	子ども虐待の現状と課題①	中田
16	子ども虐待の予防②	子ども虐待の現状と課題②	中田
17	子ども虐待の予防③	子ども虐待の現状と課題③	中田
18	子ども虐待の予防④	子ども虐待の現状と課題④	中田
19	乳幼児の栄養の食生活①	乳幼児の栄養の特徴と食生活における課題①	中田
20	乳幼児の栄養の食生活②	乳幼児の栄養の特徴と食生活における課題②	中田
21	乳幼児の栄養の食生活③	乳幼児の栄養と食生活　調理演習（離乳食）①	中田
22	乳幼児の栄養の食生活④	乳幼児の栄養と食生活　調理演習（離乳食）②	中田
23	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育①	3～4か月乳児健康診査とケア	中田
24	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育②	5～6か月乳児健康診査とケア	中田
25	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育③	乳幼児と家族に対する助産過程の展開①	中田
26	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育④	乳幼児と家族に対する助産過程の展開②	中田
27	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育⑤	乳幼児と家族に対する助産過程の展開③	中田

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
各分野の専門職者の講義と事例を用いたグループワーク形式ですすめる。対面形式にて実施する。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（30%）、課題への参加態度（30%）、課題の評価（40%）を総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
試験については、結果を提示し設問について解説する。

【8】　フィードバック方法

グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う

【9】　教科書

1）石井邦子、廣間武彦編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］新生児期・乳幼児期」医学書院・2021年（第6版）
2）日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

1）仁志田博司編集「新生児学入門」　医学書院・2019年（第5版）
2）水野克己「お母さんがもっと元気になる乳児健診 - 健診を楽しくすすめるエビデンス&テクニック」メディカ出版・2015年
3）福岡地区小児科医会　乳幼児保健委員会　乳幼児健診マニュアル　医学書院・2016年

【11】　備考(関連科目等)

小児看護学で学習した、乳幼児期に特有な成長・発達について復習しておくこと。原則対面授業とするが、状況により遠隔授業を行う際は、事前に通知する。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅶ（コミュニティヘルス論）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅦ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00 松永佳子毎週月曜日8:00～9:00 富岡由美毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom、Zoom、VR

【２】　授業概要

国内外の文献や地域母子保健活動の実践を通して、コミュニティのケアに関する理論や支援方法について教授する。

【３】　到達目標

1. 地域母子保健の現状と動向を踏まえ、ヘルスプロモーションに基づく効果的な地域母子保健活動を展開するための理論について説明することができる。
2. コミュニティにおける母子保健、女性の健康を推進するための助産師の役割について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	地域母子保健の現状と動向	母子保健における地域とは	福島
2	地域母子保健の現状と動向	日本における地域母子保健活動の歴史①	福島
3	地域母子保健の現状と動向	日本における地域母子保健活動の歴史②	福島
4	地域母子保健の現状と動向	地域母子保健活動に関する機関・人材①	福島
5	地域母子保健の現状と動向	地域母子保健活動に関する機関・人材②	福島
6	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法について①	福島
7	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法について②	福島
8	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法について③	福島
9	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法について④	福島
10	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法の実践	富岡
11	コミュニティのケア	感染隔離中の母子の訪問（VR）①	渡邉
12	コミュニティのケア	感染隔離中の母子の訪問（VR）②	渡邉
13	コミュニティのケア	感染隔離中の母子の訪問（VR）③	渡邉
14	母子保健の諸問題	国際比較からみた母子保健の諸問題①	富岡
15	母子保健の諸問題	国際比較からみた母子保健の諸問題②	富岡
16	地域母子保健活動	地域母子保健活動の実際①ひまわりの会	松永
17	地域母子保健活動	地域母子保健活動の実際②ひまわりの会	松永
18	地域母子保健活動	地域母子保健活動の実際③	福島
19	地域母子保健における支援	地域母子保健における助産師の役割①	福島
20	地域母子保健における支援	地域母子保健における助産師の役割②	福島
21	地域母子保健における支援	地域母子保健における助産師の役割③	福島
22	地域母子保健における支援	地域母子保健における助産師の役割④	福島
23	周産期の支援	行政からの周産期の支援①	福島
24	周産期の支援	行政からの周産期の支援②	福島
25	産後育児支援体制	産後育児支援体制のあり方①	福島
26	産後育児支援体制	産後育児支援体制のあり方②	福島
27	まとめ	講義内容のまとめ	福島

【6】　事前・事後学習とその時間

講義とゼミ形式により進める。
対面形式にて実施する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

レポート80%、講義への取り組み20%を総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、結果を提示し設問について解説する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う。

【9】　教科書

1）石井邦子・廣間武彦編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］新生児期・乳幼児期第6版」医学書院・2021年

【10】　参考書

1）金川克子「地域看護診断技法と実際」東京大学出版会・2000年
2）福島富士子，みついひろみ「産後ケア―なぜ必要か何ができるか」岩波ブックレット・2014年
3）E.T.アンダーソン，J.マクファーレイン編集「地域看護学の理論と実際コミュニティアズパートナー第2版」医学出版・2007年
4）福島富士子「産後ケア～ここから始まるコミュニティづくり～」財界研究所・2017年
5）福島富士子「産後ケア　完全理解読本」財界研究所・2020年

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめテキスト等に目を通しておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学演習Ⅰ（妊娠・産褥・新生児の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Midwifery Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）早田英二郎（大森病院・講師） 松永佳子（看護学研究科・准教授） 中田かおり（看護学研究科・講師）渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵　　■med.toho-u.ac.jp 疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp 早田英二郎eijiro.hayata■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 松永佳子毎週月曜日8:00～9:00 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 渡邉幸恵毎週 疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00 早田英二郎授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

google classroom zoom

【２】　授業概要

本科目は、妊娠・産褥・新生児期の助産診断に不可欠な診断技術および援助技術の演習を行い、その技術の習得を目指す。

【３】　到達目標

1. 妊娠期にある健康な母子に対するヘルスアセスメント技術を学び、安全・安楽に妊婦に提供することができる。
2. 産褥期・新生児期にある対象に対する助産ケアの知識・診断技術を学び、演習で実施することができる。
3. 周産期において対象が正常な経過をたどるために必要な保健指導案を立案することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	妊娠期に必要な援助技術	妊婦健康診査に必要な技術（フィジカルエグザミネーションを含む）①	富岡
2	妊娠期に必要な援助技術	妊婦健康診査に必要な技術（フィジカルエグザミネーションを含む）②	富岡
3	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	胎児心拍数陣痛図の判定①	早田
4	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	胎児心拍数陣痛図の判定②	早田
5	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	超音波断層検査①	早田
6	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	超音波断層検査②	早田
7	婦人科に関する技術	婦人科検診の実際（パップスメア）①	早田
8	婦人科に関する技術	婦人科検診の実際（パップスメア）②	早田
9	対人援助技術	基本的かかわり技法、カウンセリングと保健指導の方法①	富岡
10	対人援助技術	基本的かかわり技法、カウンセリングと保健指導の方法②	富岡
11	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）①	中田
12	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）②	中田
13	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）③	中田
14	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）④	中田
15	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）①	松永
16	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）②	松永
17	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）③	松永
18	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）④	松永
19	産褥期に必要な援助技術	産褥期に必要な援助技術（進行性変化、退行性変化の観察等）①	松永・中田
20	新生児期に必要な援助技術	新生児期に必要な援助技術（全身の観察、沐浴等）②	松永・中田
21	妊娠期の健康診査	妊婦健康診査（OSCE）①	富岡・渡邉・伏見・疋田
22	妊娠期の健康診査	妊婦健康診査（OSCE）②	富岡・渡邉・伏見・疋田
23	産褥期・新生児期の健康診査	産褥期・新生児期のヘルスアセスメント（OSCE）①	松永・中田
24	産褥期・新生児期の健康診査	産褥期・新生児期のヘルスアセスメント（OSCE）②	松永・中田
25	助産外来の実際	産科外来における演習①	富岡・渡邉・伏見
26	助産外来の実際	産科外来における演習②	富岡・渡邉・伏見
27	助産外来の実際	産科外来における演習③	富岡・渡邉・伏見

【6】　事前・事後学習とその時間

実習室における演習、産婦人科外来における演習、グループワーク、個人ワークなどを行う。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

提出記録およびレポートの内容(40%)、課題や授業への取り組み(30%)、プレゼンテーションの内容(30%)で評価する。レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。
授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する

【９】　教科書

1)我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期 医学書院・2021年（第6版）
2)我部山キヨ子，藤井知行編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期　医学書院・2021年（第6版）
3)石井邦子・廣間武彦編「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ［3］新生児・乳幼児期 医学書院・2021年（第6版）

【10】　参考書

1）池田智明「胎児心拍数モニタリング集中トレーニング」メディカ出版・2010年
2）馬場一憲「基礎から学ぶ産婦人科超音波診断」東京医学社・2010年
3）中井章人「図説CTGテキスト助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証必須研修CTGテキスト」メジカルビュー社・2016年

【11】　備考(関連科目等)

技術の習得に向け、主体的に取り組むことを期待する。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学演習Ⅱ(分娩期の診断と技術)	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in MidwiferyⅡ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授） 早田英二郎（大森病院・講師） 中田かおり（看護学研究科・講師） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学研究科・講師） 伏見枝莉（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵　　■med.toho-u.ac.jp 疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp 早田英二郎 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 渡邉幸恵毎週 疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00 早田英二郎授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

google classroom zoom

【２】　授業概要

演習を通して分娩介助技術の習得を目指す。診療ガイドライン及び科学的根拠に基づいた安全で安楽な分娩介助技術を探求し、対象者へ提供できる技術レベルに達するまで鍛錬を重ねていく。

【３】　到達目標

1. 産婦及び家族に対して、安全で安楽な助産の実践に必要となる分娩介助技術を原理原則に基づいて実施できる。
2. 分娩期に必要とされる産痛緩和技術や呼吸法などの具体的なケア方法を理解し、安全安楽な方法で実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩介助技術①	分娩介助の意義、分娩介助の基本姿勢、分娩室の環境調整①	富岡・渡邉
2	分娩介助技術②	分娩介助の意義、分娩介助の基本姿勢、分娩室の環境調整②	富岡・渡邉
3	分娩介助技術③	分娩介助者の準備、間接介助者の役割①	富岡・渡邉・疋田・伏見
4	分娩介助技術④	分娩介助者の準備、間接介助者の役割②	富岡・渡邉・疋田・伏見
5	分娩介助技術⑤	分娩介助技術（分娩室の準備、分娩介助者の準備）①	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
6	分娩介助技術⑥	分娩介助技術（分娩室の準備、分娩介助者の準備）②	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
7	分娩介助技術⑦	分娩介助技術（清潔野の作成）①	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
8	分娩介助技術⑧	分娩介助技術（清潔野の作成）②	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
9	分娩介助技術⑨	分娩介助技術（肛門保護、会陰保護、児娩出）①	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
10	分娩介助技術⑩	分娩介助技術（肛門保護、会陰保護、児娩出）②	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
11	分娩介助技術⑪	分娩介助技術（臍帯切断、胎盤娩出から分娩第4期まで）	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
12	分娩介助技術⑫	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）①	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
13	分娩介助技術⑬	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）②	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
14	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術①	早田
15	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術②	早田
16	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術③	早田
17	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術④	早田
18	分娩介助技術⑭	胎盤の精査・計測法、導尿、内診①	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
19	分娩介助技術⑮	胎盤の精査・計測法、導尿、内診②	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
20	分娩介助技術⑯	胎盤の精査・計測法、導尿、内診③	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
21	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法①	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
22	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法②	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
23	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法③	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
24	分娩介助技術⑰	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）③	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
25	分娩介助技術⑱	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）④	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
26	分娩介助技術⑲	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）⑤	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見
27	分娩介助技術⑳	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）⑥	富岡・中田・渡邉・疋田・伏見

【6】　事前・事後学習とその時間

技術演習および、課題を提示した学生のプレゼンテーションとディスカッションによって進める。対面形式にて実施する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

演習への取り組み状況（20%）、技術評価（80%）で、総合的に評価する。
演習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
評価については、演習終了後に講評を伝え、課題を共有する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する

【9】　教科書

1）我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座7　助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期第6版」医学書院・2021年
2）日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局
3）日本助産診断・実践研究会編「実践マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

1）進純郎／堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院・2010年
2）進純郎「分娩介助学」医学書院・2014年（第2版）
3）村上明美「DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」仰臥位分娩介助」医歯薬出版株式会社・2009年

【11】　備考(関連科目等)

事前に配布する分娩介助の動画を何度も視聴してから授業に参加すること
女性生殖器の構造の復習、分娩の機序および分娩経過の診断に必要な知識の復習（助産学特論Ⅲ）
演習前に基礎看護技術（滅菌操作・手洗い・ガウンテクニック・導尿）の方法の復習をしておくこと。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。
演習時間以外にも分娩介助技術の自己学習・練習をすること

科目名(日本語)	助産学実習Ⅰ（継続事例実習）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅠ	選択	実習	1年次･春	2単位 90時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 中田かおり（看護学研究科・講師）疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵 ■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00 松永佳子毎週月曜日8:00～9:00 富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Google Classroom、Zoom

【２】　授業概要

妊娠期から受け持ち、直接分娩介助を経て、産褥期の母子の助産ケア、産後の家庭訪問等、産後6か月まで継続的な支援を行う。

【３】　到達目標

1. 正常な経過をたどる妊婦と家族を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、育児期、新生児期、乳児期の各期において助産過程を展開
し、産後6か月まで継続して個別性を踏まえたケアを実施できる。
2. 妊産褥婦とその家族に対して個別性を踏まえた保健指導を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習方法①	正常な経過をたどる対象を受け持ち、妊娠期・分娩期・産褥期・育児期・新生児期・乳児期において対象に助産過程を展開し、産後6か月まで継続して対象とその家族に適切なケアを実施する。	福島・松永・富岡・渡邉・中田・疋田・伏見
2	実習方法②妊娠期	1）妊婦健康診査に参加し、助産過程を展開し、診断技術を用いて助産診断を行う。 2）助産計画に基づいて、予測的かつ経過に応じた相談・教育・ケアを行う。 3）妊婦への個別指導計画を立案し実施する。	福島・松永・富岡・渡邉・中田・疋田・伏見
3	実習方法③分娩期	1）助産過程を展開し、分娩期のケアを行う。 2）産婦の安全安楽を考えた分娩介助を行う。	福島・松永・富岡・渡邉・中田・疋田・伏見
4	実習方法④産褥期・新生児期	1）産褥入院中の褥婦および新生児の助産過程を展開し、ケアを実施するとともに個別指導計画を立案し、保健指導を行う。 2）退院後～1か月健診までの間に家庭訪問を行う。 3）家族計画の個別指導案を立案し、産後１か月健診で家族計画指導を実施する。 4）産後2～3か月に家庭訪問を行い、対象を取り巻く環境および生活状況を理解し、助産過程に基づいて母親とその家族に対してケアを実施する。	福島・松永・富岡・渡邉・中田・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

詳細は実習要項参照

【７】　評価方法・基準

実習態度30%、実習記録50%、出席状況20%で、総合的に評価する。
実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

特に指定しない。

【10】　参考書

特に指定しない。

【11】　備考(関連科目等)

妊娠、産褥、新生児期のケア計画および指導案の準備
助産学特論Ⅰ～Ⅵ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。

科目名(日本語)	助産学実習Ⅱ（分娩介助実習）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅡ	選択	実習	1年次･春	6単位 270時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 中田かおり（看護学研究科・講師）渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邉幸恵■med.toho-u.ac.jp 疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	松永佳子毎週月曜日8:00～9:00 富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 渡邉幸恵 疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
タブレット端末、Google Classroom、Zoom

【２】　授業概要

正常分娩の直接介助・間接介助、帝王切開事例、吸引・鉗子分娩事例、胎児・新生児仮死、などのリスク事例や無痛分娩等について経験する。

【３】　到達目標

1. 分娩期の産婦と胎児に、助産診断と助産技術を用いて安全で安楽な分娩介助が実施できる。
2. 正常か否かの診断やリスク状態にある母子へのケアを対象に助産過程を用いて適切な助産ケアが実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習方法①助産過程の展開	原則として母体・胎児共に妊娠期を正常に経過し、分娩期の産婦を受け持つ。助産診断のための母体・胎児の情報収集・アセスメントを行い、個別性に応じた分娩各期の助産計画を立案する。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
2	実習方法②産婦のケア	産痛緩和法・呼吸法を用い産婦のリラクゼーションを図ると同時に、分娩促進のためのケアに努める。産婦の精神的な支えとなり、家族の精神的ケアを実施する。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
3	実習方法③分娩の直接介助	分娩第2期は（医師・助産師の監督のもと）安全・安楽な分娩の直接介助を行う。出生直後の新生児に対しては胎外生活への適応状態を診断し、適切なケアを実施する。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
4	実習方法④分娩から分娩第4期のケアの実施	分娩第4期は分娩第3期までの情報をもとに、助産診断および助産計画を立案し、母子の早期接触、母乳栄養確立に向けてのケアを実施する。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
5	実習方法⑤間接介助	間接介助（直接介助者の補助、分娩中の母体のケア、新生児の測定・ケア等）を経験する。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
6	実習方法⑥胎盤計測	娩出された胎盤を測定し、母子の評価を行う。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
7	実習方法⑦新生児のケア	出生児の胎外生活を促進するケアを実施する。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
8	実習方法⑧正常逸脱に対する対処	帝王切開事例の術前・術後の管理、吸引や鉗子分娩の適応やその介助法について学ぶ。分娩時出血等の分娩時の異常の対処法について学ぶ。会陰切開や裂傷の縫合術について学ぶ。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見
9	実習方法⑨周産期医療チームの連携	ハイリスク分娩における実際と、周産期医療チームの連携について学ぶ。	富岡・松永・中田・渡邉・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

1．実習施設は、東邦大学医療センター大森病院、大森赤十字病院、前村医院とする。
＊詳細は実習要項参照
2．助産過程における助産診断や助産計画、直接・間接分娩介助の評価等は、所定の記録用紙を用いて展開し、終了後まとめて速やかに提出する。

【７】　評価方法・基準

実習態度20%、実習記録40%、実習評価表40%で総合的に評価する。
実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

1）我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院・2021年（第6版）
2）日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

実習前に指定する。

【11】　備考(関連科目等)

分娩介助技術の復習をすること。
助産学特論Ⅰ～Ⅵ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。

科目名(日本語)	助産学実習Ⅲ（コミュニティヘルス）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅢ	選択	実習	1年次･秋	2単位 90時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）中田かおり（看護学研究科・講師） 渡邊幸恵（看護学研究科・講師）疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邊幸恵 疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00 松永佳子毎週月曜日 8:00～9:00 富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 中田かおり毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

地域の母子保健事業や母子ケア活動、健康教育に参加する。学生自身も実際に健康教育を実施し、評価する。さらに、地域における助産師の役割について考察する。

【３】　到達目標

1. コミュニティにおける母子保健活動に参加し地域の特性を把握することにより、地区診断をすることができる。
2. 地域における母子の健康問題を踏まえ、安心して子育てができる母子保健のあり方を説明できる。
3. 学童期・思春期にある男女および成熟期にある女性を対象にした健康教育プログラムを作成し、実施評価できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産所における実習	1) 助産所の所在地の地区診断を行い、母子保健の現状および女性の健康問題等について分析する。 2) 地区診断に基づいた助産ケアのプログラムを企画し、実施および評価を行う。 3) 助産所で実施されている出産準備教室、産後の健康教室、各種子育て支援活動および家庭訪問を実施する。	福島・松永
2	育児期における支援	1) 子育て支援の場に参加し、産後の母子保健活動を体験する。 2) 地域における子育て支援などの母子保健事業の実際を見学する。	福島
3	家庭訪問	産後3か月及び6か月頃に家庭訪問を行う。対象を取り巻く環境及び生活状況を理解し、助産過程に基づいて母親とその家族に対してケアを行う。	福島・富岡・中田・渡邊・伏見・疋田
4	医療施設・医療機関とのカンファレンス	継続的な支援が必要な事例のカンファレンスに参加し、関係機関との情報交換やネットワークの実際を体験する。	福島・松永
5	健康教育の企画と実施	ピアカウンセリングの技法を用いて、学童期から思春期にある対象に対する性教育を実施する。また、妊産婦に対する健康教育として、母親学級の企画・運営を実施する。	福島・富岡・中田・渡邊・伏見・疋田

【６】　事前・事後学習とその時間

助産所実習と病院実習をローテーションしながら実施する。対象者に合わせた健康教育を企画し実施する。
実習施設
1. 助産院：バースあおば、みやした助産院
2. 産後ケアセンター：世田谷区立産後ケアセンター
3. 健康教育を実施する施設：大田区立開桜小学校、大田区立蒲田中学校、前村医院
※助産学実習ⅢとⅣを組み合わせる。
30 時間の実習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み30%、レポート30%、実習記録30%、出席状況10%で、総合的に評価する。
評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。
授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習修了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【９】　教科書

必要時提示する。

【10】　参考書

必要時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。
助産学特論Ⅰ～Ⅷ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、グループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学実習Ⅳ（助産管理）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅣ	選択	実習	1年次･秋	2単位 90時間
科目責任者	福島富士子				
担当教員	中田　かおり(看護学研究科・講師)　渡邊　幸恵（看護学研究科・講師） 疋田　仁美　(看護学部・助教) 伏見　枝莉(看護学部・助教)				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子　fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 富岡　由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田　かおり　kaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 渡邊　幸恵 疋田　仁美　hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp 伏見　枝莉　eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日　10:00～11:00 富岡　由美　毎週月曜日　10:00～11:00 中田　かおり　毎週月曜日　12:00～13:00 渡邊　幸恵 疋田　仁美　毎週月曜日　12:00～13:00 伏見　枝莉　毎週月曜日　12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

主に助産管理に焦点を合わせた実習を行う。業務形態や出産ケアの異なる大学病院と助産所の助産管理上の特徴を、現在の医療環境における位置づけをふまえ、メリット、デメリットを考えながら実習をする。最終的には、様々な出産施設の特徴をふまえた施設内での連携のあり方、さらに保健・医療・福祉等の関連機関との連携のあり方を追究する。
ハイリスク妊産婦の管理についても、実際のケアを通じて経験する。

【３】　到達目標

1. 助産管理に必要な管理の原則と技法にそって、それぞれの施設の助産業務の範囲と助産管理の特性を妊産婦管理や新生児医療・ケアに参画し、その管理方法の特徴を述べることができる。
2. 施設内、施設間、地域社会において、助産実践と保健・医療・福祉の連携のあり方を説明できる。
3. 組織変革の方策、手順について説明できる。
4. ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	病院：管理	1）地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすための助産管理の実際を見学する。 2）指定の日時のスタッフの配置について考えることができる。 3）緊急時の医師との連携について事例を用いて、リスクマネジメントに関する事例検討を行う。	松永
2	助産院：管理	1）助産所の助産管理の実際についてオリエンテーションを受け、法的根拠に基づく管理・運営の実際について学ぶ。 2）助産所の助産実践と地域活動（集団活動・育児サークル、各種学級等）に参加する。 3）医療安全の確保と医療事故への対応と関連機関等の連携について学ぶ。 4）助産所においてカンファレンスを行い、緊急時および切れ目ない妊娠、出産、育児をするための協働、連携について学びを深め、共有する。	松永
3	産後ケアセンター：管理	1）産褥期にある家族のケアを行う上で必要となる施設内の医療専門職や地域関連機関との連携のあり方を見学する。	松永・渡邊
4	クリニック：管理	1）組織変革の方策、手順について説明を受け、分娩介助実習をした施設における課題を解決するための方策を検討する。	松永・中田
5	病院：ハイリスクの妊産婦	１）ハイリスクケースの地域連携の実際を見学する。 ２）ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。	富岡・中田・渡邊・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
病院、クリニック、助産院、産後ケアセンターをローテーションしながら実習を行う。
実習施設
1.病院：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター佐倉病院、愛育病院
2.クリニック：上大岡こどもクリニック
3.助産院：バースあおば、みやした助産院
4.産後ケアセンター：世田谷区立産後ケアセンター
※助産学実習ⅢとⅣを組み合わせる。
※佐倉病院、助産院実習は宿泊を伴う。宿泊にかかる費用は学生の実費負担とする。
※詳細は、別途要項を参照のこと。

【７】　評価方法・基準

実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
事前の課題と事後の課題（30%）、実習記録・カンファレンス資料（50%）、実習態度（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【９】　教科書

別途、必要時に提示する。

【10】　参考書

別途、必要時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。
助産学特論Ⅷの単位の修得見込みであることを実習の条件とする。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、グループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**臨床看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）原沢のぞみ（看護学部･准教授）、佐藤由紀子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp 原沢のぞみnozomi.harasawa■med.toho-u.ac.jp 佐藤由紀子yukiko.sato■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【２】　授業概要

臨床で活用されている看護理論の構成要素、理論の枠組み、理論の有効性と限界について説明することができる。

【３】　到達目標

臨床看護学領域で活用できる理論・概念について学び、看護における有用性を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1ー2	ガイダンス	オリエンテーション	原
3－6	臨床看護学の特徴	臨床看護学の本質 看護師の役割	原
7－10	臨床看護学に有用な理論･概念①②(発達の理解)	ライフサイクル理論 発達理論･役割理論	原沢
11－14	臨床看護学に有用な理論・概念③④(対象の理解)	人間関係論 セルフケア理論・ニード理論	原沢
15－18	臨床看護学に有用な理論･概念⑤⑥(危機状態の理解)	危機理論 ストレス理論・コーピング理論	原沢
19－22	臨床看護学に有用な理論･概念⑦⑧(喪失体験の理解)	自己概念･自尊感情 ボディイメージ 障害の受容過程	原
23－24	臨床看護学Ⅱ有用な理論･概念⑨⑩(慢性状況の理解)	病みの軌跡 不確かさ	佐藤
25－27	家族看護①②	家族アセスメント 家族看護の実際	佐藤

【６】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準
授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
主体的な参加を期待する。

科目名(日本語)	**臨床看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced　Clinical Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）原沢のぞみ（看護学部･准教授）山内英樹(看護学研究科・講師)				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp 原沢のぞみnozomi.harasawa■med.toho-u.ac.jp 山内英樹hideki.yamauchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【２】　授業概要

健康各期の対象の特徴と看護の課題を明らかにするためのアセスメントの視点について説明できる。
自己管理が必要な対象の健康支援のあり方について説明できる。

【３】　到達目標

健康レベル(急性期、回復期、慢性期、終末期)に応じた看護をホリステックな視点から説明できる。
対象の健康を支えるための学習理論や教育方法について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	ガイダンス	オリエンテーション	原
3－6	健康問題を抱える対象の看護①	生命の危機状態にある対象の理解	山内
7－10	健康問題を抱える対象の看護②	回復過程にある対象の理解	山内
11－14	健康問題を抱える対象の看護③	慢性状態にある対象の理解	山内
15－18	健康問題を抱える対象の看護④	終末期にある対象の理解	原沢
19－22	健康を支える学習支援①	成人学習理論に基づく学習支援	原
23－24	健康を支える学習支援②	セルフマネジメント教育	原
25－26	教育的介入の実際	事例検討	原沢
27	学びの統合	まとめ	原

【６】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法

講義の中で講評ならびに解説を伝え,学習課題を共有する。

【９】　教科書

参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書

参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

主体的な参加を期待する。

科目名(日本語)	**臨床看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Clinical Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp 原沢のぞみharasawa.nozomi■med.toho-u.ac.jp 山内英樹hideki.yamauchi■med.toho-ac.jp 佐藤由紀子yukiko.sato■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、PC

【2】　授業概要

量的研究・質的研究の文献クリティークを行う際の視点について説明できる。クリティークを通して、臨床における看護の課題について説明できる。フィールドワークを行うための具体的方法について説明できる。

【3】　到達目標

臨床看護学領域の文献クリティークを行うことができる。クリティークを通して、臨床看護における課題を発見できる。導き出した課題をもとにフィールドワークの計画書を作成することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1−4	ガイダンス	オリエンテーション	原
5−8	文献クリティーク①	臨床看護学領域における研究の動向と課題	原･原沢
9−12	文献クリティーク②	質的研究クリティーク	原･佐藤
13−16	文献クリティーク③	量的研究クリティーク	原沢･山内
17−18	フィールドワークの基本①	フィールドワークを行う上での倫理	原沢
19−22	フィールドワークの基本②	フィールドワーク計画の作成	原･原沢
23−24	フィールドワークの基本④	フィールドワーク計画書の発表	原･原沢･山内･佐藤
25−27	フィールドワークの基本⑤	フィールドワーク計画書の修正･課題の明確化	原･原沢･山内･佐藤

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業へ取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
主体的な参加を期待する。

科目名(日本語)	**臨床看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Clinical Nursing Ⅱ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）原沢のぞみ（看護学部･准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp 原沢のぞみnozomi.harasawa■med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45－13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【2】　授業概要

フィールドワークのプロセスを通して、研究の意義について説明できる。研究テーマに基づいた研究計画を作成できる。研究を遂行する上での自己の課題を述べることができる。

【3】　到達目標

各自が立案したフィールドワークを通して研究テーマの妥当性を説明できる。フィールドワークの結果をもとに研究計画書を作成できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	ガイダンス	オリエンテーション学習計画の立案	原
3－6	フィールドワーク演習①②	フィールドワーク計画書の発表	原･原沢
7－10	フィールドワーク演習③④	フィールドワーク計画書の修正	原･原沢
11－14	フィールドワーク演習⑤⑥	フィールドワークの実際	原･原沢
15－18	フィールドワーク演習⑦⑧	フィールドワークの中間評価	原･原沢
19－22	フィールドワーク演習⑨⑩	フィールドワーク実際	原･原沢
23－24	フィールドワーク演習⑪j⑫	フィールドワーク課題の抽出	原･原沢
25ー27	フィールドワーク演習⑬⑭	フィールドワーク課題の明確化	原･原沢

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

フィールドワーク40%、プレゼンテーション40%、ディスカッション20%によって授業展開する。
課題レポートの評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
主体的な参加を期待する。

科目名(日本語)	**高齢者看護学特論I**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Gerontological Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀実morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

看護職者として「高齢者に関心を持つ」「高齢者を知る」ための自分自身の基盤についてまずは振り返り、再構築する。

【３】　到達目標

1.　老年学、老年医学等、高齢者に関する学問領域を知り、高齢者看護学との関係を理解することができる。
2.　高齢者の健康課題を生活機能の側面で評価・分析できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者看護学とは1	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
2	高齢者看護学とは2	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
3	高齢者看護学とは3	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
4	高齢者看護学とは4	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
5	高齢者と健康問題1	フレイル・疾患と生活機能（食事）	横井・藤野
6	高齢者と健康問題2	フレイル・疾患と生活機能（食事）	横井・藤野
7	高齢者と健康問題3	フレイル・疾患と生活機能（排泄）	横井・藤野
8	高齢者と健康問題4	フレイル・疾患と生活機能（排泄）	横井・藤野
9	高齢者と健康問題5	フレイル・疾患と生活機能（活動）	横井・藤野
10	高齢者と健康問題6	フレイル・疾患と生活機能（活動）	横井・藤野
11	高齢者と健康問題7	フレイル・疾患と生活機能（休息）	横井・藤野
12	高齢者と健康問題8	フレイル・疾患と生活機能（休息）	横井・藤野
13	高齢者と健康問題9	フレイル・疾患と生活機能（身じたく）	横井・藤野
14	高齢者と健康問題10	フレイル・疾患と生活機能（身じたく）	横井・藤野
15	高齢者と健康問題11	フレイル・疾患と生活機能（コミュニケーション）	横井・藤野
16	高齢者と健康問題12	フレイル・疾患と生活機能（コミュニケーション）	横井・藤野
17	ケア提供者の現状と課題1	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
18	ケア提供者の現状と課題2	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
19	ケア提供者の現状と課題3	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
20	ケア提供者の現状と課題4	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
21	社会資源の活用と課題1	高齢者の住まいの変遷	横井・藤野
22	社会資源の活用と課題2	高齢者の住まいの変遷	横井・藤野
23	多職種による高齢者支援のための評価1	文献購読	横井・藤野
24	多職種による高齢者支援のための評価2	文献購読	横井・藤野
25	高齢者看護学の役割1	プレゼンテーションと討議	横井・藤野
26	高齢者看護学の役割2	プレゼンテーションと討議	横井・藤野
27	高齢者看護学の役割3	プレゼンテーションと討議	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（プレゼンテーション等）40%、課題レポート60%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に配布される文献等資料をよく読み込んで臨んでください。
講義およびゼミ形式で行う。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**高齢者看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Gerontological Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

療養環境をマネジメントする能力の基礎を養う。

【３】　到達目標

1. 加齢変化をふまえた環境調整について述べることができる。
2. 療養の場が高齢者に与える影響について述べるができる。
3. 1、2から、より良い環境調整について提案することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	病院という建物の変遷1	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	横井
2	病院という建物の変遷2	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	横井
3	病院という建物の変遷3	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	横井
4	身体機能と療養の場1	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
5	身体機能と療養の場2	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
6	身体機能と療養の場3	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
7	身体機能と療養の場4	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
8	身体機能と療養の場5	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
9	身体機能と療養の場6	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
10	身体機能と療養の場7	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
11	身体機能と療養の場8	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
12	認知機能と療養の場1	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
13	認知機能と療養の場2	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
14	認知機能と療養の場3	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
15	認知機能と療養の場4	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
16	加齢変化とリスク回避1	インシデント報告の分析__治療	横井・藤野
17	加齢変化とリスク回避2	インシデント報告の分析__治療	横井・藤野
18	加齢変化とリスク回避3	インシデント報告の分析__検査	横井・藤野
19	加齢変化とリスク回避4	インシデント報告の分析__検査	横井・藤野
20	加齢変化とリスク回避5	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
21	加齢変化とリスク回避6	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
22	加齢変化とリスク回避7	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
23	加齢変化とリスク回避8	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
24	加齢変化とリスク回避9	インシデント報告の分析__その他	横井・藤野
25	加齢変化とリスク回避10	インシデント報告の分析__その他	横井・藤野
26	安全と安心のための環境調整1	プレゼンテーションと討議	横井・藤野
27	安全と安心のための環境調整2	プレゼンテーションと討議	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み40%、課題レポート60%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考（関連科目等）

講義およびゼミ形式で行う。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**高齢者看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Gerontological Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

高齢者の療養および生活の場の特徴を踏まえたヘルスアセスメントについてその方法も含めて再考する。

【３】　到達目標

1.　高齢者看護の実践の場の現状と課題について先行研究から推測することができる。
2.　関心のある看護実践の場に赴き、そこで実施されているヘルスアセスメントおよび看護支援について、フィールドワークを行い柔軟なアセスメント技術の重要性を理解する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問題1	文献検討	横井・藤野
2	医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問題2	文献検討	横井・藤野
3	地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題1	文献検討	横井・藤野
4	地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題2	文献検討	横井・藤野
5	フィールドワーク計画立案1	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	横井・藤野
6	フィールドワーク計画立案2	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	横井・藤野
7	フィールドワーク計画立案3	フィールドワーク計画の発表	横井・藤野
8	フィールドワーク計画立案4	フィールドワーク計画の発表	横井・藤野
9	フィールドワーク1	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
10	フィールドワーク2	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
11	フィールドワーク3	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
12	フィールドワーク4	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
13	フィールドワーク5	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
14	フィールドワーク6	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
15	フィールドワーク7	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
16	フィールドワーク8	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
17	フィールドワーク9	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
18	フィールドワーク10	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
19	フィールドワーク11	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
20	フィールドワーク12	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
21	フィールドワーク13	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
22	フィールドワーク14	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
23	フィールドワーク15	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
24	フィールドワークでの学びの共有1	発表・討議	横井・藤野
25	フィールドワークでの学びの共有2	発表・討議	横井・藤野
26	フィールドワークでの学びの共有3	発表・討議	横井・藤野
27	フィールドワークでの学びの共有4	発表・討議	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

高齢者医療のさまざまな場について、最新の医療制度、介護保険制度を踏まえ学習しておいてください。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**高齢者看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Gerontological Nursing Ⅱ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

環境調整の看護の役割を再考する。

【３】　到達目標

1. 医療福祉施設で療養生活を送る高齢者の環境をアセスメントすることができる。
2. 看護における療養環境マネジメントの重要性について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療福祉施設の療養環境の現場と課題1	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
2	医療福祉施設の療養環境の現場と課題2	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
3	医療福祉施設の療養環境の現場と課題3	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
4	医療福祉施設の療養環境の現場と課題4	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
5	医療福祉施設の療養環境の現場と課題5	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
6	医療福祉施設の療養環境の現場と課題6	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
7	医療福祉施設の療養環境の現場と課題7	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
8	医療福祉施設の療養環境の現場と課題8	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
9	フィールドワーク計画立案1	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
10	フィールドワーク計画立案2	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
11	フィールドワーク計画立案3	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
12	フィールドワーク計画立案4	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
13	フィールドワーク1	フィールドワクークの実施	横井・藤野
14	フィールドワーク2	フィールドワクークの実施	横井・藤野
15	フィールドワーク3	フィールドワクークの実施	横井・藤野
16	フィールドワーク4	フィールドワクークの実施	横井・藤野
17	フィールドワーク5	フィールドワクークの実施	横井・藤野
18	フィールドワーク6	フィールドワクークの実施	横井・藤野
19	フィールドワーク7	フィールドワクークの実施	横井・藤野
20	フィールドワーク8	フィールドワクークの実施	横井・藤野
21	フィールドワーク9	フィールドワクークの実施	横井・藤野
22	フィールドワーク10	フィールドワクークの実施	横井・藤野
23	フィールドワーク11	フィールドワクークの実施	横井・藤野
24	フィールドワーク12	フィールドワクークの実施	横井・藤野
25	成果発表と討議1	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野
26	成果発表と討議2	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野
27	成果発表と討議3	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。
施設基準について事前学習をしておく。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	小児看護学特論Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）天野里奈（看護学研究科・助教）高山充（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

成長発達理論や家族理論、セルフケア理論、コーピング理論等、小児看護の基盤を成す理論について理解を深め、小児看護への活用を考察する。

【３】　到達目標

１．代表的な家族理論について理解し、小児看護への活用を述べることができる
２．小児各期の成長発達について理論に基づき判断することができる
３．小児とその家族のセルフケアやコーピング等に関する理論について、発達段階をふまえて理解し看護への活用を述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児看護の理論(1)	コースオリエンテーション	荒木
2	小児看護の理論(2)	小児看護の専門性、小児看護領域での高度実践に必要な能力看護実践体験をもとに討議し今後の学修について展望する	荒木
3	成長発達に関する理論(1)	新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論　（エリクソン、ピアジェ等）	荒木
4	成長発達に関する理論(2)	新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論　（エリクソン、ピアジェ等）	荒木
5	成長発達に関する理論(3)	乳幼児の成長発達。愛着理論、母子相互作用	荒木
6	成長発達に関する理論(4)	乳幼児の成長発達。愛着理論、母子相互作用	荒木
7	成長発達に関する理論(5)	学童・思春期の成長発達、ヘルスプロモーション	河上
8	成長発達に関する理論(6)	学童・思春期の成長発達、ヘルスプロモーション	河上
9	成長発達に関する理論(7)	自身の看護実践事例を提示し、成長発達の理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
10	家族に関する理論(1)	家族の定義、日本における小児と家族の動向、家族看護・　家族看護学の目的、小児と家族の健康問題と看護の役割	荒木
11	家族に関する理論(2)	・家族理論とは，家族システム理論と小児看護への活用 ・家族機能，家族発達理論，家族アセスメントモデルと小児看護への活用	荒木
12	家族に関する理論(3)	・家族のレジリエンス	河上
13	家族に関する理論(4)	カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、家族のストレス対処理論と小児看護への活用	荒木
14	家族に関する理論(5)	カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、家族のストレス対処理論と小児看護への活用	荒木
15	家族に関する理論(6)	自身の看護実践事例を提示し、家族理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
16	家族に関する理論(7)	自身の看護実践事例を提示し、家族理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
17	セルフケア・コーピングに関する理論(1)	オレム看護一般理論（セルフケア理論、セルフケア不足理論看護システム理論）と小児看護への活用	荒木
18	セルフケア・コーピングに関する理論(2)	オレム看護一般理論（セルフケア理論、セルフケア不足理論看護システム理論）と小児看護への活用	荒木
19	セルフケア・コーピングに関する理論(3)	ストレス・コーピング理論と小児看護への活用	河上
20	セルフケア・コーピングに関する理論(4)	ストレス・コーピング理論と小児看護への活用	河上
21	セルフケア・コーピングに関する理論(5)	自尊感情と自己効力感の理論と小児看護への活用	河上
22	セルフケア・コーピングに関する理論(6)	自尊感情と自己効力感の理論と小児看護への活用	河上
23	セルフケア・コーピングに関する理論(7)	自身の看護実践事例を提示し、セルフケア理論やストレス・コーピング理論等を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
24	セルフケア・コーピングに関する理論(8)	自身の看護実践事例を提示し、セルフケア理論やストレス・コーピング理論等を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
25	理論の小児看護実践への活用(1)	小児看護学特論Ⅰで学修した内容に関する英文献を一つ選択し、全文訳および文献についての考察を加え、プレゼンし、文献コピーと共に提出する	荒木・河上
26	理論の小児看護実践への活用(2)	小児看護学特論Ⅰで学修した内容に関する英文献を一つ選択し、全文訳および文献についての考察を加え、プレゼンし、文献コピーと共に提出する	荒木・河上
27	まとめ	授業内容のまとめ	荒木・河上

【6】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・Hockenberry, MJ, et al : Wong's Nursing Care of Infants and Children (11th ed.), Mosby, 2019
・Potts, NL, Mandleco,BL: Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families, Delmar, 2012
・南裕子, 野島佐由美, 他：看護理論集 第3版, 日本看護協会出版会, 2013
・鈴木和子, 渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第5版, 日本看護協会出版会, 2019
・奥山眞法子：小児医療心理学, エルゼビア・ジャパン, 2007
・ 舟島なをみ: 看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2017
その他、適宜紹介、提示する。

【10】　参考書

・上田礼子: 生涯人間発達学 改訂第2版, 三輪書店, 2012
・ロレイン・M・ライト&ジャニス・M・ベル 著 小林奈美 訳・監訳/松本和史 訳：病の苦悩を和やらげる家族システム看護, 日本看護協会出版会, 2011
・ Denham, S., et.al: Family-Focused Nursing Care, F. A. Davis, 2016
・ Rowe, J., et al: Family Health Care Nursing: Theory, Practice, and Research(6th ed.), F. A. Davis, 2018
・ Perri J. Bomar: Promoting Health in Families(3rd ed.), Saunders, 2004

【11】　備考(関連科目等)

講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学特論Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

小児を取り巻く日本の保健医療・社会福祉制度とその適応、活用の現状と課題について学び、専門看護師としての援助のあり方を考察する。

【３】　到達目標

１．小児とその家族を対象とした保健医療・社会福祉制度と、その適応について理解する
２．日本における保健医療・社会福祉制度の活用の現状と、地域差や、制度が届きにくい対象への民間の社会資源による活動を理解する
３．日本における学校保健と特別支援教育の現状と課題について理解する
４．フィールドワークを通して専門看護師としての支援のあり方を考察できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児保健医療・社会福祉制度における看護の役割	コースオリエンテーション	荒木
2	小児における多職種連携・調整(1)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割	荒木
3	小児における多職種連携・調整(2)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割	荒木
4	小児における多職種連携・調整(3)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割、調整	荒木
5	小児における多職種連携・調整(4)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割、調整	荒木
6	保健医療・社会福祉制度(1)	小児保健制度	河上
7	保健医療・社会福祉制度(2)	小児保健制度	河上
8	保健医療・社会福祉制度(3)	医療・診療報酬	荒木
9	保健医療・社会福祉制度(4)	医療・診療報酬	荒木
10	保健医療・社会福祉制度(5)	児童福祉関連	荒木
11	保健医療・社会福祉制度(6)	児童福祉関連	荒木
12	学校保健と特別支援教育(1)	学校保健	河上
13	学校保健と特別支援教育(2)	学校保健	河上
14	学校保健と特別支援教育(3)	特別支援教育	荒木
15	学校保健と特別支援教育(4)	特別支援教育	荒木
16	保健医療・社会福祉制度の実際(1)	子育て世代包括支援センター	河上
17	保健医療・社会福祉制度の実際(2)	子育て世代包括支援センター	河上
18	保健医療・社会福祉制度の実際(3)	医療型障害児入所施設、通園施設における看護	荒木
19	保健医療・社会福祉制度の実際(4)	医療型障害児入所施設、通園施設における看護	荒木
20	保健医療・社会福祉制度の実際(5)	在宅療養児の看護	荒木
21	保健医療・社会福祉制度の実際(6)	在宅療養児の看護	荒木
22	保健医療・社会福祉制度の活用(1)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
23	保健医療・社会福祉制度の活用(2)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
24	保健医療・社会福祉制度の活用(3)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
25	保健医療・社会福祉制度の活用(4)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
26	保健医療・社会福祉制度の活用(5)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
27	まとめ	授業のまとめ	

【６】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ 加藤邦子, 牧野カツコ, 他：子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論. 福村出版, 2015
・ 加藤正仁, 宮田広善: 発達支援学 その理論と実践. 協同医書出版社, 2011
・ マイケル・C・ロバーツ編, 奥山真紀子, 丸 光惠 監訳: 小児医療心理学. エルゼビア・ジャパン, 2007
・ 日本小児神経学会社会活動委員会 編: 医療的ケア研修テキスト. クリエイツかもがわ, 2012
・ 武藤隆, 安藤智子：子育て支援の心理学―家庭・園・地域で育てる (有斐閣コンパクト), 有斐閣, 2008.
・ Richard R. Abidin 原著, 兼松百合子他著: PSI育児ストレスインデックス手引き 2訂版. 雇用問題研究会, 2016

その他、適宜紹介、提示する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

講義や演習を基に、セミナーる形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Child Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）天野里奈（看護学研究科・助教）、高山充（看護学研究科・助教）、竹田佳子、長順子（兼担・小児看護専門看護師）市原真穂（千葉科学大学教授，非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

小児看護領域における倫理的問題の特徴と倫理調整、ソーシャルサポートについて理解を深める。
様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得する。

【３】　到達目標

１．小児看護領域における倫理的問題の特徴とその分析方法、倫理調整とその評価、および、ソーシャルサポートについて理解し、必要な看護を述べることができる
２．様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得し、必要な看護を述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児看護領域における高度実践	コースオリエンテーション 小児看護領域で求められる専門性の高い看護について概説する	荒木
2	小児看護領域における倫理的課題(1)	・小児看護における倫理原則、小児の権利、QOL ・小児の意思決定能力と意思決定への参画（インフォームド・アセント含む） ・小児の倫理的問題の特徴とその分析方法（重症新生児、障害児、予後不良時における治療方法の決定）	荒木・河上・天野・高山
3	小児看護領域における倫理的課題(2)	・小児看護における倫理原則、小児の権利、QOL ・小児の意思決定能力と意思決定への参画（インフォームド・アセント含む） ・小児の倫理的問題の特徴とその分析方法（重症新生児、障害児、予後不良時における治療方法の決定）	荒木・河上・天野・高山
4	小児看護領域における倫理的課題(3)	小児看護領域における倫理調整とその評価 看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	市原
5	小児看護領域における倫理的課題(4)	小児看護領域における倫理調整とその評価 看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	市原
6	急性期にある小児と家族への看護援助(1)	危機的状態にある小児と家族への援助、危機理論、悲嘆過程と家族の反応	荒木・河上・天野・高山
7	急性期にある小児と家族への看護援助(2)	危機的状態にある小児と家族への援助、危機理論、悲嘆過程と家族の反応	荒木・河上・天野・高山
8	周手術期にある小児と家族への看護援助	・小児の疾患・手術の理解とプレパレーション、痛みの評価と疼痛マネジメント ・周手術期および長期的な問題と看護援助	竹田、長
9	周手術期にある小児と家族への看護援助の実際	周手術期の子どもと家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	竹田、長
10	慢性状態にある小児と家族への看護援助(1)	・慢性状態にある小児と家族に生じやすい問題 ・小児の疾患・療養行動の理解とセルフケア能力 ・親から小児へのセルフケアの移行と看護援助 ・慢性疾患をもつ小児の成人期移行の現状と課題、看護援助	荒木・河上・天野・高山
11	慢性状態にある小児と家族への看護援助(2)	・慢性状態にある小児と家族に生じやすい問題 ・小児の疾患・療養行動の理解とセルフケア能力 ・親から小児へのセルフケアの移行と看護援助 ・慢性疾患をもつ小児の成人期移行の現状と課題、看護援助	荒木・河上・天野・高山
12	慢性状態にある小児と家族への看護援助の実際(1)	慢性状態にある小児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	竹田・長
13	慢性状態にある小児と家族への看護援助の実際(2)	慢性状態にある小児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	竹田・長
14	重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護(1)	・重症心身障害児・高度医療依存児の現状と課題 ・小児の健康状態の維持と成長発達を支える小児と家族への看護援助 ・重症心身障害児・高度医療依存児の在宅移行の現状と　　課題、小児と家族への看護援助	市原
15	重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護(2)	・重症心身障害児・高度医療依存児の現状と課題 ・小児の健康状態の維持と成長発達を支える小児と家族への看護援助 ・重症心身障害児・高度医療依存児の在宅移行の現状と　　課題、小児と家族への看護援助	市原
16	重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護の実際(1)	重症心身障害児、医療的ケア児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	市原
17	小児におけるエンドオブライフケア(1)	・小児の予後不良疾患 ・小児におけるエンドオブライフケアの現状と課題	荒木・河上・天野・高山
18	小児におけるエンドオブライフケア(2)	・小児の予後不良疾患 ・小児におけるエンドオブライフケアの現状と課題	荒木・河上・天野・高山
19	小児におけるエンドオブライフケアの実際(1)	エンドオブライフケアの看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	荒木・河上・天野・高山
20	様々な状況にある小児と家族への看護援助(1)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
21	様々な状況にある小児と家族への看護援助(2)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
22	様々な状況にある小児と家族への看護援助(3)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
23	様々な状況にある小児と家族への看護援助(4)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
24	専門看護師による高度看護実践(1)	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	竹田、長、荒木・河上・天野・高山
25	専門看護師による高度看護実践(2)	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	竹田、長、荒木・河上・天野・高山
26	専門看護師による高度看護実践(3)	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	竹田、長、荒木・河上・天野・高山

27	まとめのプレゼンテーション	倫理調整、調整、教育などを用いて、臨床現場のケアの質向上に資する活動を計画し、提案するためのプレゼンテーションを行う	竹田、長、荒木・河上・天野・高山

【６】　事前・事後学習とその時間

小児看護領域において、生じやすい倫理的問題やその調整、様々な健康問題を有する、あるいは複雑な状況にある小児を理解する上で必要となる理論や概論についての文献検討および学習を事前に行っておくこと。
事例を用いて倫理調整やコーディネーションを行えるよう、プレゼンテーション、ディスカッションを通して進めていく。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝えし、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ Russell, LT. et al: Family-centered Care and Positive Developmental Outcomes for Youth with Special Health Care Needs: Variations across Family Structures. Journal of Family Nursing,29-59, 24(1),2018.・？ Kerr, H., et.al: Transition from Children’s to adult services for young adults with life-limiting conditions: A realist review of the literature. International journal of Nursing Studies, 76, 1-27, 2017.
・ Beth, CL. et al.: Transition Needs of parents of Adolescents and Emerging Adults with Special HealthCare Needs and Disabilities. Journal of Family Nursing, 362-412, 21(3), 2015.
その他、適宜紹介、提示する。小児看護学特論Ⅰの参考資料も参照すること

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に課題に関連する文献学習を行う。事例の取り扱いに関しては倫理的配慮を十分に行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Child Health NursingⅡ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）萩原綾子（非常勤講師・神奈川こども医療センター）小林瑞穂（非常勤講師・訪問看護ステーションダイジョブ）佐藤菜緒、吉野尚一（兼担・小児救急認定看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

多職種と連携しながら、小児のトリアージ、医療的ケア児への看護（レスパイトケア、デイサービスや在宅を含む）に参加し、小児看護における高度看護実践を学ぶ。

【３】　到達目標

１．救急外来でのトリアージおよびホームケア指導や子育て支援に関する研修を行い、多職種との連携による高度実践看護の活動を学ぶ
２．重症心身障害児への看護（レスパイトケア、デイサービスや在宅を含む）、または、入院中の小児への遊びの支援（プレパレーション含む）に参加し、多職種との連携による高度実践看護の活動を学ぶ

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	コースオリエンテーション	授業の概要、進め方	荒木
2	フィールドワーク計画作成	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	荒木・河上
3	フィールドワーク計画作成	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	荒木・河上
4	フィールドワーク計画プレゼンテーション	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	荒木・河上
5	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
6	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
7	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
8	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
9	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
10	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
11	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
12	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
13	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
14	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
15	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
16	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
17	フィールドワークまとめ	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習のまとめ	荒木・河上
18	フィールドワーク計画	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	荒木・河上
19	フィールドワーク計画	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	荒木・河上
20	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
21	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
22	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
23	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
24	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
25	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上

26	フィールドワークまとめ	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	荒木・河上
27	まとめ	授業のまとめ	荒木・河上

【６】　事前・事後学習とその時間

提示された演習場面において、実践を通して高度看護実践の役割や機能を学ぶ。
事前学習、文献を活用した事後レポートを提出する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

出席状況50%、演習への取り組み・プレゼンテーション50%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評や解説を伝え、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

必要であれば文献管理ツールの講習会に参加する。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Community Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

一定地域を担当する行政保健師の視点から行った地域診断を行う。

【３】　到達目標

地域の健康課題を明らかにするための手法として看護診断の演習を行い、その成果を踏まえ、地域住民の健康向上を目指した研究方法を説明できる。さらに、演習を通してデータ収集と分析を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と方法	岸
2	地域診断の方法	地域診断の方法論（1）	岸
3	地域診断の方法	地域診断の方法論（2）	岸
4	地域診断演習	対象地域の地域診断演習（1）	望月
5	地域診断演習	対象地域の地域診断演習（2）	望月
6	地域診断演習	対象地域の地域診断演習（3）	望月
7	保健計画評価	対象地域の保健計画と評価（1）	岸
8	保健計画評価	対象地域の保健計画と評価（2）	岸
9	研究方法の探求	地域診断を踏まえた研究方法の探究（1）	岸
10	研究方法の探求	地域診断を踏まえた研究方法の探究（2）	岸
11	データ収集と分析	地域看護学に関する量的研究データの分析（1）	望月
12	データ収集と分析	地域看護学に関する量的研究データの分析（2）	望月
13	データ収集と分析	地域看護学に関する質的研究データの分析（1）	岸
14	データ収集と分析	地域看護学に関する質的研究データの分析（2）	岸
15	データ収集と分析	地域看護学に関する質的研究データの分析（3）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

学生が地域診断を行い、その成果を発表するとともに、データを用いた分析の演習を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

別途案内する。

【10】　参考書

別途案内する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Community Health NursingⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

地域における事業の形成過程の演習を通して、地域住民と共に行なうニーズ分析、地域住民のエンパワーメント、住民とのパートナーシップによるヘルスプロモーション活動を演習する。また、地域ケア推進のために求められる地域看護管理について理解する。

【３】　到達目標

地域におけるニーズに応じた地域ケアの事業開発及びヘルスプロモーション、エンパワーメント、パートナーシップに関する公衆衛生看護活動について具体的に述べることができる。さらに、健康づくり推進のために求められる地域看護管理について根拠を示しながら説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と進め方	岸
2	地域看護活動の展開	地域看護活動過程	岸
3	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程（1）	岸
4	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程（2）	岸
5	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程（3）	岸
6	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程（4）	岸
7	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程（5）	岸
8	健康づくり戦略	健康づくり戦略（1）	岸
9	健康づくり戦略	健康づくり戦略（2）	岸
10	健康づくり戦略	健康づくり戦略（3）	岸
11	健康づくり戦略	健康づくり戦略（4）	岸
12	健康づくり戦略	健康づくり戦略（5）	岸
13	地域看護管理	地域看護管理（1）	岸
14	地域看護管理	地域看護管理（2）	岸
15	地域看護管理	地域看護管理（3）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

講義内容に基づいて論文クリティークおよび地域ケアに関する事業の分析を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

必要に応じ、その都度提示する。

【10】　参考書

必要に応じ、その都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Public Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月由紀子 yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

学生の主体的な学びを重視し、学生のプレゼンテーションとディスカッションによる講義をすすめる。

【３】　到達目標

公衆衛生看護学分野の研究における概念、量的・質的研究のデザインやデータ収集、分析、結果の公表の方法を説明できる。さらに、上記の研究方法を踏まえた上で関心のあるテーマにそった文献検討を行うことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	研究における概念	公衆衛生看護学研究における概念(1)	岸
3	研究における概念	公衆衛生看護学研究における概念(2)	岸
4	研究倫理	研究における倫理（1）	岸
5	研究倫理	研究における倫理(2)	岸
6	データ収集と分析	質的研究のデザイン（1）	岸
7	データ収集と分析	質的研究のデザイン(2)	岸
8	データ収集と分析	量的研究のデザイン(3)	岸
9	データ収集と分析	量的研究のデザイン(4)	岸
10	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（1）	望月
11	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（2）	望月
12	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（3）	望月
13	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（4）	望月
14	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（5）	望月
15	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（6）	望月
16	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（7）	望月
17	データ収集と分析	研究データの収集-量的分析-（8）	望月
18	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（1）	岸
19	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（2）	岸
20	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（3）	岸
21	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（4）	岸
22	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（5）	岸
23	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（6）	岸
24	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（7）	岸
25	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（8）	岸
26	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（9）	岸
27	データ収集と分析	研究データの収集-質的分析-（10）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

近藤潤子監訳．(2010)．看護研究：原理と方法．医学書院
グレッグ美鈴他編著．（2007）．よくわかる質的研究の進め方・まとめ方．医歯薬出版株式会社

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。
学生が主体的に文献検討を行い学習する。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Public Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月由紀子yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

地域の健康課題を明らかにするために、社会背景を踏まえて、公衆衛生看護学分野に関連する文献のクリティークを行い、批判的思考をもとに分析できる。地域の健康課題を抽出する方法を公衆衛生看護学に関する理論や方法論を用いて、分析したデータをもとに根拠を示しながら説明できる。

【３】　到達目標

地域の健康課題を明らかにするために、国内外の文献のクリティークを通して、批判的思考を養う。公衆衛生看護学分野における研究の量的分析、質的分析方法を体系的に学び、自己の課題を探求する方法を検討できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護倫理	研究における倫理（1）	望月
3	公衆衛生看護倫理	研究における倫理（2）	望月
4	公衆衛生看護倫理	研究における倫理（3）	望月
5	公衆衛生看護倫理	研究における倫理（4）	望月
6	量的研究データの分析	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析（1）	望月
7	量的研究データの分析	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析（2）	望月
8	量的研究データの分析	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析（3）	望月
9	量的研究データの分析	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析（4）	望月
10	量的研究データの分析	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析（5）	望月
11	量的研究データの分析	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析（6）	望月
12	質的研究データの分析	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析（1）	岸
13	質的研究データの分析	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析（2）	岸
14	質的研究データの分析	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析（3）	岸
15	質的研究データの分析	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析（4）	岸
16	質的研究データの分析	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析（5）	岸
17	質的研究データの分析	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析（6）	岸
18	文献クリティーク	文献クリティークとは(1)	岸
19	文献クリティーク	文献クリティークとは(2)	岸
20	文献クリティーク	文献クリティークの方法(1)	岸
21	文献クリティーク	文献クリティークの方法(2)	岸
22	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク(1)	岸、望月
23	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク(2)	岸、望月
24	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク(3)	岸、望月
25	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク(4)	岸、望月
26	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク(5)	岸、望月
27	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク(6)	岸、望月

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
事前学習をもとに、学生自身が主体的に課題に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

前田樹海他　翻訳(2011)　APA論文作成マニュアル　第2版
牧本清子他編著（2020）　よくわかる看護研究論文のクリティーク　第2版
その他、適宜授業で紹介します。

【10】　参考書

別途案内する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。
学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験を踏まえグループ討議を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Public Health NursingⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月由紀子yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

関心がある公衆衛生看護学領域の健康課題を選定し、関連する組織・地域でフィールドワークを行い、必要なデータ収集と分析ができる。その成果を踏まえて、評価方法も含め、健康課題を解決するための方法を多面的に検討して、自身の研究計画を立案できる。

【３】　到達目標

関心がある公衆衛生看護学領域の健康課題を明らかにし、健康課題を解決するための具体策を毛の党するために、フィールドワークを行う。フィールドワークで収集した情報を分析することで、課題解決のための方法を多面的に検討し、自身の看護実践や研究計画につなげることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義のガイダンス	本講義の目的と進め方	岸、望月
2	健康課題の抽出	公衆衛生看護活動における健康課題の抽出（1）	岸、望月
3	健康課題の抽出	公衆衛生看護活動における健康課題の抽出（2）	岸、望月
4	演習計画の立案	演習計画についてのプレゼンテーション（1）	岸、望月
5	演習計画の立案	演習計画についてのプレゼンテーション（2）	岸、望月
6	フィールドワーク	フィールドワーク（1）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
7	フィールドワーク	フィールドワーク（2）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
8	フィールドワーク	フィールドワーク（3）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
9	フィールドワーク	フィールドワーク（4）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
10	フィールドワーク	フィールドワーク（5）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
11	フィールドワーク	フィールドワーク（6）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
12	フィールドワーク	フィールドワーク（7）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
13	フィールドワーク	フィールドワーク（8）（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
14	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（1）	岸、望月
15	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（2）	岸、望月
16	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（3）	岸、望月
17	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（4）	岸、望月
18	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（5）	岸、望月
19	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（6）	岸、望月
20	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（7）	岸、望月
21	フィールドワーク分析	フィールドワークで収集したデータの分析（8）	岸、望月
22	フィールドワークの評価	フィールドワークの評価についてのプレゼンテーション（1）	岸、望月
23	フィールドワークの評価	フィールドワークの評価についてのプレゼンテーション（2）	岸、望月
24	フィールドワークの成果	健康課題を解決するための具体的方策の提案（1）	岸、望月
25	フィールドワークの成果	健康課題を解決するための具体的方策の提案（2）	岸、望月
26	フィールドワークの成果	健康課題を解決するための具体的方策の提案（3）	岸、望月
27	フィールドワークの成果	健康課題を解決するための具体的方策の提案（4）	岸、望月

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

必要に応じ、その都度提示する。

【10】　参考書

必要に応じ、その都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。
学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験を踏まえグループ討議を行う。
授業形態は対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、ZOOM を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**在宅看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Home Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	藤原　和美				
担当教員	藤原和美（看護学研究科・教授）、成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp　　成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom ,
タブレット

【２】　授業概要

国内外の在宅ケアの現状、動向、および関連する法制度についての分析から、地域包括的に在宅看護の現状をアセスメントできる能力を養う。

【３】　到達目標

１．在宅看護について、歴史、法制度、地域包括ケアシステム、および看護組織管理などから多面的に分析し記述できる。
２．在宅療養の意義と看護の役割について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学の概念	オリエンテーション	藤原
2	在宅ケアの概念　1	在宅ケアの理念①	藤原
3	在宅ケアの概念　2	在宅ケアの理念②	藤原
4	在宅ケアの概念　3	在宅ケアの歴史①	成澤
5	在宅ケアの概念　4	在宅ケアの歴史②	成澤
6	在宅ケアの現状　1	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源①	藤原
7	在宅ケアの現状　2	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源②	藤原
8	在宅ケアの現状　3	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源③	藤原
9	在宅ケアの現状　4	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源④	藤原
10	在宅看護と地域包括ケア1	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状①	藤原
11	在宅看護と地域包括ケア2	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状②	藤原
12	在宅看護と地域包括ケア3	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後①	成澤
13	在宅看護と地域包括ケア4	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後②	成澤
14	療養者への理解　1	対象者理解のための理論①	藤原
15	療養者への理解　2	対象者理解のための理論②	藤原
16	療養者への理解　3	対象者理解の実際①	
17	療養者への理解　4	対象者理解の実際②	
18	在宅看護組織の管理運営1	訪問看護ステーションの管理運営①	藤原
19	在宅看護組織の管理運営2	訪問看護ステーションの管理運営②	藤原
20	在宅看護組織の管理運営3	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営①	藤原
21	在宅看護組織の管理運営4	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営②	藤原
22	在宅看護における倫理　1	在宅看護における倫理的問題①	成澤
23	在宅看護における倫理　2	在宅看護における倫理的問題②	成澤
24	在宅看護における倫理　3	在宅看護における倫理的問題③	成澤
25	在宅看護における倫理　4	在宅看護における倫理的問題④	成澤
26	在宅看護学の動向　1	在宅看護学の課題と動向①	藤原
27	在宅看護学の動向　2	在宅看護学の課題と動向①	藤原

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

Google Classroomで全体評価を行うとともに、課題・レポートに関しては個別に対面で評価を行う。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**在宅看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Home Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	藤原　和美				
担当教員	藤原和美（看護学研究科・教授）、成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp　成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom,タブレット

【２】　授業概要

理論やモデルをもとに在宅療養者をアセスメントできる基礎能力を養う。

【３】　到達目標

１．地域で生活しながら療養する人々と家族について理解を深めるため、在宅看護の基本的な理論について説明できる。
２．対象を理解するための理論を理解し、在宅看護における課題を記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学における理論	ガイダンス	藤原、成澤
2	在宅看護学における理論と概念　１	エンパワメント①	藤原
3	在宅看護学における理論と概念　２	エンパワメント②	藤原
4	在宅看護学における理論と概念　３	エンパワメント③	藤原
5	在宅看護学における理論と概念　４	エンパワメント④	藤原
6	在宅看護学における理論と概念　５	ストレングスモデル①	成澤
7	在宅看護学における理論と概念　６	ストレングスモデル②	成澤
8	在宅看護学における理論と概念　７	ストレングスモデル③	成澤
9	在宅看護学における理論と概念　８	ストレングスモデル④	成澤
10	在宅看護学における理論と概念　９	国際機能分類ーICF　①	藤原
11	在宅看護学における理論と概念　１０	国際機能分類ーICF　②	藤原
12	在宅看護学における理論と概念　１１	国際機能分類ーICF　③	藤原
13	在宅看護学における理論と概念　１２	国際機能分類ーICF　④	藤原
14	在宅看護学における理論と概念　１３	ニューマンシステムモデル①	成澤
15	在宅看護学における理論と概念　１４	ニューマンシステムモデル②	成澤
16	在宅看護学における理論と概念　１５	ニューマンシステムモデル③	成澤
17	在宅看護学における理論と概念　１６	ニューマンシステムモデル④	成澤
18	在宅看護と家族看護論　１	在宅療養者の家族の実際と課題①	成澤
19	在宅看護と家族看護論　２	在宅療養者の家族の実際と課題②	成澤
20	在宅看護と家族看護論　３	在宅療養者の家族の実際と課題③	成澤
21	在宅看護と家族看護論　４	在宅療養者の家族の実際と課題④	成澤
22	地域と在宅ケア　１	療養場所移行を支えるチームのあり方と看護①	藤原
23	地域と在宅ケア　２	療養場所移行を支えるチームのあり方と看護①	成澤
24	地域と在宅看護　１	地域における在宅看護の役割と課題①	藤原
25	地域と在宅看護　２	地域における在宅看護の役割と課題②	藤原
26	地域と在宅看護　３	地域における在宅看護の役割と課題③	藤原
27	地域と在宅看護　４	地域における在宅看護の役割と課題④	藤原

【６】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【８】　フィードバック方法

Google Classroomで全体評価を行うとともに授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**在宅看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Home Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	藤原和美（看護学研究科・教授）、成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp　藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末

【２】　授業概要

在宅看護学に関連する文献に関して批判的に吟味、検討するとともに、実践報告のレビューを行いゼミ形式で課題検討、および効果的な在宅看護実践方法を探求する能力を養う。

【３】　到達目標

１．地域において療養する人とその家族を包括的にアセスメントするための方略を文献および実践を通して記述できる。
２．在宅療養継続のためのシームレスな看護方略およびチームケアのあり方について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学研究	ガイダンス	藤原・成澤
2	在宅看護継続のための看護方略①	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略①	藤原・成澤
3	在宅看護継続のための看護方略②	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略②	藤原・成澤
4	在宅看護継続のための看護方略③	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略③	藤原・成澤
5	在宅看護継続のための看護方略④	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略④	藤原・成澤
6	在宅看護継続のための看護方略⑤	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑤	藤原・成澤
7	在宅看護継続のための看護方略⑥	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑥	藤原・成澤
8	在宅看護継続のための看護方略⑦	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑦	藤原・成澤
9	在宅看護継続のための看護方略⑧	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑧	藤原・成澤
10	在宅看護における文献クリティーク①	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク①	藤原・成澤
11	在宅看護における文献クリティーク②	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク②	藤原・成澤
12	在宅看護における文献クリティーク③	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク③	藤原・成澤
13	在宅看護における文献クリティーク④	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク④	藤原・成澤
14	在宅看護における文献クリティーク⑤	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク①	藤原・成澤
15	在宅看護における文献クリティーク⑥	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク②	藤原・成澤
16	在宅看護における文献クリティーク⑦	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク③	藤原・成澤
17	在宅看護における文献クリティーク⑧	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク④	藤原・成澤
18	フィールドワーク①	フィールドワーク計画書の作成①	藤原・成澤
19	フィールドワーク②	フィールドワーク計画書の作成②	藤原・成澤
20	フィールドワーク③	フィールドワーク計画書の作成③	藤原・成澤
21	フィールドワーク④	フィールドワーク計画書の作成④	藤原・成澤
22	フィールドワーク⑤	フィールドワーク計画書の発表①	藤原・成澤
23	フィールドワーク⑥	フィールドワーク計画書の発表②	藤原・成澤
24	フィールドワーク⑦	フィールドワーク計画書の発表③	藤原・成澤
25	フィールドワーク⑧	フィールドワーク計画書の発表④	藤原・成澤
26	フィールドワーク⑨	フィールドワーク計画書の修正①	藤原・成澤
27	フィールドワーク⑩	フィールドワーク計画書の修正②	藤原・成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**在宅看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Home Health NursingⅡ	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	藤原和美（看護学研究科・教授）、成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp　　藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末

【２】　授業概要

各自が関心を持っている領域から研究課題を明確にし、分析方法を検討できる能力を養う。

【３】　到達目標

１．関心を持っている看護実践の場において、在宅療養における重要な課題や研究課題を説明できる。
２．研究課題を実証的に検討する方法を検討し、研究計画書を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	研究の進め方	藤原・成澤
2	研究課題の明確化①	在宅看護における研究課題の発表①	藤原・成澤
3	研究課題の明確化②	在宅看護における研究課題の発表②	藤原・成澤
4	研究課題の明確化③	研究課題に関する文献クリティーク①	藤原・成澤
5	研究課題の明確化④	研究課題に関する文献クリティーク②	藤原・成澤
6	研究課題の明確化⑤	研究課題に関する文献クリティーク③	藤原・成澤
7	研究課題の明確化⑥	研究課題に関する文献クリティーク④	藤原・成澤
8	研究課題の明確化⑦	研究課題に関する文献クリティーク⑤	藤原・成澤
9	研究課題の明確化⑧	研究課題に関する文献クリティーク⑥	藤原・成澤
10	研究デザイン①	研究デザインの発表①	藤原・成澤
11	研究デザイン②	研究デザインの発表②	藤原・成澤
12	研究デザイン③	研究デザインの発表③	藤原・成澤
13	研究デザイン④	研究デザインの発表④	藤原・成澤
14	フィールドワーク①	フィールドワーク（予備調査）①	藤原・成澤
15	フィールドワーク②	フィールドワーク（予備調査）②	藤原・成澤
16	フィールドワーク③	フィールドワーク（予備調査）③	藤原・成澤
17	フィールドワーク④	フィールドワーク（予備調査）④	藤原・成澤
18	フィールドワーク⑤	フィールドワーク（予備調査）の結果評価①	藤原・成澤
19	フィールドワーク⑥	フィールドワーク（予備調査）の結果評価②	藤原・成澤
20	研究計画書①	研究計画書の作成①	藤原・成澤
21	研究計画書②	研究計画書の作成②	藤原・成澤
22	研究計画書③	研究計画書の作成③	藤原・成澤
23	研究計画書④	研究計画書の作成④	藤原・成澤
24	研究計画書⑤	研究計画書の発表①	藤原・成澤
25	研究計画書⑥	研究計画書の発表②	藤原・成澤
26	研究計画書⑦	研究計画書の発表③	藤原・成澤
27	研究計画書⑧	研究計画書の発表④	藤原・成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ゼミでは、学生の主体的な運営により実施する。行なってきた文献検討、フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し課題を深めることを期待する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**感染制御学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Infection Control and Prevention Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授） 内藤拓（医学部・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆　毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子　毎週木曜日12：15-13：15 内藤拓　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

感染症の起炎菌と感染経路およびその制御について検討する。
感染症の診断と治療に関する基礎知識と宿主免疫の働きについて理解する。

【３】　到達目標

1.感染症起炎菌の感染経路と対策について具体的に述べることができる。
2.臨床における主な感染症とその診断法の概要を説明できる。
3.抗菌薬と抗菌薬耐性菌に関する基礎的知識について述べることができる。
4.病原体に対する宿主免疫の働きについて述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染制御学の概念	感染制御とは	小林
2	感染症と流行	病原体の移動と伝播	小林
3	感染経路と遮断①	各種感染経路別対策と方法①	小林
4	感染経路と遮断②	各種感染経路別対策と方法②	小林
5	感染症と病原微生物①	食中毒、主要な細菌感染症①	小林
6	感染症と病原微生物②	食中毒、主要な細菌感染症②	小林
7	感染症と病原微生物③	主要なウイルス感染症と特徴①	小林
8	感染症と病原微生物④	主要なウイルス感染症と特徴②	小林
9	日和見感染症①	免疫力の低下と感染症①	小林
10	日和見感染症②	免疫力の低下と感染症②	小林
11	感染症診断①	臨床検体の採取と取り扱い①	小林
12	感染症診断②	臨床検体の採取と取り扱い②	小林
13	感染症診断③	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念①	小林
14	感染症診断④	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念②	小林
15	抗菌薬感受性の基礎	抗菌薬感受性試験とその概念	勝瀬
16	抗菌薬感受性と標準法①	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準①	勝瀬
17	抗菌薬感受性と標準法②	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準②	勝瀬
18	抗菌薬と特徴①	抗菌薬の微生物に対する作用①	勝瀬
19	抗菌薬と特徴②	抗菌薬の微生物に対する作用②	勝瀬
20	抗菌薬と特徴③	抗菌薬の種類と作用機序①	勝瀬
21	抗菌薬と特徴④	抗菌薬の種類と作用機序②	勝瀬
22	抗菌薬耐性菌①	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌①	勝瀬
23	抗菌薬耐性菌②	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌②	勝瀬
24	免疫①	免疫とは①	内藤
25	免疫②	免疫とは②	内藤
26	免疫③	病原体に対する免疫の働き①	内藤
27	免疫④	病原体に対する免疫の働き②	内藤

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
その他、講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってGoogle classroom,zoom等を用い授業を行う。
講義を基にゼミナール形式で行う。
過去に学習した感染と防御(予防)に関する内容について復習しておくことが望ましい。
身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Infection Control and PreventionⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授） 内藤拓（医学部・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆　毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子　毎週木曜日12：15-13：15 内藤拓　　授業後に質問を受け付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

医療関連施設内感染が生じる要因について環境および宿主側の因子から探求し、サーベイランスの必要性およびその遮断法について検討する。抗菌薬耐性菌と効果的な抗菌薬治療について科学的根拠に基づいたPK-PD理論を理解する。特殊病態下での免疫について理解し、易感染宿主における感染対策について検討する。

【３】　到達目標

1. 医療関連感染で問題となる病原体と分布について具体的に述べることができる。
2. 抗菌薬耐性菌の性質とそれらが生じる仕組みを説明することができる。
3. 抗菌薬の特性と適正使用による耐性菌の抑制法に関する基礎的な知識を説明することができる。
4. アレルギーや特殊病態下での免疫と感染症とのかかわりについて概要を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療関連感染①	医療関連感染の実態①	小林
2	医療関連感染②	医療関連感染の実態②	小林
3	医療関連感染と病原体①	医療関連感染の主な病原体①	小林
4	医療関連感染と病原体②	医療関連感染の主な病原体②	小林
5	起炎菌と感染症診断①	抗原や遺伝子を利用した感染症診断①	勝瀬
6	起炎菌と感染症診断②	抗原や遺伝子を利用した感染症診断②	勝瀬
7	起炎菌と感染症診断③	染色や培養法による感染症診断	勝瀬
8	AMR(抗菌薬耐性菌)問題	世界における抗菌薬耐性菌問題	小林
9	抗菌薬耐性菌①	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など①	小林
10	抗菌薬耐性菌②	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など②	小林
11	抗菌薬耐性菌③	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など①	小林
12	抗菌薬耐性菌④	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など②	小林
13	抗菌薬適正使用①	抗菌薬の体内動態とモニタリング①	小林
14	抗菌薬適正使用②	抗菌薬の体内動態とモニタリング②	小林
15	抗菌薬適正使用③	PK-PD理論と抗菌薬適正使用①	小林
16	抗菌薬適正使用④	PK-PD理論と抗菌薬適正使用②	小林
17	感染症サーベイランス①	各種サーベイランスと手法①	小林
18	感染症サーベイランス②	各種サーベイランスと手法②	小林
19	主要な感染症①	血流感染症と起炎菌の特徴①	小林
20	主要な感染症②	血流感染症と起炎菌の特徴②	小林
21	主要な感染症③	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴①	小林
22	主要な感染症④	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴②	小林
23	免疫⑤	免疫とアレルギー①	内藤
24	免疫⑥	免疫とアレルギー②	内藤
25	免疫⑦	特殊病態下での免疫①	内藤
26	免疫⑧	特殊病態下での免疫②	内藤
27	遺伝子疫学解析	遺伝子手法を利用した分子疫学的解析	小林

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってGoogle classroom,zoom等を用い授業を行う。
講義を基にゼミナール形式で行う。
感染制御学特論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Infection Control and Prevention Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆　毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子　毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

感染制御学特論を基盤に、感染症の診断について理解し、感染制御における意義を検討する。感染症起炎菌の抗菌薬に対する感受性を実験的に検証することにより抗菌薬の特性や抗菌薬耐性菌の検索の手法を理解し、病院感染および市中感染の適切な対応へつなげる能力を培う。

【３】　到達目標

1. 微生物を法令に準拠した方法で適正に取り扱うことができる。
2. 細菌学的手法を用い感染症の診断と耐性菌検出を行うことができる。
3. 実際のアウトブレイク事例をとおしサーベイランスを行うことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染症および微生物と法律①	バイオハザード、バイオセーフティ①	小林・勝瀬
2	感染症および微生物と法律②	バイオハザード、バイオセーフティ②	小林・勝瀬
3	感染症および微生物と法律③	病原微生物の適正な取扱い方法①	小林・勝瀬
4	感染症および微生物と法律④	病原微生物の適正な取扱い方法②	小林・勝瀬
5	感染症診断①	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い①	小林・勝瀬
6	感染症診断②	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い②	小林・勝瀬
7	感染症診断③	塗抹と鏡見、グラム染色①	小林・勝瀬
8	感染症診断④	塗抹と鏡見、グラム染色②	小林・勝瀬
9	感染症診断⑤	臨床検体の培養と同定①	小林・勝瀬
10	感染症診断⑥	臨床検体の培養と同定②	小林・勝瀬
11	感染症診断⑦	迅速診断法	小林・勝瀬
12	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御①	抗菌薬感受性測定の原理と実際① ディスク拡散法	小林・勝瀬
13	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御②	抗菌薬感受性測定の原理と実際② MIC法	小林・勝瀬
14	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御③	抗菌薬感受性測定の原理と実際③ MIC法	小林・勝瀬
15	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御④	国際標準(CLSI)基準による感受性測定結果の解釈	小林・勝瀬
16	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑤	抗菌薬耐性菌の検出①	小林・勝瀬
17	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑥	抗菌薬耐性菌の検出②	小林・勝瀬
18	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑦	抗菌薬耐性菌の検出③	小林・勝瀬
19	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑧	抗菌薬耐性菌の検出④	小林・勝瀬
20	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑨	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証①	小林・勝瀬
21	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑩	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証②	小林・勝瀬
22	感染制御を目的としたサーベイランス①	流行の分類、アウトブレイクの検知①	小林・勝瀬
23	感染制御を目的としたサーベイランス②	流行の分類、アウトブレイクの検知②	小林・勝瀬
24	感染制御を目的としたサーベイランス③	アウトブレイク事例への対応の実際①	小林・勝瀬
25	感染制御を目的としたサーベイランス④	アウトブレイク事例への対応の実際②	小林・勝瀬
26	感染制御を目的としたサーベイランス⑤	アウトブレイク事例への対応の実際③	小林・勝瀬
27	感染制御を目的としたサーベイランス⑥	アウトブレイク事例への対応の実際④	小林・勝瀬

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(80%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。
必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。
感染制御学特論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症と抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名(日本語)	**感染制御学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Infection Control and PreventionⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	小林寅喆毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
　実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
　ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
　活用しない

【２】　授業概要

抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染および市中感染の起炎菌の抗菌薬耐性機序の解析と使用抗菌薬との関連を検証する。病院感染の原因菌の伝播経路の解析方法を学び、結果を考察し実践への応用について検討する。

【３】　到達目標

1. 抗菌薬耐性菌の生じる仕組みと耐性機構について具体的に述べることができる。
2. 病院内および市中に分布する耐性菌を調査し菌株間の関連性を解析する分子遺伝学的手法を実施することができ、その結果を解析することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策①	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討①	小林・勝瀬
2	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策②	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討②	小林・勝瀬
3	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策③	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討③	小林・勝瀬
4	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策④	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討④	小林・勝瀬
5	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策⑤	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討⑤	小林・勝瀬
6	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策⑥	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討⑥	小林・勝瀬
7	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法①	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得①	小林・勝瀬
8	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法②	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得②	小林・勝瀬
9	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法③	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得③	小林・勝瀬
10	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法④	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得④	小林・勝瀬
11	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法⑤	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得⑤	小林・勝瀬
12	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法⑥	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得⑥	小林・勝瀬
13	演習内容の研究テーマへの活用①	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証①	小林・勝瀬
14	演習内容の研究テーマへの活用②	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証②	小林・勝瀬
15	演習内容の研究テーマへの活用③	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証③	小林・勝瀬
16	演習内容の研究テーマへの活用④	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証④	小林・勝瀬
17	演習内容の研究テーマへの活用⑤	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証⑤	小林・勝瀬
18	演習内容の研究テーマへの活用⑥	研究概要の整合性と妥当性の検証①	小林・勝瀬
19	演習内容の研究テーマへの活用⑦	研究概要の整合性と妥当性の検証②	小林・勝瀬
20	演習内容の研究テーマへの活用⑧	研究概要の整合性と妥当性の検証③	小林・勝瀬
21	演習内容の研究テーマへの活用⑨	研究概要の整合性と妥当性の検証④	小林・勝瀬
22	演習内容の研究テーマへの活用⑩	研究概要の整合性と妥当性の検証⑤	小林・勝瀬
23	演習内容の研究テーマへの活用⑪	研究計画書の内容について討議①	小林・勝瀬
24	演習内容の研究テーマへの活用⑫	研究計画書の内容について討議②	小林・勝瀬
25	演習内容の研究テーマへの活用⑬	研究計画書の内容について討議③	小林・勝瀬
26	演習内容の研究テーマへの活用⑭	研究計画書の内容について討議④	小林・勝瀬
27	演習内容の研究テーマへの活用⑮	研究計画書の内容について討議⑤	小林・勝瀬

【６】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み(80%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。
必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。
感染制御学特論Ⅱ、感染制御学演習Ⅰで学習した内容、実験手技について復習しておくこと。
医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて情報を集め調べておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名(日本語)	**看護倫理**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Ethics	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 伊藤桂子（看護学研究科・教授） 平田松吾（看護学研究科・非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

めまぐるしく変化する医療・看護の現場および社会における倫理的課題について教授する。生命倫理と看護倫理の基礎的知識、看護の場における倫理的問題とジレンマ、遺伝医療と診断の発展による情報化社会での倫理的課題、終末期医療と安楽死、人権擁護とハラスメント、など多岐にわたる事例をとおして、看護倫理とは何かを学生ひとりひとりが探求していく。

【３】　到達目標

1.生命倫理の基礎的知識を理解し、看護倫理の歴史的背景、国際的動向について説明することができる。
2.看護実践における倫理的問題についての分析と意思決定のプロセスについて説明することができる。
3.多様化する社会現象を看護倫理の視点から分析し、説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	看護倫理とは	歴史的背景と倫理原則	村上
3-6	倫理原則	倫理原則 Non-maleficence/Beneficence/Justice/Autonomy/Veracity/Fidelityについて	村上
7-9	倫理とは	哲学的背景、倫理学、そして看護倫理へ	平田
10-13	看護実践にかかわる倫理概念	看護実践にかかわる倫理概念 Advocacy/Accountability/Responsibility/Caring/Cooperationについて	村上
14-19	看護が直面する倫理的課題	看護の場における倫理的問題とジレンマ	伊藤
20-23	研究倫理	研究倫理指針、倫理審査、利益相反をめぐる問題点	村上
24-27	専門分野における倫理課題	各自の専門分野における倫理課題に関する最近／最新の知見、専門分野を超えて共通あるいは異なる問題の側面の検討	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

1.講義内容と文献や書籍を基に学修し、ゼミナール形式で議論を行う。
2.30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準
課題への取り組40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書
講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書
講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
学習した内容の発表など、学習者主体のゼミナール形式のため積極的な発表と議論を期待する。各講義の前には、発表準備ならびに十分な文献・資料を読み講義に臨むこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**医療言語論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical Discourse Analysis	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	平田　松吾				
担当教員	平田松吾（看護学研究科・非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	平田松吾atarich■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	講義終了後				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

言語活動を考察するために重要なテキストを読み、その読解を中心に、言語活動の諸問題を考える。
一部、英語のテキストを読む場合もある。

【３】　到達目標

医療は言語活動の場である。言語活動を幅広く分析し、考察する能力を養う。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	なぜ医療言語論か？	多言語社会としての医療現場	平田
3-6	静養言語論の歴史とナラティヴ分析	静養言語論の歴史とナラティヴ分析	平田
7-18	ナラティヴ分析の技法	ナラティヴ分析の技法	平田
19-20	痛みの言語論	痛みの言語論	平田
22-27	言語論テキスト解読	言語論テキスト解読	平田

【６】　事前・事後学習とその時間

参考書に目を通すことが望ましい。

【７】　評価方法・基準

出席30%、授業中の態度や取組み20%、レポート50%

【８】　フィードバック方法

講義、およびディスカッション形式で進める。

【９】　教科書

プリント形式で適宜配布する。

【10】　参考書

1) 内田樹『ためらいの倫理学』角川文庫
2) Labov,W. Therapeutic Discourse: Psychotherapy as Conversation. Academic Press,1977
3) アリストテレス（戸塚七郎訳）『弁論術』岩波文庫

【11】　備考(関連科目等)

参考書目に目を通すことが望ましい。

科目名(日本語)	**社会学研究特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Sociology Research	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	森岡　崇				
担当教員	森岡　崇（慶應義塾志木高等学校　教諭）				
科目責任者 連絡先(教室)	森岡　崇　morioka ■ shiki.keio.ac.jp ※■を @ に置き換える。				
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、またはPC

【２】　授業概要

「社会って何だろう？」これは、なかなか答えるのが難しい問いである。しかし、ベッドサイドも病院も、すべてこの「社会」に含まれる。したがって、看護研究の実践に際しても、一度立ち止まって考えてみる価値がある問いだといえよう。本講義では、テキストをもとに社会学の基礎を学びながら、実践研究へつながる道筋をイメージできるようにすることを目的とする。履修に際し社会学の基礎知識は一切不要である。しかし、自分自身に興味関心を持ち続けることを忘れずに。意外に思われるかもしれないが、社会を読み解く際のカギとなるものといえよう。

【３】　到達目標

１．病床も含めた社会のとらえ方について、基礎的資格を得ることができる。
２．社会のとらえ方を学ぶことで、新たな視点による臨床現場への理解を深めることができる。
３．数値になりにくい現象を、理解する能力を高めることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	社会学概論①	ガイダンス	森岡
2	社会学概論②	社会とは何か？	森岡
3	社会学概論③	社会とは何か？	森岡
4	社会学概論④	社会学はなにができるのか ―発想の違い	森岡
5	社会学概論⑤	社会学はなにができるのか ―日常性へのまなざし	森岡
6	社会学概論⑥	社会学はなにができるのか ―日常性へのまなざし	森岡
7	調査方法論①	グラウンデッド・セオリー1	森岡
8	調査方法論②	グラウンデッド・セオリー2	森岡
9	調査方法論③	グラウンデッド・セオリー3	森岡
10	発表①	文献輪読	森岡
11	発表②	文献輪読	森岡
12	演習①	データ分析	森岡
13	発表③	文献輪読	森岡
14	発表④	文献輪読	森岡
15	演習②	データ分析	森岡
16	発表⑤	文献輪読	森岡
17	発表⑥	文献輪読	森岡
18	演習③	インタビュー実習	森岡
19	発表⑦	文献輪読	森岡
20	発表⑧	文献輪読	森岡
21	演習④	データ分析	森岡
22	発表⑨	文献輪読	森岡
23	発表⑩	文献輪読	森岡
24	演習⑤	データ分析	森岡
25	発表⑪	文献輪読	森岡
26	発表⑫	文献輪読	森岡
27	まとめ	社会学の可能性	森岡

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式で実施する。
理論的な部分に関しては、講義形式をとる。演習は看護研究の作品を読み込む。また、可能であれば、データ収集についての演習も取り入れる。各自の研究テーマに基づく発言を期待する。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、各自の分担課題についてのプレゼンテーション（30%）、最終課題レポート（50%）により総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート、あるいは授業中のプレゼンテーションをSABCの４段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

『「あたりまえ」を疑う社会学　質的調査のセンス』好井裕明、光文社新書
『戦いの軌跡-小児がんによる子どもの喪失と母親の成長』戈木クレイグヒル滋子、川島書店
その他、授業で提示する。

【10】　参考書

『死のアウェアネスと看護 ―死の認識と終末期ケア』B. グレイザー&A. ストラウス 木下康仁（訳）、医学書院
『質的研究の基礎 第3版』J. コービン&A. ストラウス 操華子・森岡崇（訳）、医学書院
『フィールドワークの技法』佐藤郁哉、新曜社
『暴走族のエスノグラフィー―モードの叛乱と文化の呪縛』佐藤郁哉、新曜社

【11】　備考(関連科目等)

社会学の基礎知識は一切不要。
正解が見えない領域に入って行く。「社会って何だろう？」「わたしって何だろう？」といった問いをグルグル考え続けるのが好きな方、自分自身に興味を持っている方の履修を期待する。

科目名(日本語)	**生殖医学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Medicine	選択	講義	1年次･春	単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	片桐由起子（大森病院・教授）　竹下直樹（佐倉病院・教授）　福田雄介（大森病院・講師）　麻生敬子（大森病院・講師）　谷口智子（大森病院・助教）　星秀夫（医学部・講師）　李　巍（薬学部・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 片桐　由起子 竹下　直樹 福田 雄介 麻生　敬子 谷口　智子 星　秀夫 李　巍 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	片桐由起子授業終了後に質問を受け付ける。 竹下直樹授業終了後に質問を受け付ける。 福田雄介授業終了後に質問を受け付ける。 麻生敬子授業終了後に質問を受け付ける。 谷口智子授業終了後に質問を受け付ける。 星秀夫授業終了後に質問を受け付ける。 李　巍　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom　PC

【２】　授業概要

助産師国家試験受験資格を得るための必須科目である。
性と生殖に関する知識を医学的観点から教授する。生殖器の機能、生殖補助医療、性感染症、不妊症などを中心テーマとする。
男女の生殖器系の健康状態を査定し診断するために必要な性と生殖の基礎的な知識を学ぶ。また、ライフサイクル各期の起こる主な疾患や生殖や妊孕性に関連する諸問題、生殖医療、性感染症について理解し、健康状態のアセスメントができる能力を身につける。

【３】　到達目標

1.男女の生殖器系の解剖を図示し、男女の生殖器系の生理を説明できる。
2.女性の悪性腫瘍の診断方法、治療方法を説明できる。
3.生殖や妊孕性に関連する倫理を含む諸問題を理解し、女性の妊孕性に影響する要因を述べることができる。
４．女性の一生の中で特にホルモンの影響を受ける時期に特有な疾患に対する治療について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	男女の生殖器系①	男性の生殖器系の解剖①	星
2	男女の生殖器系②	女性の生殖器系の解剖①	星
3	男女の生殖器系の解剖見学①	男女の生殖器系の解剖①（見学）	星
4	男女の生殖器系の解剖見学②	男女の生殖器系の解剖②（見学）	星
5	生殖器系の検査①	内分泌検査法・内視鏡検査法・画像検査法	福田
6	生殖器系の検査②	検査の実際の見学	福田
7	生殖器系の治療①	ホルモン療法・腹腔鏡手術	福田
8	生殖器系の治療②	手術の見学	福田
9	思春期に起こりやすい疾患①	病態	麻生
10	思春期に起こりやすい疾患②	治療	麻生
11	女性の性周期と不妊	女性の性周期の調整機序と不妊症	片桐
12	生殖補助医療	生殖補助医療	片桐
13	がん生殖	がん生殖	片桐
14	生殖補助医療を受ける夫婦への支援	生殖補助医療を受ける夫婦への支援	不妊治療認定看護師
15	性感染症①	性感染症の検査	産婦人科医師
16	性感染症②	性感染症の治療	産婦人科医師
17	更年期障害	女性の疾患に利用される漢方薬（薬学部で行います。）	李　巍
18	更年期障害	桂枝茯苓丸の調剤　（薬学部で行います。）	李　巍
19	出生前診断①	出生前診断の方法	竹下
20	出生前診断②	出生前診断を受ける女性への支援	認定遺伝カウンセラー（原田）
21	遺伝①	遺伝性疾患の診断	竹下
22	遺伝②	遺伝性疾患の治療	竹下
23	女性の悪性腫瘍の診断①	女性の悪性腫瘍の診断①	谷口
24	女性の悪性腫瘍の診断②	女性の悪性腫瘍の診断②	谷口
25	女性の悪性腫瘍の治療①	女性の悪性腫瘍の治療①	谷口
26	女性の悪性腫瘍の治療②	女性の悪性腫瘍の治療②	谷口
27	まとめ	講義内容のまとめを行う。	福島

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。
新型コロナウイルス感染症の感染状況によりオンラインでの講義となることがある。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、試験（80%）から総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

試験については結果を提示し、設問について解説する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

1）武谷雄二他「第3版プリンシプル産科婦人科学１」メディカルビュー社・2014年

【11】　備考(関連科目等)

授業では、積極的に発言し参加すること。必ず復習をして見学等に臨むこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**性科学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Sexology	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）　松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）　永尾光一（大森病院・教授） 中田かおり（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp 中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp 永尾光一 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日 10:00～11:00 富岡由美毎週月曜日　10:00～11:00 中田かおり毎週月曜日 12:00～13:00 永尾光一　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom、Zoom、Pc

【２】　授業概要

助産師国家試験受験資格を得るための必須科目である。講義とゼミ・演習形式で展開する。助産の対象となる妊産婦とそのパートナーをそれぞれの性をもち生きる人間として幅広く捉える基盤を養う。また、性に対する健康教育を実践することで、学部で学んだ性科学概論を基に、様々な性を生きる人間のあり様を探求する。

【３】　到達目標

1. 人間の性（humansexuality）を、生殖という身体的・生理学的側面から説明できる。
2. 人間の性（humansexuality）を、心理社会的側面から学際的にとらえて説明できる。
3. 人間の性愛や医療を大脳生理学・神経生理学の領域からもとらえて男女の性差による違いを説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス	性の捉え方についての意見交換	福島
2	科学的にみた性	性を科学的にみる、セクシュアリティにおける性差	福島
3	女性のライフサイクルと性①	思春期までの性意識	福島
4	女性のライフサイクルと性②	更年期までの性意識	福島
5	男性のライフサイクルと性①	思春期から更年期までの男性の性①	永尾
6	男性のライフサイクルと性②	思春期から更年期までの男性の性②	永尾
7	男性の性①	男性の性反応①	永尾
8	男性の性②	男性の性反応②	永尾
9	男性の性③	男性不妊の病態ED治療の臨床①	永尾
10	男性の性④	男性不妊の病態ED治療の臨床②	永尾
11	女性の性の諸問題①	人工妊娠中絶①	福島
12	女性の性の諸問題②	人工妊娠中絶②	福島
13	女性の性の諸問題③	DV、虐待①	福島
14	女性の性の諸問題④	DV、虐待②	福島
15	性の多様化①	マイノリティの性①	福島
16	性の多様化②	マイノリティの性②	福島
17	性の多様化③	マイノリティの性③	中田
18	性の多様化④	マイノリティの性④	中田
19	性の多様化⑤	マイノリティの性⑤	中田
20	性の多様化⑥	マイノリティの性⑥	中田
21	性科学と研究①	プレコンセプションについて①	富岡・中田
22	性科学と研究②	プレコンセプションについて②	富岡・中田
23	性科学と研究③	プレコンセプションについて③	富岡・中田
24	性科学と研究④	プレコンセプションについて④	富岡・中田
25	性科学と研究⑤	プレコンセプションについて⑤	松永
26	性科学と研究⑥	プレコンセプションについて⑥	松永
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
講義に加えて、一部グループワークを行う。
対面形式にて実施する。

【7】　評価方法・基準

授業およびディスカッションへの取り組み（20%）、各自の分担課題についてのプレゼンテーション（80%）で総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う。

【9】　教科書

1）我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座２ 母子の基礎科学」医学書院・2021年（第6版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。

科目名(日本語)	**看護政策特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing policy	選択	2単位	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島　富士子（看護学研究科　教授）　　岸　恵美子（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島　富士子　fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 岸　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島　富士子　毎週月曜日　10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

保健医療福祉政策が大きく転換する中で、看護の立場から政策に提言することは住民の生活の質を保障するという観点から非常に重要である。看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を明らかにし、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言を探究する。
院生が関心を持っている看護政策課題について、文献研究およびフィールド研究によって看護政策の現状・課題を明らかにし、新たな政策案をプレゼンテーションし、討論する。院生の主体的発表・討論を重視する。

【３】　到達目標

1.保健医療福祉政策が大きく転換する中で、住民の生活の質を保障するという観点で看護の立場から政策に提言するために必要なプロセスを述べることができる。
2.看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を述べることができる。
3.上記を踏まえ、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言書を作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	福島
2	行政政策①	行政政策の定義	福島
3	行政政策②	わが国の看護政策の変遷	福島
4	看護政策①	看護政策　変遷と現状・課題①人材育成　資格制度	福島
5	看護政策②	看護政策　変遷と現状・課題②看護教育　看護職員需給計画	福島
6	看護政策③	看護政策　変遷と現状・課題③人材確保	福島・岸
7	看護政策の展開過程①	看護政策の発展過程①　　―看護制度を例に―	福島・岸
8	看護政策の展開過程②	看護政策の発展過程②　　―看護制度を例に―	福島・岸
9	看護政策の展開過程③	看護政策の問題分析・評価　―看護制度を例に―	福島・岸
10	保健医療福祉制度①	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題	福島・岸
11	保健医療福祉制度②	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題	福島・岸
12	保健医療福祉制度③	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題	福島・岸
13	文献研究・フィールドワーク①	文献研究・フィールド研究等を実施	福島・岸
14	文献研究・フィールドワーク②	文献研究・フィールド研究等を実施	福島・岸
15	文献研究・フィールドワーク③	文献研究・フィールド研究等を実施	
16	文献研究・フィールドワーク④	文献研究・フィールド研究等を実施	
17	文献研究・フィールドワーク⑤	文献研究・フィールド研究等を実施	
18	文献研究・フィールドワーク⑥	文献研究・フィールド研究等を実施	
19	看護政策提言書の作成①	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題との比較	
20	看護政策提言書の作成②	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題との比較	
21	看護政策提言書の作成③	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題との比較	
22	看護政策提言書の作成④	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題との比較	
23	看護政策提言書の発表①	院生による発表と討論①	
24	看護政策提言書の発表②	院生による発表と討論②	
25	看護政策提言書の発表③	院生による発表と討論③	
26	看護政策提言書の発表④	院生による発表と討論④	
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島・岸

【6】　事前・事後学習とその時間

課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーショ（20%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

課題にそって授業開始時に提示する。

【10】　参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。

科目名(日本語)	看護フィジカルアセスメント論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Physical Assessment	選択	演習	1年次･秋	2単位 45時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）、竹田佳子（大森病院・看護部） 本多満（大森病院・臨床教授）、四本竜一（大森病院・看護部） 橋本裕（看護学研究科・講師）、渕本雅昭（大森病院・看護部） 山田亨（大森病院・看護部）、大和田芽衣子（大森病院・看護部） 福田友秀（武蔵野大学・講師／急性・重症患者看護専門看護師） 細萱順一（かわぐち心臓呼吸器病院・急性・重症患者看護専門看護師） 瀧口千枝（健康科学部・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30－13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

複雑な健康問題をもった対象の身体状況の査定と臨床判断に必要な基礎的な知識・技術を教授する。また、現在臨床実践を行っている各分野のエキスパートの指導を受けて、系統的・統合的なフィジカルアセスメントを実践する能力を習得する。

【３】　到達目標

1.臨床病態生理学特論・臨床薬理学特論で得た知識を活用し学内演習でそれぞれの専門分野の看護実践へとつながる基礎的なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得し、説明することができる。
2.専門看護師として必要な高度なフィジカルアセスメント能力について説明することができる。
3.臨床を想定した複雑な事例に対してフィジカルアセスメントを実施し、高度看護実践の方針を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護におけるフィジカルアセスメントの必要性	看護におけるフィジカルアセスメントの意義、講義・演習の進め方・シミュレータの使い方	村上・渕本
2-3	フィジカルアセスメントの基本	フィジカルアセスメントの基本的技法、病歴聴取と身体診察の基本	村上
4-6	外皮・感覚器系のアセスメント	皮膚および眼・耳・鼻・口腔の診察法	山田
7-10	脳神経系のアセスメント	脳神経系の診察法、脳神経系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	渕本
11-14	呼吸器系のアセスメント	呼吸器系の診察法、呼吸器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	四本
15-18	循環器系のアセスメント	循環器系の診察法、循環器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	細萱
19-22	消化器系のアセスメント	消化器系の診察法、消化器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	福田
23-24	小児のフィジカルアセスメント	身体の発育、身体機能の発達、心理社会性の発達、生活習慣行動の発達	竹田
25-26	高齢者のフィジカルアセスメント	生理的変化をふまえた身体機能の評価、知能・認知や生活機能の評価	橋本
27-28	検査データからの臨床判断	臨床検査データの読み方、心電図、胸腹部Ｘ線写真の読み方	本多、山田
29-32	症状論1	胸痛・呼吸困難の症状および兆候からのアセスメント	瀧口
33-34	症状論2	頭痛の症状および兆候からのアセスメント	村上・渕本・大和田
35-36	症状論3	腹痛の症状および兆候からのアセスメント	村上・渕本・大和田
37-47	統合演習①	学内シミュレーション室	村上
48-54	統合演習②	東邦大学医療センター大森病院（救命救急センター、病棟等）	村上・本多・渕本・大和田

【６】　事前・事後学習とその時間

１．講義および実習室・シミュレーションラボ・救命救急センター等での演習を行う。
２．45 時間の演習に対して、45時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み20%、演習への取り組み20%、プレゼンテーション40%、OSCE20%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義・演習の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義・演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

１．基本的なフィジカルアセスメントを復習した上で参加すること。
２．演習に関する留意事項は別途提示する。
３．遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床病態生理学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Pathophysiology	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	湯浅　玲奈				
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）、瓜田純久（大森病院・教授） 舘田一博（医学研究科・教授）、本多満（大森病院・教授）、中島耕一（大森病院・教授） 南木敏宏（大森病院・教授）、片桐由起子（大森病院・教授）、根本隆洋（大森病院・教授） 周郷延雄（大森病院・教授）、濱崎祐子（大森病院・准教授）、関谷秀樹（大森病院・准教授） 小原明（東京工科大学・特任教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	湯浅玲奈rnyuasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週金曜日13:00ー13:30				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

臨床症状が生じる原因・病態生理を学ぶことは、看護のアセスメントの根拠となり得る。
患者の症状からそのメカニズムを理解することは疾患の原因の推測につながり、異常の早期発見のための観察を可能にし、看護師として重要な役割となる。必要に応じそれぞれの分野の専門家の講義を入れながらの授業の展開をする。

【３】　到達目標

1.対象の病態生理学的変化を根拠にもとづいて解釈し、看護診断の基盤となる知識を述べることができる。
2.発現している身体症状の原因となる病態生理を説明できる。
3.病状に対する診断法および治療法の知識を深め、根拠に基づいた看護実践を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染症	・免疫機構 ・細菌・ウイルス・真菌が原因の疾病の病態、診断・治療 ・発熱と感染症との関連	舘田
2-3	呼吸器および循環器疾患①	・呼吸の異常の病態生理 ・呼吸困難、咳嗽、喀痰、喀血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全（ショック）、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム	本多
4-5	呼吸器および循環器疾患②	・呼吸の異常の病態生理 ・呼吸困難、咳嗽、喀痰、喀血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全（ショック）、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム	本多
6-7	血液疾患	血液疾患および播種性血管内凝固に関する病態生理、診断・治療	小原
8-9	内分泌疾患①	臨床上よく見かける内分泌疾患① －下垂体・甲状腺疾患－	湯浅
10-11	内分泌疾患②	臨床上よく見かける内分泌疾患② －副腎・悪性腫瘍－	湯浅
12-13	小児救急疾患	症状からみた小児移植の病態生理、診断・治療	濱崎
14-15	消化器疾患	食欲不振、腹痛、便秘、下痢の症状から消化器疾患の病態生理の関連	瓜田
16-17	婦人科疾患	婦人科疾患の病態生理、診断・治療	片桐
18-19	泌尿器疾患	泌尿器系疾患の病態生理、診断・治療	中島
20-21	膠原病	膠原病の原因、病態生理、診断・治療	南木
22-23	精神疾患	精神疾患の診断・治療	根本
24-25	口腔内疾患	口腔内疾患の病態生理、診断・治療	関谷
26-27	脳神経外科	脳神経外科疾患の病態生理、診断・治療	周郷

【６】　事前・事後学習とその時間

各専門領域の医師による講義。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

今まで体験してきた臨床所見と結びつけ、探求心を持ち学習に臨むこと。履修についての問い合わせは村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jpまで。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床薬理学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Pharmacology	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	杉山 篤				
担当教員	杉山篤（医学部・教授）田中耕一郎（大森病院・准教授）武井義則（医学部・准教授） 中瀬古寛子（医学部・准教授）村上好恵（看護学研究科・教授）越川一誠（大森病院・薬剤部） 木村伊都紀（大森病院・薬剤部）大橋隼人（大森病院・薬剤部）伊藤優紀（大森病院・薬剤部） 今川未紀（大森病院・薬剤部）青山剛一（大森病院・薬剤部）川上達也（大森病院・薬剤部） 平山忍（大森病院・薬剤部）小川隆之（大森病院・薬剤部） 村上好恵（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	杉山篤atsushi.sugiyama■med.toho-u.ac.jp 村上好恵ymuraka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	村上好恵　毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

薬物は『両刃の剣』と呼ばれるように、治療や診断に極めて有用である反面、副作用や中毒の危険性も有する。臨床看護活動において薬物治療に対する理解は極めて重要である。薬物と人体の相互作用およびそれらの臨床応用について学ぶ。また、臨床現場で活動している臨床薬剤師の講義から実践的に学び、薬剤投与に関する判断、投与後の患者の観察、投薬を余儀なくされた患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理に関する看護を考える。

【３】　到達目標

1.人体に対する薬物の作用、作用点、作用機序の概念を説明できる。
2.薬物の吸収・分布・代謝・排泄および薬効に影響する因子について説明できる。
3.生体内活性物質の生理作用と病態との連関を薬物治療の観点から説明できる。
4.基本的な疾患・病態における薬物治療の根拠を説明できる。
5.代表的な薬物の作用、作用機序、副作用を列挙し、説明できる。
6.病態との関連を考慮し、薬剤投与を受ける患者の看護計画立案ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	薬物－受容体相互作用薬力学薬物動態学	薬物の作用メカニズム（体内動態・投薬経路、用量など）の基本的知識を学び、臨床薬理学の理解へとつなげる。また、高齢者の薬理作用を理解する。さらにインスリン分泌のメカニズム、糖尿病治療薬について学ぶ。	杉山
3-4	薬物－受容体相互作用薬力学薬物動態学	薬物の作用メカニズム（体内動態・投薬経路、用量など）の基本的知識を学び、臨床薬理学の理解へとつなげる。また、高齢者の薬理作用を理解する。さらにインスリン分泌のメカニズム、糖尿病治療薬について学ぶ。	中瀬古
5-6	薬物－受容体相互作用薬力学薬物動態学	薬物の作用メカニズム（体内動態・投薬経路、用量など）の基本的知識を学び、臨床薬理学の理解へとつなげる。また、高齢者の薬理作用を理解する。さらにインスリン分泌のメカニズム、糖尿病治療薬について学ぶ。	武井
7-8	抗感染症薬	抗菌薬の適正使用について薬剤選択、体内動態、薬効、毒性などについて学ぶ。	平山
9-10	抗癌薬	がん化学療法について副作用の症状・管理について学ぶ	越川
11-12	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬・抗炎症薬の体内動態・薬効・副作用について学ぶ。	小川
13-14	呼吸器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物のメカニズムについて学ぶ。	今川
15-16	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系の構造・機能について学ぶ。また代表的な麻酔薬・催眠薬・頭痛薬の作用について学ぶ。	木村
17-18	心臓・血管系に作用する薬物	循環器系に作用する薬物のメカニズムについて学び、代表的な心不全治療薬・抗高血圧症薬・抗狭心症薬および抗不整脈薬の作用について学ぶ。	大橋
19-20	消化器・生殖器系に作用する薬物	代表的な消化性潰瘍治療薬および制吐薬の作用について学ぶ。また、女性の性と生殖における薬物について学ぶ。	川上
21-22	物質代謝に作用する薬物	特に脂質代謝および脂質異常症の作用メカニズムについて学ぶ。	伊藤
23-24	救急の際に使用される薬物	救急時使用薬の作用について学ぶ。	青山
25-26	漢方薬	漢方薬の作用機序・特徴を知る。	田中
27	薬理学の基本的知識と看護を再考する	病態との関連を考え、看護のあり方を考案する。	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

1.講義・宿題発表
2.30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

講義への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

1)系統看護学講座薬理学大鹿英世他医学書院
2)病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDSi

【10】　参考書

1)系統看護学講座薬理学大鹿英世他医学書院
2)病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDSi

【11】　備考(関連科目等)

本科目を受講するにあたり、生理学と薬理学について、充分な基礎知識を習得しておくことが前提となる。テキストを事前に読んでおくこと。履修についての問い合わせは村上まで。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**看護管理**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Administration	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）熊谷雅美（非常勤講師）藤野泰平（非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子　fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 原三紀子　mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp 松永佳子　papermw■med.toho-u.ac.jp 山内英樹　hideki.yamauchi■med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	荒木：毎週木曜日12：30～13：15 福島：毎週木曜日12：30～13：15 原：毎週木曜日12：30～13：15 松永：毎週水曜日12：30～13：15 山内：毎週木曜日12：30～13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

マクロな視点での医療制度・政策、ミクロな視点での病院組織（チーム組織）の理解、人的資源管理について講義・学生のプレゼンを中心に討議を行う。

【３】　到達目標

1.高度実践看護師として必要な看護管理の基礎知識（日本におけるヘルスケアシステム・看護制度・政策・看護管理、看護職の社会的な立場や環境、組織と組織で働く人間を理解するための理論）を学ぶことで、看護管理の知識について説明できる。
2.1.の知識をもとに、自らが置かれている組織（働く場）や看護チーム・個々人について分析しプレゼンテーションできる。
3.1.と2.を活用し、組織の中で協働する力やマネジメント能力をどのように活用するかを述べることができる。
4.看護職における人材育成の課題や将来展望を見いだすためにキャリア開発・人的資源管理の諸理論を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護管理概論	ガイダンス／看護管理者・高度実践看護師として学ぶ看護管理とは	荒木
2	医療の動向と看護管理①	ヘルスケアシステム論	荒木
3	医療の動向と看護管理②	医療政策と診療報酬	荒木
4	医療の動向と看護管理③	介護報酬、障害福祉サービス、	荒木
5	組織管理①	組織論、組織行動論	荒木
6	組織管理②	組織論、組織行動論	荒木
7	組織管理③	組織論、組織行動論	荒木
8	組織管理④	組織論、組織行動論	荒木
9	看護サービスの質管理①	医療におけるクオリティ・マネジメント	荒木
10	看護サービスの質管理②	医療におけるクオリティ・マネジメント	荒木
11	看護サービスの質管理③	看護サービスの質保証・向上	荒木
12	看護サービスの質管理④	看護サービスの質保証・向上	荒木
13	組織管理⑤	リーダーシップ論とチームマネジメント	荒木
14	組織管理⑥	リーダーシップ論と課題解決	荒木
15	人的資源管理①	キャリア開発・人材育成	荒木
16	人的資源管理②	キャリア開発・人材育成	荒木
17	人的資源管理③	人材ポートフォリオ・高度実践看護師の活用	荒木
18	労務管理①	労働法令、賃金体系、医療安全	熊谷
19	労務管理②	労働法令、賃金体系、医療安全	熊谷
20	労務管理③	労働法令、賃金体系、医療安全	熊谷
21	地域における看護管理①	地域包括ケアにおける看護管理	荒木
22	地域における看護管理②	地域包括ケアにおける看護管理	藤野
23	地域における看護管理③	地域における起業家としての看護管理	藤野
24	地域における看護管理④	地域における起業家としての看護管理	藤野
25	地域における看護管理⑤	地域ケアシステムからみた自組織の位置づけと将来像	荒木
26	まとめのプレゼンテーション	課題に関するプレゼンテーション	荒木
27	まとめのプレゼンテーション	課題に関するプレゼンテーション	荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

授業テーマについての学生のプレゼンテーションをもとに討議を行い、学修を深める。
授業の実施形式は、履修者と相談の上決定する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

討議への参加状況（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

適宜授業内で必読文献を紹介する予定。

【10】　参考書

井部俊子ほか監修.『看護管理学習テキスト第3版第１~5巻』日本看護協会出版会、2022
スティーブン P.ロビンス，マネジメント入門，ダイヤモンド社，2014
佐藤美香子.看護管理実践計画書　標準テキスト.日総研.2016

【11】　備考(関連科目等)

最初の授業時に、各プレゼンテーションの担当を決定する。各回の授業テーマに関する参考文献をあらかじめ読み授業に臨むこと。それを元に、テーマについてのグループワークやディスカッションを通して学びを深めていく。テーマによっては、その分野におけるエキスパートを招いて見識を広めていく。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	**看護学特別研究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Research on Nursing Sciences and Arts	必修	実験・実習	2～3年次・通年	8単位 240時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）横井郁子（看護学研究科・教授）小林寅喆（看護学研究科・教授） 村上好恵（看護学研究科・教授）福島富士子（看護学研究科・教授）伊藤桂子（看護学研究科・教授） 菊池麻由美（看護学研究科・教授）原三紀子（看護学研究科・教授）藤原和美（看護学研究科・教授） 夏原和美（看護学研究科・教授）湯浅玲奈（看護学研究科・教授）坂本なほ子（看護学研究科・教授） 荒木暁子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授） 望月由紀子（看護学研究科・准教授）成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	各指導教員に確認すること。				
オフィスアワー	各指導教員に確認すること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【2】　授業概要

看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、博士論文を作成する。

【3】　到達目標

1．フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる。
2．自らの研究の学術的意義，新規性，独創性及び応用的価値について説明できる。
3．研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
4．課題の研究的探索に有効な研究計画を立案できる。
5．収集したデータを分析し、得られた知見を論文として表現できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	各指導教員・副指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、博士論文の作成まで、自主的に研究の過程を展開します。	各担当教員
2	指導体制	指導教員・副指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

【6】　事前・事後学習とその時間

各指導教員が適切な方法により実施する。

【7】　評価方法・基準

研究計画書の立案から、博士論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【9】　教科書

各指導教員が適宜、必要な文献等について指示する。

【10】　参考書

各指導教員が適宜、必要な文献等について指示する。

【11】　備考(関連科目等)

各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Infection Control and Prevention	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

関連文献やガイドラインを用い、ディスカッション、および学生によるプレゼンテーションを中心に行う。

【３】　到達目標

1.臨床微生物学に関する知識を基礎として、感染症ならびにその制御の視点から、医療施設における感染管理に応用することができる。
2.病院内に限らず地域の医療現場における安全性を保証すること、および、流行する新興・再興感染症の制圧に寄与することを目的とし、時代とともに変化する感染症とその制御への問題解決に対応できる研究を遂行するための基礎的知識を習得し説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ヒトと感染症①	微生物の分布およびヒトとの関わり	小林
2	ヒトと感染症②	臨床において問題となる微生物とその性状①	小林
3	ヒトと感染症③	臨床において問題となる微生物とその性状②	小林
4	ヒトと感染症④	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わり①	小林
5	ヒトと感染症⑤	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わり②	小林
6	感染症の予防と対策①	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法①	小林
7	感染症の予防と対策②	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法②	小林
8	感染症診断と感染対策①	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈①	小林
9	感染症診断と感染対策②	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈②	小林
10	感染症診断と感染対策③	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法①	小林
11	感染症診断と感染対策④	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法②	小林
12	感染症診断と感染対策⑤	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用①	小林
13	感染症診断と感染対策⑥	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用②	小林
14	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)①	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズム①	小林
15	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)②	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズム②	小林
16	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)③	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性①	小林
17	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)④	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性②	小林
18	AMRの特性と感染制御①	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組み①	小林
19	AMRの特性と感染制御②	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組み②	小林
20	AMRの特性と感染制御③	医療関連施設感染における耐性菌とその問題	小林
21	サーベイランス	アウトブレイクを察知するサーベイランス手法	小林
22	領域別感染症の特性と感染制御①	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策①	小林
23	領域別感染症の特性と感染制御②	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策②	小林
24	ガイドライン①	医療関連施設感染に関する主なガイドライン①	小林
25	ガイドライン②	医療関連施設感染に関する主なガイドライン②	小林
26	まとめ①	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などの発表および質疑応答①	小林
27	まとめ②	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などの発表および質疑応答②	小林

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってGoogle classroom,zoom等を用い授業を行う。
。
講義を基盤にゼミナール形式で行う。
過去に学習した感染と防御(予防)に関連した内容について復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症から世界で問題となっている感染症および抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Infection Control and Prevention	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

主要な病原微生物を用いた実験と解析を中心に演習を行う。

【３】　到達目標

1.感染制御学特講を基盤に医療関連感染の実態を把握するための知識と技術を身につけることができる。
2.抗菌薬耐性菌が生じるメカニズムと伝播経路を理解し、適切な遮断の実行に結びつけることができる。
3.病院感染やアウトブレイクの発生をとらえる各種サーベイランス方法を踏まえ、疫学的側面から解析するための知識および技術を身に着けることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染予防策	WHOのバイオセーフティー概念について解説する。レベル別感染予防策と標準予防具の使用法、性能について実際に評価し理解する。	小林
2	抗菌薬適正使用①	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 －抗菌薬－	小林
3	抗菌薬適正使用②	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 －消毒薬－	小林
4	感染症診断①	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。1.各種染色	小林
5	感染症診断②	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。2.培養同定	小林
6	感染症診断③	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。3.迅速診断	小林
7	化学療法①	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。1.MIC測定	小林
8	化学療法②	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。2.殺菌曲線	小林
9	抗菌薬耐性(AMR)①	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。1.耐性菌の選択・誘導	小林
10	抗菌薬耐性(AMR)②	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。2.菌交代現象	小林
11	感染領域別サーベイランスの実際①	感染管理に必須の各種サーベイランス(血流感染、術後感染)を実際の成績を用いて解析する。	小林
12	感染領域別サーベイランス②	感染管理に必須の各種サーベイランス(人工呼吸器肺炎、耐性菌)を実際の成績を用い解析する。	小林
13	演習内容の研究テーマへの活用①	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
14	演習内容の研究テーマへの活用②	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
15	演習内容の研究テーマへの活用③	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
16	演習内容の研究テーマへの活用④	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
17	演習内容の研究テーマへの活用⑤	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
18	演習内容の研究テーマへの活用⑥	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
19	演習内容の研究テーマへの活用⑦	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
20	演習内容の研究テーマへの活用⑧	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
21	演習内容の研究テーマへの活用⑨	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
22	演習内容の研究テーマへの活用⑩	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
23	演習内容の研究テーマへの活用⑪	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
24	演習内容の研究テーマへの活用⑫	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
25	演習内容の研究テーマへの活用⑬	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
26	演習内容の研究テーマへの活用⑭	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
27	演習内容の研究テーマへの活用⑮	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(80%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式で実施する。
実験を主体とし、結果に対する考察をゼミナール形式で行う。
感染制御学特講で学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて調べておくこと。
医療関連感染に関する研究テーマについて具体的にあげ、必要な研究法について参考となる文献を準備しておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名(日本語)	**高齢者看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Gerontological Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

フィールドワークを実施するためのフィールド選び、調整から行う。この調整力も研究における重要な能力である。

【３】　到達目標

1.　自身の研究課題を明確にするためのフィールドワークを計画することができる。
2.　フィールドワークの成果をもとに自身の研究課題とともに課題解決のための研究方法について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者看護学分野における研究の動向	研究課題と社会背景	横井・藤野
2	研究課題の背景1	文献レビュー	横井・藤野
3	研究課題の背景2	文献レビュー	横井・藤野
4	研究課題の背景3	文献レビュー	横井・藤野
5	研究課題の背景4	文献レビュー	横井・藤野
6	研究課題の探求1	フィールドワーク	横井・藤野
7	研究課題の探求2	フィールドワーク	横井・藤野
8	研究課題の探求3	フィールドワーク	横井・藤野
9	研究課題の探求4	フィールドワーク	横井・藤野
10	研究課題の探求5	フィールドワーク	横井・藤野
11	研究課題の探求6	フィールドワーク	横井・藤野
12	研究課題の探求7	フィールドワーク	横井・藤野
13	研究課題の探求8	フィールドワーク	横井・藤野
14	研究課題の探求9	フィールドワーク	横井・藤野
15	研究課題の探求10	フィールドワーク	横井・藤野
16	研究課題の探求11	フィールドワーク	横井・藤野
17	研究課題の探求12	フィールドワーク	横井・藤野
18	課題の焦点化1	フィールドノートの分析	横井・藤野
19	課題の焦点化2	フィールドノートの分析	横井・藤野
20	課題の焦点化3	フィールドノートの分析	横井・藤野
21	課題の焦点化4	フィールドノートの分析	横井・藤野
22	課題への取り組み方法の検討1	発表と討議	横井・藤野
23	課題への取り組み方法の検討2	発表と討議	横井・藤野
24	課題への取り組み方法の検討3	発表と討議	横井・藤野
25	課題への取り組み方法の検討4	発表と討議	横井・藤野
26	研究計画立案1	発表と討議	横井・藤野
27	研究計画立案2	発表と討議	横井・藤野

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドの特性を十分考慮して課題に臨んで下さい。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み40%、レポート60%
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

学生によるプレゼンテーションおよび討議
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Health Nursing	選択	講義	1年次・春学期	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島　富士子（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島　富士子　fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

オムニバス方式と学生の主体的学習を組み合わせて行い、学生の自主性・積極性を尊重したゼミ形式で行う。

【３】　到達目標

リプロダクティブヘルス/ライツの理念のもとに性と生殖に関する学識を深め、ヘルスプロモーションの視点から女性のライフサイクルの各期における看護のあり方を探求し、新しい看護ケアの開発を目指す。
また、常に変化する社会のなかで医療・看護の立場から人々の健康の保持・増進に寄与できる人材を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス	科目の目標と狙い　オリエンテーション	福島
2	性・生殖と看護課題	わが国の性・生殖看護の現状と課題	福島
3	性・生殖と研究	性と生殖に関する文献検討	福島
4	性・生殖と研究	文献クリティーク	福島
5	思春期の保健課題	思春期保健の諸問題（基本的生活習慣）	福島
6	思春期保健と研究	思春期保健の諸問題に関する文献検討	福島
7	思春期保健と研究	文献クリティーク	福島
8	成熟期の保健課題	成熟期の女性の健康課題	福島
9	成熟期保健と研究	成熟期の女性の健康課題に関する文献検討	福島
10	成熟期保健と研究	文献クリティーク	福島
11	周産期の看護課題	周産期の女性の健康課題	福島
12	周産期の看護課題	周産期の女性の健康課題に関する文献検討	福島
13	周産期の看護課題	文献クリティーク	福島
14	更年期・老年期の課題	更年期・老年期における性の諸問題	福島
15	まとめ	性・生殖に関する看護課題について討論	福島

【６】　事前・事後学習とその時間

ゼミ形式で行う。文献検討は学生が主体的に実施する。

【７】　評価方法・基準

出席30%、授業中の態度や取組み20%、レポート50%

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

使用しない

【10】　参考書

授業の中で関連する文献、参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

特になし

科目名(日本語)	**小児看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

小児看護学領域で重要となる理論や概念に関する文献を抄読し、子どもと家族の健康をめぐる様々な現象を明らかにする具体的な研究方法を探究する。小児看護学関連領域の研究論文をクリティークし、小児看護学における研究の動向と課題を探究するとともに、自らの研究課題を明らかにする。

【３】　到達目標

1.小児看護学領域における主な理論や概念について理解し、研究におけるそれらの重要性について述べることができる。
2.論文クリティークをとおして、小児看護学領域における研究の動向と課題について述べることができる。
3.自分の研究課題とその解決のための方法を明らかにすることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション、理論と概念について	荒木
2	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
3	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
4	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
5	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
6	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
7	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
8	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
9	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
10	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
11	研究課題に関する文献検討		荒木
12	研究課題に関する文献検討		荒木
13	研究課題に関する文献検討		荒木
14	研究課題に関する文献検討		荒木
15	研究課題に関する文献検討		荒木
16	研究課題に関する文献検討		荒木
17	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
18	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
19	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
20	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
21	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
22	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
23	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
24	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
25	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
26	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
27	まとめ	授業のまとめ	荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

・課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

主体的に関心のある領域の文献検討を行い、研究課題を絞ることにつなげる。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Child Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、看護支援について検討する。また、研究を遂行する際の研究手法としてのデータ収集および分析方法について学ぶ。

【３】　到達目標

1.文献検討やフィールドワークをとおして、子どもや家族が抱える課題・看護支援について述べることができる。
2.研究課題に沿ったデータ収集方法や分析方法について述べることができる。
3.研究計画の概要を記述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション	荒木
2	フィールドワーク①	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
3	フィールドワーク②	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
4	フィールドワーク③	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
5	フィールドワーク④	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
6	フィールドワーク⑤	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
7	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
8	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
9	フィールドワーク①	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
10	フィールドワーク②	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
11	フィールドワーク③	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
12	フィールドワーク④	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
13	フィールドワーク⑤	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
14	フィールドワーク⑥	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
15	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
16	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
17	概念分析①	探求したい課題に関する概念分析	荒木
18	概念分析②	探求したい課題に関する概念分析	荒木
19	概念分析③	探求したい課題に関する概念分析	荒木
20	概念分析④	探求したい課題に関する概念分析	荒木
21	サブストラクション①	探求したい課題に関するサブストラクション	荒木
22	サブストラクション②	探求したい課題に関するサブストラクション	荒木
23	サブストラクション③	探求したい課題に関するサブストラクション	荒木
24	研究計画①	研究計画に関するディスカッション	荒木
25	研究計画①	研究計画に関するディスカッション	荒木
26	研究計画①	研究計画に関するディスカッション	荒木
27	まとめ	授業のまとめ	荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

研究課題に関連する文献検討を主体的に行い、フィールドワーク等をとおして実現可能な研究計画書の作成につなげる。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

・フィールドワークでは対象者に対する倫理的配慮を十分に行う。
・研究課題に関連する学術集会やセミナーには積極的に参加する。
・遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	**基礎看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Arts	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【２】　授業概要

この科目は博士論文となる研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。関心事象の記述と文献の抄読により、関心のある事象周辺の概念を整理し、研究計画書作成につなげる。また、文献を批判的に読む能力および、研究者に求められる倫理的姿勢を醸成する。

【３】　到達目標

関心のある看護の事象を多角的に把握することができる。
関心のる看護の事象を探求し、自分の研究のReal Reasonを言語化し、Clinical Question、Research Questionを明確にすることができる。
関心のある看護の事象について、レビュー論文を作成することができる。
研究者倫理について理解し、一看護学研究者として研究計画書を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護と看護科学	科目のオリエンテーション 看護学の発展の経緯と実践の科学としての看護学の特徴	菊池・小坂
2・3	関心事象の探求	関心のある看護事象の記述とプレゼンテーション 関心事象に近似する概念	菊池・小坂
４～６	研究者倫理	人を対象とした研究で発生しうるリスク 人を対象とした研究に求められる倫理的配慮 研究不正とその防止 自分の研究に感染する指針、ガイドラインの確認	菊池・小坂
７～15	文献検討	関心事象に関する文献の批判的吟味 関心のある看護事象の記述とプレゼンテーション	菊池・小坂
16～18	レビュー結果の報告	レビュー論文作成に向けて、進捗状況の報告とレビューの成果についての発表 関心事象についての討論	菊池・小坂
19～24	文献検討	関心事象に関する文献の批判的吟味 関心のある看護事象の記述とプレゼンテーション	菊池・小坂
25～27	まとめ	研究計画書発表 授業の総括	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

Hesook Suzie Kim著、上鶴重美監訳、看護学における理論志向の本質、日本看護協会出版会、2003.

【10】　参考書

開講時、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名(日本語)	**基礎看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Nursing Arts	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【2】　授業概要

演習参加者間での活発なディスカッションにより、関心をよせる事象に対する分析力、およびプレゼンテーション力を養う。

【3】　到達目標

看護の本質や看護職の生成と発達に関連した各自の関心あるテーマに沿って、文献検討と参与観察やインタビューを行い、自身の研究課題を明確化し、記述する。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概要	オリエンテーション 関心事象・Research Questionについてのプレゼンテーション	菊池・小坂・岡本
2・3	データ収集演習の準備	演習依頼準備 演習計画書・依頼書・同意説明書・同意書・同意撤回書の作成 演習のリスクとその対処法の検討 倫理的配慮	菊池・小坂・岡本
4～12	データ収集演習	関心事象についてのプレ調査の実施	菊池・小坂・岡本
13～15	演習報告①	調査状況・結果概要についてプレゼンテーション 関心事象に関する検討	菊池・小坂・岡本
16～24	データ分析演習	調査結果の分析	菊池・小坂・岡本
25・26	演習報告②	調査結果のプレゼンテーション 関心事象に関する検討	菊池・小坂・岡本
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂・岡本

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書
開講時、提示する。

【10】　参考書
開講時、提示する。

【11】　備考(関連科目等)
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の看護経験を振り返り、演習に対して各自が責任をもって主体的に取り組むことを期待する。

科目名(日本語)	**臨床看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）原沢のぞみ（看護学部･准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp 原沢のぞみnozomi.harasawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM,PC

【2】　授業概要

臨床看護学における有用な諸理論や研究のクリティークを通して、臨床看護学における研究の課題を明らかにすることができる。
講義は、プレゼンテーションを主体とする。

【3】　到達目標

臨床看護学領域における諸理論や国内外の研究の動向について学び、研究課題・研究方法について明らかにすることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	ガイダンス	オリエンテーション・学習計画の立案	原
3－6	看護実践に活かす理論①②	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル①②	原
7－10	看護実践に活かす理論③④	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル③④	原
11－14	看護研究クリティーク（1）	臨床看護学領域における研究の動向①②	原沢
15－18	看護研究クリティーク（2）	臨床看護学領域における研究の動向③④	原沢
19－22	看護研究クリティーク（3）	臨床看護学領域における研究の動向⑤⑥	原沢
23－25	看護研究クリティーク（4）	臨床看護学領域における研究の課題①	原･原沢
26－27	まとめ	学びの統合	原

【6】　事前・事後学習とその時間

各回のテーマについて事前に学習したものを発表し、ディスカッションを中心に進める。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーション60%、レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、適宜提示する。

【10】　参考書
参考文献は、適宜提示する。

【11】　備考(関連科目等)
主体的に参加する。

科目名(日本語)	**臨床看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Clinical Nursing	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【２】　授業概要

専門領域の研究の動向を踏まえ、研究課題を抽出できる。研究課題をもとにフィールドワークの計画、実施、評価を行い、研究テーマを精選することができる。

【３】　到達目標

各自の専門領域に関する文献レビューとフィールドワーク行い、研究テーマを明確化することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	臨床看護学演習①	ガイダンス	原
3－6	臨床看護学演習②	専門領域における研究の動向①②	原
7－10	臨床看護学演習③	専門領域における研究課題の抽出①②	原
11－14	臨床看護学演習④	専門領域における研究課題の抽出③④	原
15－18	臨床看護学演習⑤	フィールドワーク①②	原
19－22	臨床看護学演習⑥	フィールドワーク③④	原
23－25	臨床看護学演習⑦	フィールドワークの結果分析①②	原
26－27	臨床看護学演習⑧	演習のまとめ	原

【６】　事前・事後学習とその時間

進行方法については、各自の予定に基づき決定する。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

プレゼンテーション40%、フィールドワークによる取組み40%、レポート20%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学主課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、適宜提示する。

【10】　参考書
参考文献は、適宜提示する。

【11】　備考(関連科目等)
資料は事前に配布しておくこと。

科目名(日本語)	**在宅看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Home Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	藤原　和美				
担当教員	藤原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp　　成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom,
タブレット端末

【２】　授業概要

在宅看護学領域における自己の関心現象や支援方法を探究する上で必要な理論・概念に関する文献を検討し、在宅看護学を体系化する基盤能力を養う。

【３】　到達目標

１．在宅療養者・家族の健康上および生活上の課題および効果的な看護実践方法の開発に必要な知識基盤を形成し記述できる。
２．在宅看護の現象や支援方法に関連する理論・概念を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	わが国の在宅看護の変遷と現状　1	在宅療養を取り巻く社会状況と看護①	藤原
2	わが国の在宅看護の変遷と現状２	在宅療養を取り巻く社会状況と看護①	藤原
3	わが国の在宅看護の変遷と現状　3	在宅療養と社会制度・政策①	藤原
4	わが国の在宅看護の変遷と現状　4	在宅療養と社会制度・政策②	藤原
5	諸外国の在宅看護の現状　1	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護①	藤原
6	諸外国の在宅看護の現状　2	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護②	藤原
7	諸外国の在宅看護の現状　3	諸外国における在宅療養と社会制度・政策①	藤原
8	諸外国の在宅看護の現状　4	諸外国における在宅療養と社会制度・政策②	藤原
9	文献クリティーク　1	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク①	藤原
10	文献クリティーク　2	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク②	藤原
11	文献クリティーク　3	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク③	藤原
12	文献クリティーク　4	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク④	藤原
13	文献クリティーク　発表　1	関心のテーマの文献クリティークについて発表①	藤原
14	文献クリティーク　発表　2	関心のテーマの文献クリティークについて発表②	藤原
15	在宅ケアと地域包括ケアシステム　1	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連①	藤原
16	在宅ケアと地域包括ケアシステム　2	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連①	藤原
17	在宅ケアと地域包括ケアシステム　3	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連③	藤原
18	在宅ケアと地域包括ケアシステム　4	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連④	藤原
19	在宅ケアと地域包括ケアシステム　5	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策①	藤原
20	在宅ケアと地域包括ケアシステム　6	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策②	藤原
21	在宅ケアと地域包括ケアシステム　7	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策の発表①	藤原
22	在宅ケアと地域包括ケアシステム　8	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策の発表②	藤原
23	地域看護活動の評価１	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
24	地域看護活動の評価　2	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
25	地域看護活動の評価　3	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
26	地域看護活動の評価　4	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
27	地域と在宅看護	地域における在宅看護	藤原

【6】　事前・事後学習とその時間

遠隔授業およびゼミ形式により進める。十分な準備に基づく発表と活発な討論により課題を深めることを期待する。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

Google Classroomで全体評価を行うとともに、課題・レポートに関しては個別に対面で評価を行う。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	在宅看護学演習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Home Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	藤原　和美				
担当教員	藤原和美（看護学研究科・教授）、成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp　成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom

【２】　授業概要

1. 在宅看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。
2. 研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行う。

【３】　到達目標

１．在宅看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討し説明できる。
２．予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	在宅看護学演習ガイダンス	藤原、成澤
2	在宅看護と在宅ケア　1	在宅看護の現状と課題	藤原、成澤
3	在宅看護と在宅ケア　2	在宅看護と在宅ケア	藤原、成澤
4	在宅ケアと地域包括ケアシステム　1	在宅療養の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	藤原、成澤
5	在宅ケアと地域包括ケアシステム　2		藤原、成澤
6	地域と地域包括ケアシステム　1		藤原、成澤
7	地域と地域包括ケアシステム　2		藤原、成澤
8	フィールドワーク概要　1	フィールドワークへの理解	藤原、成澤
9	フィールドワーク概要　2	フィールドワークへの理解	藤原、成澤
10	フィールドワークの実際	フィールドワーク内容の理解	藤原、成澤
11	フィールドワークの実際　2	フィールドワーク内容の理解	藤原、成澤
12	フィールドワーク計画の検討　1	フィールドワーク計画の検討	藤原、成澤
13	フィールドワーク計画の検討　2	フィールドワーク計画の検討	藤原、成澤
14	フィールドワーク実践の結果発表　1	フィールドワーク実践の発表と評価	藤原、成澤
15	フィールドワーク実践の結果発表　2	フィールドワーク実践の発表と評価	藤原、成澤
16	研究課題の明確化　1	フィールドワークを踏まえ研究課題の明確化	藤原・成澤
17	研究課題の明確化　2	フィールドワークを踏まえ研究課題の明確化	藤原・成澤
18	研究課題の発表　1	在宅看護学領域における研究課題の発表と評価	藤原・成澤
19	研究課題の発表　2	在宅看護学領域における研究課題の発表と評価	藤原・成澤
20	研究計画書の作成　1	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	藤原・成澤
21	研究計画書の作成　2	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	藤原・成澤
22	研究計画書の作成　3	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	藤原・成澤
23	研究計画書の作成　4	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	藤原・成澤
24	研究計画の発表　1	研究計画の発表	藤原・成澤
25	研究計画の発表　2	研究計画の発表	藤原・成澤
26	研究計画の評価　1	研究計画の評価と課題の明確化	藤原・成澤
27	研究計画の評価　2	研究計画の評価と課題の明確化	藤原・成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。授業はゼミ形式で行う。主体的な取り組みを期待する。30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

Google Classroomで全体評価を行うとともに、課題・レポートに関しては個別に対面で評価を行う。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**母子保健学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Maternal and Child Health	選択	講義	1年次・春学期	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島　富士子（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島　富士子　fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

オムニバス方式と学生の主体的学習を組み合わせて行い、学生の自主性・積極性を尊重したゼミ形式で行う。

【３】　到達目標

リプロダクティブヘルス/ライツの理念のもとに性と生殖に関する学識を深め、ヘルスプロモーションの視点から女性のライフサイクルの各期における看護のあり方を探求し、新しい看護ケアの開発を目指す。
また、常に変化する社会のなかで医療・看護の立場から人々の健康の保持・増進に寄与できる人材を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス	科目の目標と狙い　オリエンテーション	福島
2	性・生殖と看護課題	わが国の性・生殖看護の現状と課題	福島
3	性・生殖と研究	性と生殖に関する文献検討	福島
4	性・生殖と研究	文献クリティーク	福島
5	思春期の保健課題	思春期保健の諸問題（基本的生活習慣）	福島
6	思春期保健と研究	思春期保健の諸問題に関する文献検討	福島
7	思春期保健と研究	文献クリティーク	福島
8	成熟期の保健課題	成熟期の女性の健康課題	福島
9	成熟期保健と研究	成熟期の女性の健康課題に関する文献検討	福島
10	成熟期保健と研究	文献クリティーク	福島
11	周産期の看護課題	周産期の女性の健康課題	福島
12	周産期の看護課題	周産期の女性の健康課題に関する文献検討	福島
13	周産期の看護課題	文献クリティーク	福島
14	更年期・老年期の課題	更年期・老年期における性の諸問題	福島
15	まとめ	性・生殖に関する看護課題について討論	福島

【６】　事前・事後学習とその時間

ゼミ形式で行う。文献検討は学生が主体的に実施する。

【７】　評価方法・基準

出席30%、授業中の態度や取組み20%、レポート50%

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

使用しない

【10】　参考書

授業の中で関連する文献、参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

特になし

科目名(日本語)	母子保健学演習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Maternal and Child Health Exercise	選択	演習	1年次･秋学期	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子月曜日10時～11時				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて学び、活用・応用できる資質を身につける。

【３】　到達目標

性・生殖看護学特講を基盤に、リプロダクティブヘルス/ライツに関する問題を追及し、新たなケア技術を開発するための知識と技術を探求し実践する。特に女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する諸問題を探求し、健康の保持増進に寄与する健康支援モデルの検討を行い、ヘルスプロモーションの視点から看護ケア、看護介入プログラムを開発できる能力を修得し、性・生殖の分野で必要な研究者としての資質と態度を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1		オリエンテーション：オリエンテーションと性教育に関する文献検討	福島
2		思春期教育の演習：小学校での性教育	福島
3		思春期教育の演習：中学校での性教育	福島
4		思春期教育の演習：高等学校における性教育	福島
5		性教育プログラム検討：小学・中学・高校における性教育プログラムの検討	福島
6		避妊教育演習：避妊・家族計画に関する教育演習	福島
7		思春期保健教育演習：喫煙・飲酒・ダイエットなどに対する教育演習	福島
8		性感染症予防教育：性感染症予防に関する教育演習	福島
9		性・生殖の看護課題：学生の持つ課題に対する演習を行い討論	福島
10		生殖看護演習：女性の健康支援に関する演習	福島
11		生殖看護演：産む性を育む性教育未婚女性への演習	福島
12		更年期女性演習：更年期障害をもつ女性への演習	福島
13		産前産後ケア：産前産後ケアプログラムの実際と検討	福島
14		育児支援システム：退院後から1か月の育児支援システム	福島
15		まとめ：性・生殖に関する課題を整理する	福島

【６】　事前・事後学習とその時間

臨地にて健康教育場面に参加し、分析する。

【７】　評価方法・基準

出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【10】　参考書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。

科目名(日本語)	**医療言語論特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Studies of Medical Discourse	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	平田　松吾				
担当教員	平田松吾（看護学研究科・非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	平田松吾atarich■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	講義終了後				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

医療現場はさまざまな様態の言語が飛び交う場としてとらえることができる。科学（医療）の言語はその一部をなしているにすぎない。講義では、テキストの精密な読解を通じて、比喩・たとえ話・祈り・告白等のさまざまな言語の様態を考察し、それらと比較しながら科学的言語の特性・限界を明らかにすることを試みる。テクスト解釈での言語の認識問題などを取り上げることで、質的研究での「言葉」の持つ役割について探究する。

【３】　到達目標

言語のさまざまな側面を知的に把握して考察する能力とともに、多様な言語活動の場である医療を、医療プロパーの視点を越えるより広い視野の中にとらえ直す高度な能力を養う。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	言語活動の多様性	言語に関する諸問題の俯瞰を以て講義全体のイントロダクションとする	平田
2-3	ソシュールの言語論(1)	ソシュールの言語論(1)	平田
4-5	ソシュールの言語論(2)	ソシュールの言語論(2)	平田
6-7	科学的言語と説得(1)	『アリストテレス弁論術』を中心に、科学的言語と真理・説得の問題を考察する	平田
8-9	科学的言語と説得(2)	『アリストテレス弁論術』を中心に、科学的言語と真理・説得の問題を考察する	平田
10-11	比喩とは何か	比喩論と医療の関係を考察する	平田
12-13	隠喩と科学	科学的思考と隠喩の関係を考察する	平田
14-15	たとえ話・ことわざとは何か		平田
16-17	祈り・誓いとは何か	祈り・誓いとは何か	平田
18-19	医療における言語の多様性	医療における言語の多様性	平田
20-21	病の隠喩	その広がりと問題	平田
22-23	終末期医療における語りの考察(1)	Kleinman, The Illness Narratives を中心に	平田
24-25	終末期医療における語りの考察(2)	Kleinman, The Illness Narratives を中心に	平田
26	治癒と語りの関係	治癒と語りの関係	平田
27	講義内容のまとめを行う	講義内容のまとめを行う	平田

【6】　事前・事後学習とその時間
参考書目に目を通すことが望ましい。

【7】　評価方法・基準
出席30%、授業中の態度や取組み20%、レポート50%

【8】　フィードバック方法
テキストの読解をもとに講義を進め、学生とともにディスカッションを行う。英文のテキストの精密な読みの訓練も含まれる。

【9】　教科書
プリント形式で適宜配布する。

【10】　参考書
1) アリストテレス（岩田靖夫訳）『弁論術』岩波文庫
2) 丸山圭三郎　『ソシュールを読む』岩波書店
3) Labov,W. Therapeutic Discourse: Psychotherapy as Conversation. Academic Press,1977

【11】　備考(関連科目等)
英文のテキストも読むが、学生の英語力に応じた対応をする。英語がことさら得意である必要はない。

科目名(日本語)	**疾病論特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Medicine	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	湯浅　玲奈				
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	湯浅玲奈rnyuasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週金曜日：12:30～13:00 メールで事前に連絡をすること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Google Classroom, zoom等

【２】　授業概要

疾患の病態生理を理解し、医療現場で実際に患者を診る際に役立つ知識を習得する。

【３】　到達目標

看護ケアに必要な最先端の医学知識を学び、得た知識を実践看護に役立てられるようになる。
生理学的、解剖学的視野からも疾病の成り立ちを理解し、治療のみならず予防までも包括的に理解する。
自分の理想とする看護について説明ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション	湯浅
2	最先端医療①	ゲノム治療とは	湯浅
3	最先端医療②	ゲノム治療①	湯浅
4	最先端医学③	ゲノム治療②	湯浅
5	最先端医療④	ゲノム治療③	湯浅
6	糖尿病学①	糖尿病の現状	湯浅
7	糖尿病学②	糖尿病の診断と治療　―医学の進歩と治療の変遷	湯浅
8	災害と医療①	自然災害・人為災害・特殊災害	湯浅
9	災害と医療②	透析患者の場合	湯浅
10	災害と医療③	感染症対策	湯浅
11	未病学①	未病とは	湯浅
12	未病学②	未病対策	湯浅
13	疾病医療学①	疾病対策　―循環器疾患を中心に―	湯浅
14	疾病医療学②	疾病対策　―腎臓病を中心に―	湯浅
15	移植学①	臓器移植とは	湯浅
16	移植学②	腎移植を中心に	湯浅
17	がん対策①	がんへの対策	湯浅
18	がん対策②	がんに罹患したら	湯浅
19	禁煙学①	喫煙と疾病	湯浅
20	禁煙学②	禁煙対策	湯浅
21	生活習慣病	メタボリックシンドロームを中心に	湯浅
22	生活習慣病②	糖尿病を中心に	湯浅
23	老年医学①	認知症　－治療の現状、今後の展望、社会問題―	湯浅
24	老年医学②	認知症　－治療の現状、今後の展望、社会問題―	湯浅
25	老年医学③	高齢者の特性　―誤嚥性肺炎、フレイルなど―	湯浅
26	老年医学④	高齢者の特性　―誤嚥性肺炎、フレイルなど―	湯浅
27	まとめ	あなたはどのような看護がしたいですか？	湯浅

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に配布された資料などを理解し、講義に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み30%、プレゼンターテーション50%、レポート20%から総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施するが、状況によっては対面形式と遠隔形式（zoomを用いたリアルタイム配信）を組み合わせることも対応できるようにする。
授業に臨むにあたり、講義に関する疾患について各自理解し、討論に参加できるよう準備しておくこと。
積極的な討論への参加を期待する。

科目名(日本語)	**多職種連携・協働演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Interprofessional Collaboration	選択	演習	1・2年次・春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）　藤原和美（看護学研究科・教授） 岸恵美子（看護学研究科・教授）　御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子連絡先：yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp、岸恵美子 emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00 他の日時も対応可。その場合は事前にメールで連絡すること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【2】　授業概要

地域包括ケアを構成している各医療・ケア提供の場に赴き、「生活支援」「家族支援」「看護実践力」「地域アセスメント」「ケー スマネジメント」等の視点で分析する能力を養う。
＊受講者を看護職と限定しない。

【3】　到達目標

1. フィールドワークにおいて積極的に関連スタッフ等と関わり、多職種連携・協働の課題を考え述べることができる。
2. フィールドワークで見出した課題を「生活支援」「家族支援」「医療ケア提供力」「地域アセスメント」「ケースマネジメント」等の視点から分析、考察することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	各医療・ケア提供場所の役割・特徴の理解1	オリエンテーション	横井・御任・藤原・岸
2	各医療・ケア提供場所の役割・特徴の理解2	各医療・ケア提供場所の役割・特徴について文献検討	横井・御任・藤原・岸
3	各医療・ケア提供場所の役割・特徴の理解3	各医療・ケア提供場所の役割・特徴について文献検討	横井・御任・藤原・岸
4	フィールドワークに向けての計画立案1	フィールドワークの計画	横井・御任
5	フィールドワークに向けての計画立案2	フィールドワークの計画	横井・御任
6	フィールドワーク1	地域のおける多職連携・協働の場 地域包括支援センター等	横井
7	フィールドワーク2	地域のおける多職連携・協働の場 地域包括支援センター等	横井
8	フィールドワーク3	地域のおける多職連携・協働の場 地域包括支援センター等	横井
9	フィールドワーク4	地域のおける多職連携・協働の場 地域包括支援センター等	横井
10	フィールドワーク5	地域のおける多職連携・協働の場 地域包括支援センター等	横井
11	フィールドワーク6	地域のおける多職連携・協働の場 地域包括支援センター等	横井
12	フィールドワーク7	医療施設における多職種連携・協働の場 急性期病院入退院関連部門等	横井
13	フィールドワーク8	医療施設における多職種連携・協働の場 急性期病院入退院関連部門等	横井
14	フィールドワーク9	医療施設における多職種連携・協働の場 急性期病院入退院関連部門等	横井
15	フィールドワーク10	医療施設における多職種連携・協働の場 急性期病院入退院関連部門等	横井
16	フィールドワーク11	医療施設における多職種連携・協働の場 急性期病院入退院関連部門等	横井
17	フィールドワーク12	医療施設における多職種連携・協働の場 急性期病院入退院関連部門等	横井
18	フィールドワーク13	医療施設における多職種連携・協働の場 回復期リハビリテーション病棟等	横井
19	フィールドワーク14	医療施設における多職種連携・協働の場 回復期リハビリテーション病棟等	横井
20	フィールドワーク15	医療施設における多職種連携・協働の場 回復期リハビリテーション病棟等	横井
21	フィールドワーク16	医療施設における多職種連携・協働の場 回復期リハビリテーション病棟等	横井
22	フィールドワーク17	医療施設における多職種連携・協働の場 回復期リハビリテーション病棟等	横井
23	フィールドワーク18	医療施設における多職種連携・協働の場 回復期リハビリテーション病棟等	横井
24	発表と討議1	テーマ：医療・ケア提供の場の違いと多職種連携・協働	横井・御任・藤原・岸
25	発表と討議2	テーマ：医療・ケア提供の場の違いと多職種連携・協働	横井・御任・藤原・岸
26	発表と討議3	テーマ：医療・ケア提供の場の違いと多職種連携・協働	横井・御任・藤原・岸
27	発表と討議4	テーマ：医療・ケア提供の場の違いと多職種連携・協働	横井・御任・藤原・岸

【6】　事前・事後学習とその時間

フィールドワークの計画は、学生自ら立案し、教員の指導を得て現場に臨む。現場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

フィールドワークへの取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

対面方式と遠隔方式を組み合わせて実施する。
ディスカッションを重視している科目であるため、最小受講者数を3人とする。
フィールドワークの場所、日程はできるだけ調整するが希望に添えない場合もある。

科目名(日本語)	共生社会と医療	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Symbiotic Society and Medical Care	選択	講義	1、2年次・秋	2単位 30時間
科目責任者	藤原　和美				
担当教員	藤原和美（看護学研究科・教授）、横井郁子（看護学研究科・教授）、岸恵美子（看護学研究科・教授） 伊藤桂子（看護学研究科・教授）、成澤　明（看護学部・准教授） 平田松吾（看護学研究科・非常勤講師）、御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp　横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp 岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp　伊藤桂子keiko.ito■med.toho-u.ac.jp 成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	事前にメールでアポイントを取ること				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom、タブレット

【２】　授業概要

受講者を看護職と限定しない。
ゲストスピーカーによる話題提供をもとに議論し課題を深めていく。

【３】　到達目標

地域包括ケアが推進される現代において、暮らしを継続できる「支える医療」の関心も高まっている。多様な人が主体的に社会に参画し、ともに生きていく社会と医療のあり方について、医療を必要とする人の暮らしをとおして説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	共生社会の概念　1	共生社会の概念①	平田
2	共生社会の概念　2	共生社会の概念②	平田
3	共生する社会とは　1	共生する社会について考察①	平田
4	共生社会する社会とは　2	共生する社会について考察②	平田
5	共生社会と地域包括ケアシステム　1	共生社会と地域包括ケアシステム①	岸・横井・藤原
6	共生社会と地域包括ケアシステム　2	共生社会と地域包括ケアシステム②	岸・横井・藤原
7	共生社会と地域包括ケアシステム　3	共生社会と地域包括ケアシステム（高齢者）①	横井・岸・藤原
8	共生社会と地域包括ケアシステム　4	共生社会と地域包括ケアシステム（高齢者）②	横井・岸・藤原
9	共生社会と精神障害　1	精神障害をもって生きる（ゲストスピーカー）①	伊藤
10	共生社会と精神障害　2	精神障害をもって生きる（ゲストスピーカー）②	伊藤
11	共生社会と精神障害　3	共生社会と精神障害；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察①	伊藤
12	共生社会と精神障害　4	共生社会と精神障害；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察②	伊藤
13	共生社会とがんサバイバー1	がんと闘い生きる（ゲストスピーカー）①	横井
14	共生社会とがんサバイバー2	がんと闘い生きる（ゲストスピーカー）②	横井
15	共生社会とがんサバイバー3	共生社会とがんサバイバー；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察①	横井
16	共生社会とがんサバイバー4	共生社会とがんサバイバー；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察②	横井
17	共生社会と重度心身障害4	共生社会と重度心身障害児と家族（ゲストスピーカー）	藤原・成澤
18	共生社会と重度心身障害2	共生社会と重度心身障害児と家族（ゲストスピーカー）	藤原・成澤
19	共生社会と重度心身障害3	共生社会と重度心身障害児と家族；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察①	藤原・成澤
20	共生社会と重度心身障害4	共生社会と重度心身障害児と家族；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察②	藤原・成澤
21	共生社会の実際について発表ガイダンス	テーマとプレゼンテーションについてのガイダンス	藤原・御任
22	これからの共生社会　1	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：これからの共生社会	横井、岸、伊藤、藤原、成澤、御任
23	これからの共生社会　2	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：これからの共生社会	横井、岸、伊藤、藤原、成澤、御任
24	共生社会と専門職　1	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、成澤、御任
25	共生社会と専門職　2	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、成澤、御任
26	共生社会と専門職　3	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、成澤、御任
27	共生社会と専門職　4	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、成澤、御任

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

Google Classroomで全体評価を行うとともに、課題・レポートに関しては個別に対面で評価を行う。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

共生社会について定義を含むさまざまな課題について予習し臨むこと。
＊最少開講人数3名。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。ゼミ（オンライン上を含む）での積極的な討論井よって課題を深めることを期待する。

科目名(日本語)	**看護専門職連携演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing Collaboration	選択	演習	1、2年次・秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）　藤原和美（看護学研究科・教授） 橋本　裕（看護学部・講師） 御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師） 田中千賀子（田園調布医師会立訪問看護ステーション・所長） 鈴木央（鈴木内科医院・院長）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp、橋本裕yutaka-hashimoto■ns.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00 他の日時も対応可。その場合は事前にメールで連絡すること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【2】　授業概要

さまざまな場の看護職が「支える医療」のために何をどのようにつなげていくかチームで課題を見出し、その解決に挑戦する。

【3】　到達目標

1. 授業内で提供された場の異なる看護実践事例について多角的な視点で分析し、考察することができる。
2. 看護の質保証のためのさまざまな評価ツールについて説明することができる。
3. 1、2を踏まえて、看護対象者を支えるための連携について論述することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療連携、看護職連携の課題1	オリエンテーション それぞれが抱える課題の共有	横井、藤原、御任
2	医療連携、看護職連携の課題2	課題への取り組みの検討（討議）	横井、藤原、御任
3	訪問看護師からみた医療連携1	訪問看護の現状と課題	田中
4	訪問看護師からみた医療連携2	訪問看護の現状と課題	田中
5	在宅医からみた医療連携1	在宅医療の現状と課題	鈴木
6	在宅医からみた医療連携2	在宅医療の現状と課題	鈴木
7	在宅医療の現状と課題1	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
8	在宅医療の現状と課題2	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
9	在宅医療の現状と課題3	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
10	在宅医療の現状と課題4	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
11	在宅医療の現状と課題5	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
12	在宅医療の現状と課題6	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
13	在宅医療の現状と課題7	訪問看護のフィールドワーク	藤原・横井
14	急性期病院の現状と課題1	急性期医療の現状と課題	橋本
15	急性期病院の現状と課題2	急性期医療の現状と課題	橋本
16	急性期病院の現状と課題3	看護外来等のフィールドワーク	橋本・横井
17	急性期病院の現状と課題4	看護外来等のフィールドワーク	橋本・横井
18	急性期病院の現状と課題5	看護外来等のフィールドワーク	橋本・横井
19	急性期病院の現状と課題6	看護外来等のフィールドワーク	橋本・横井
20	フィールドノートの分析1	発表と討議	横井、藤原、御任
21	フィールドノートの分析2	発表と討議	横井、藤原、御任
22	フィールドノートの分析3	発表と討議	横井、藤原、御任
23	フィールドノートの分析4	発表と討議	横井、藤原、御任
24	対象者の選択を支える看護職連携1	発表と討議	横井、藤原、御任
25	対象者の選択を支える看護職連携2	発表と討議	横井、藤原、御任
26	対象者の選択を支える看護職連携3	発表と討議	横井、藤原、御任
27	対象者の選択を支える看護職連携4	発表と討議	横井、藤原、御任

【6】　事前・事後学習とその時間

フィールドワークの計画は学生自ら立案し、教員の指導を得て現場に臨む。現場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

演習への取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

対面方式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ディスカッションを重視している科目であるため、最小受講者数を3人とする。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Health Nursing1	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom

【２】　授業概要

女性の健康問題に関して論じられた成書から、女性の心身に関する知識を科学的に捉え、健康教育についての技術、能力を養う。講義形式とゼミナール形式で課題を基に討議しながら進める。

【３】　到達目標

1. ライフサイクルの各期を生きる女性の心身の健康問題について説明できる。
2. 女性の健康的な生き方をサポートするための健康教育のあり方を具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	女性のライフサイクルと健康問題	思春期から更・老年期までの性と生殖①	福島
2	女性のライフサイクルと健康問題	思春期から更・老年期までの性と生殖②	福島
3	女性のライフサイクルと支援①	健康教育の行われる場の特性	福島
4	女性のライフサイクルと支援①	健康教育の行われる対象の特性	福島
5	女性のライフサイクルと支援②	思春期の健康問題と予防教育①	福島
6	女性のライフサイクルと支援②	思春期の健康問題と予防教育②	福島
7	女性のライフサイクルと支援③	成熟期の健康問題と予防教育①	福島
8	女性のライフサイクルと支援③	成熟期の健康問題と予防教育②	福島
9	女性のライフサイクルと支援④	更年期の心身のストレスとコーピング①	福島
10	女性のライフサイクルと支援④	更年期の心身のストレスとコーピング②	福島
11	セクシュアリティの理解①	時代による性・結婚の概念の変化①	福島
12	セクシュアリティの理解②	時代による性・結婚の概念の変化②	福島
13	セクシュアリティの理解③	マイノリティの性と社会①	福島
14	セクシュアリティの理解④	マイノリティの性と社会②	福島
15	セクシュアリティの理解⑤	今日における性の概念①	福島
16	セクシュアリティの理解⑥	今日における性の概念②	福島
17	セクシュアリティの理解⑦	性の諸様相と看護の役割①	福島
18	セクシュアリティの理解⑧	性の諸様相と看護の役割②	福島
19	女性のライフサイクルと健康教育①	ヘルスプロモーションの基本的概念①	福島
20	女性のライフサイクルと健康教育②	ヘルスプロモーションの基本的概念②	福島
21	健康教育の理論と実際①	健康教育の基本と関連する理論①	福島
22	健康教育の理論と実際①	健康教育の基本と関連する理論②	福島
23	健康教育の理論と実際②	健康教育の進め方・実践例①	福島
24	健康教育の理論と実際②	健康教育の進め方・実践例②	福島
25	健康教育の理論と実際③	ピアカウンセリングの理論①	福島
26	健康教育の理論と実際③	ピアカウンセリングの理論②	福島
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島

【6】　事前・事後学習とその時間
ゼミナール形式にて課題に対する自己学習を重視する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準
課題に対する取り組みと授業への参加30%、レポート70%にて総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【9】　教科書
課題に沿ってその都度提示する。

【10】　参考書
課題に沿ってその都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ提示した資料等がある場合は目を通しておくこと。

科目名(日本語)	**実践助産学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Midwifery Practice	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）中田雅彦（大森病院・教授）古田雅（大森病院・栄養部上席室長）前村由美（前村医院・院長）尾形愛（安部歯科医院・歯科医師）渡邉幸恵（看護学部・講師）　疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 中田雅彦 授業終了後に質問を受け付ける。 古田雅 授業終了後に質問を受け付ける。 前村由美 授業終了後に質問を受け付ける。 渡邉幸恵 疋田仁美12：00～13：00 伏見枝莉12：00～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

周産期の医療介入や画像診断、産科救急など助産師として求められる高度実践能力を教授する。増加するハイリスク妊産婦に対応できる能力を身につけ、社会から求められる助産師の育成を図る。

【３】　到達目標

1、高度医療介入時に必要な検査・診断技術・医療技術を説明できる。
2、高度医療介入時の支援について説明することができる。
3、周産期に必要な栄養指導・口腔衛生について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産師に必要な高度実践能力について「	助産師に必要となる実践能力について	富岡
2	周産期の医療介入	帝王切開術・吸引分娩について①	中田
3	周産期の医療介入	帝王切開術・吸引分娩について②	中田
4	周産期の医療介入	硬膜外麻酔分娩①	前村
5	周産期の医療介入	硬膜外麻酔分娩①	前村
6	周産期の医療介入	分娩誘発・促進分娩	中田
7	周産期の画像診断	骨産道・胎児超音波画像について	中田
8	周産期の画像診断	骨産道・胎児超音波画像について	中田
9	周産期の栄養	妊産褥婦・乳幼児の栄養①	古田
10	周産期の栄養	妊産褥婦・乳幼児の栄養②	古田
11	周産期の影響	妊娠合併症と栄養①	古田
12	周産期の影響	妊娠合併症と栄養②	古田
13	周産期の影響	妊娠合併症と栄養③	古田
14	周産期の栄養	妊娠合併症と栄養④	古田
15	産科救急について	分娩時の救急処置①	富岡、渡邉、疋田、伏見
16	産科救急について	分娩時の救急処置②	富岡、渡邉、疋田、伏見
17	産科救急について	分娩時の救急処置③	富岡、渡邉、疋田、伏見
18	産科救急について	分娩時の救急処置④	富岡、渡邉、疋田、伏見
19	産科救急について	分娩時の救急処置⑤	富岡、渡邉、疋田、伏見
20	産科救急について	分娩時の救急処置⑥	富岡、渡邉、疋田、伏見
21	周産期の医療介入時の支援	硬膜外麻酔分娩の支援、帝王切開術前後の支援①	富岡
22	周産期の医療介入時の支援	硬膜外麻酔分娩の支援、帝王切開術前後の支援②	富岡
23	周産期の医療介入時の支援	無痛分娩時の支援①	富岡
24	周産期の医療介入時の支援	無痛分娩時の支援②	富岡
25	周産期の口腔衛生	妊産褥婦の口腔衛生	尾形
26	周産期の口腔衛生	乳幼児の口腔衛生	尾形
27	まとめ	授業のまとめを行う	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

講義、ゼミ形式により進める。超音波検査、分娩時の救急処置など一部演習を含む。講義の前に、指定した学習内容を行うこと。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合し評価を行う。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。レポートは講評や解説を授業内で行い、共有する。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で指定する。

【11】　備考(関連科目等)

原則対面形式で行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**実践助産学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Midwifery Practice	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学研究科・助教） 伏見枝莉（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Crassroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

助産の対象者に対する基本的な支援方法を学んだ後、より実践的支援方法を教授する。各分野の専門家よりコンサルテーションを受け、学びを深めることを目的とする。助産分野の学会に参加することで、現在の助産のトレンドや課題を知る。

【３】　到達目標

1、産後ケア施設の運営や管理の実際について述べることができる。産後ケア施設での育児支援やメンタルケアについて説明できる。
2、乳房ケアの実際を学ぶことで、正確な観察とアセスメント・診断ができる。
3、妊娠糖尿病妊婦に対する栄養指導法について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	実践助産学演習の進め方、学習方法について	富岡
2	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
3	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
4	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
5	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
6	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
7	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
8	産後ケア	1）産後ケア （1）産後ケアを提供する施設において実習する。 （2）医療施設を退院した後に助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 （3）助産ケア施設の運営・管理の実際を経験する。	富岡
9	乳房ケア	乳房ケア （1）妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 （2）乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	富岡
10	乳房ケア	乳房ケア （1）妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 （2）乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	富岡
11	乳房ケア	乳房ケア （1）妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 （2）乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	富岡
12	乳房ケア	乳房ケア （1）妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 （2）乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	富岡
13	乳房ケア	乳房ケア （1）妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 （2）乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	富岡
14	乳房ケア	乳房ケア （1）妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 （2）乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	富岡
15	周産期の栄養	周産期の栄養指導の実際を学ぶ①	古田

16	周産期の栄養	周産期の栄養指導の実際を学ぶ②	古田
17	周産期の栄養	周産期の栄養指導の実際を学ぶ③	古田
18	周産期の栄養	周産期の栄養指導の実際を学ぶ④	古田
19	産科救急	産科危機的出血①	富岡、渡邉、疋田、伏見
20	産科救急	産科危機的出血②	富岡、渡邉、疋田、伏見
21	産科救急	産科危機的出血③	富岡、渡邉、疋田、伏見
22	産科救急	産科危機的出血④	富岡、渡邉、疋田、伏見
23	産科救急	産科危機的出血⑤	富岡、渡邉、疋田、伏見
24	学会参加①	関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶ。	富岡
25	学会参加②	関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶ。	富岡
26	学会参加③	関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶ。	富岡
27	まとめ	授業のまとめを行う	富岡

【６】　事前・事後学習とその時間

演習・フィールドワークを中心に行う。事前に提示した資料を熟読し学習に参加する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

出席状況（20%）演習の態度（30%）、レポート（50%）を総合して評価する。
授業時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

レポートは講評や解説をAcrive Academyに掲示する。

【９】　教科書

必要時に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要時に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

原則対面形式で行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅱ（妊娠期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅡ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）中田雅彦（大森病院・教授） 竹下直樹（佐倉病院・教授）早田英二郎（大森病院・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美毎週月曜日10:00～11:00 中田雅彦授業修了後に質問を受け付ける。 竹下直樹授業修了後に質問を受け付ける。 早田英二郎授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom. Zoom, PC

【２】　授業概要

正常に経過する妊婦への助産診断とケアを学ぶ。また、異常の早期発見や異常に移行しない予防的な援助を行うことができるために必要な知識と技術を教授する。

【３】　到達目標

１、妊婦と胎児の経過を理解したうえで、経過診断および健康生活診断を行うことができる。
２、妊婦とその家族のセルフケア能力を促すために必要な援助方法を述べることができる。
３、異常の早期発見や異常に移行しないための支援について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	妊娠期の成立	妊娠期の助産の特徴・目的、妊娠の成立、妊娠の維持	富岡
2	妊娠経過の診断①	妊娠の早期診断	早田
3	妊娠経過の診断②	妊娠に伴う全身の変化	早田
4	妊娠経過の診断③	妊娠に関連した検査	早田
5	妊娠経過の診断④	母子感染症に関する検査と治療	早田
6	妊娠経過の診断⑤	妊娠と薬物①	早田
7	妊娠経過の診断⑥	妊娠と薬物②	早田
8	妊娠経過の診断⑦	胎児の発育の診断①	竹下
9	妊娠経過の診断⑧	胎児の発育の診断②	竹下
10	ハイリスク妊娠の診断①	ハイリスク妊娠の検査と診断	中田
11	ハイリスク妊娠の診断②	ハイリスク妊娠の治療	中田
12	ハイリスク妊娠の診断③	異常の早期発見と予防①	中田
13	ハイリスク妊娠の診断④	異常の早期発見と予防②	中田
14	ローリスク妊婦のアセスメント	妊婦の日常生活におけるケア	富岡
15	ローリスク妊婦のアセスメント	セルフケアに関するアセスメント	富岡
16	ローリスク妊婦の支援	妊婦の日常生活におけるケア	富岡
17	ローリスク妊婦の支援	妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア	富岡
18	ハイリスク妊婦の支援①	ハイリスク妊婦のアセスメント①	富岡
19	ハイリスク妊婦の支援②	ハイリスク妊婦のアセスメント②	富岡
20	ハイリスク妊婦の支援③	ハイリスク妊婦の助産診断①	富岡
21	ハイリスク妊婦の支援④	ハイリスク妊婦の助産診断②	富岡
22	ハイリスク妊婦の支援⑤	ハイリスク妊婦の助産診断?	富岡
23	妊婦の助産過程①	ローリスク妊婦の助産診断とケア①	富岡
24	妊婦の助産過程②	ローリスク妊婦の助産診断とケア②	富岡
25	妊婦の助産過程③	ローリスク妊婦の助産診断とケア?	富岡
26	妊婦の助産過程④	ローリスク妊婦の助産診断とケア④	富岡
27	まとめ	助産過程についてプレゼンテーションとディスカッション	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

講義および演習で授業を行う。
事前に提示された資料で事前学習を行い参加する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

筆記試験70%（中間テストを含む）、課題への取り組み10%、プレゼンテーションおよびレポートの内容20%で総合的に評価する。授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーション、レポートについては授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、授業内で解答の解説を行い、課題を共有する。

【9】　教科書

1)我部山キヨ子, 武谷雄二編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期」医学書院, 2022年（第6版）
2)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局,　2020年
3)日本助産診断・実践研究会「実践 マタニティ診断」医学書院, 2021年（第5版）

【10】　参考書

1）武谷雄二他「プリンシプル産婦人科学1―婦人科編」メジカルビュー社,2014年（第3版）
2）武谷雄二他「プリンシプル産婦人科学Ⅱ―産科編」メジカルビュー社,2014年（第3版）
3）日本助産診断・実践学会「実践 マタニティ診断ガイドブック」医学書院,2020年(第6版)

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。助産学実習の基盤となる科目であるため、主体的に取り組むこと。母性看護学を復習して臨むこと。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅴ（新生児期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅤ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	福島富士子				
担当教員	松永佳子（看護学研究科・准教授）、増本健一（大森病院・准教授）、西田朋子（大森病院・看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子　fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp 増本健一 西田朋子 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	松永佳子毎週月曜日：8:00～9:00 増本健一授業終了後に質問を受け付ける。 西田朋子授業終了に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom　PC)

【２】　授業概要

講義および演習で進める。
新生児の正常な成長発達を促進していくための助産診断・ケアに加えて、母親や家族に対する支援についても追求する。
また、出生直後の緊急時の対応が習得できるように教授する。

【３】　到達目標

1.新生児期の生理的特徴や成長発達過程を理解し、新生児のフィジカルアセスメント実施し、根拠に基づく助産過程を展開できる。
2.新生児の胎外生活の適応からの逸脱状態をアセスメントし、必要なケアを述べることができる。
3.新生児蘇生をモデルで実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	新生児の解剖・生理①	新生児の分類、出生直後の生理的特徴	松永
2	新生児の解剖・生理②	呼吸・循環	松永
3	生後24時間以内の新生児の助産診断①	新生児期の助産ケアの特徴、胎外環境への適応と成長・成熟	松永
4	生後24時間以内の新生児への支援①	胎外環境への適応への支援	松永
5	生後24時間以内の新生児への支援②	成長発達への支援	松永
6	生後24時間以降の新生児の助産診断①	胎外環境への適応と成長・成熟	松永
7	生後24時間以降の新生児のへの支援	成長発達への支援	松永
8	生後24時間以内の新生児の助産診断②	正常から逸脱の診断	西田
9	生後24時間以降の新生児の助産診断②	正常から逸脱している児へのケア	西田
10	正常からの逸脱及び異常な状態への支援①	低出生体重児（早期産児）へのケア	西田
11	正常からの逸脱及び異常な状態への支援②	家族へのケア	西田
12	新生児の助産過程①	事例紹介	松永
13	新生児の助産過程②	新生児の助産過程の展開①	松永
14	新生児の助産過程③	新生児の助産過程の展開②	松永
15	新生児の助産過程④	新生児の助産過程の発表	松永
16	新生児に関する保健指導①	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）①	松永
17	新生児に関する保健指導②	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）②	松永
18	新生児の異常①	新生児医療の現状	増本
19	新生児の異常②	低出生体重児（早期産児）に起こりやすい異常（病態・生理）	増本
20	新生児の異常③	呼吸器・循環器・神経・代謝異常	増本
21	新生児の異常④	ハイリスク妊娠によって出生した新生児、多胎児	増本
22	新生児救急蘇生法①	新生児救急蘇生法①	松永/西田
23	新生児救急蘇生法②	新生児救急蘇生法②	松永/西田
24	新生児救急蘇生法③	新生児救急蘇生法③	松永/西田
25	新生児救急蘇生法④	新生児救急蘇生法④	松永/西田
26	新生児救急蘇生法⑤	新生児救急蘇生法⑤	松永/西田
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	松永

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【7】　評価方法・基準

授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
試験（50%）、グループワーク（助産過程および保険指導案）（25%：ルーブリック）、プレゼンテーション内容（25%：ルーブリック）で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【９】　教科書

1）仁志田博司「新生児学入門第」医学書院・2018年　5版
2）田村正徳「日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト」メジカルビュー社・2021年　第４版
3）日本助産診断・実践学会編「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2020年　第6版
4）日本助産診断・実践学会編「実践マタニティ診断」医学書院・2021年　第5版
5）石井郁子,廣間武彦編「助産学講座8第6版助産診断・技術学Ⅱ　[3]新生児期・乳幼児期」医学書院・2021年
6）日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・2020年

【10】　参考書

随時、参考図書を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

「母性看護学」の範囲については、復習しておくこと。
新生児救急蘇生法Aコースの認定取得が可能である。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**助産学特論Ⅷ（助産管理）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅧ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）加茂あゆみ（大森病院・師長） 内藤智子（大森病院・師長）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp 加茂あゆみ 内藤智子 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子　毎週月曜日：8:00～9:00 加茂あゆみ　授業終了後に質問を受け付ける。 内藤智子　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom

【２】　授業概要

1.管理および助産管理の概念
2.管理に必要な理論
3.助産師の責任・業務に関連する法的義務・規則
4.助産管理・運営の基本（グループワーク）
5.医療事故や災害への対策（事例検討/プレゼンテーション）
6.助産サービスと医療経済の関係（ディスカッション）

【３】　到達目標

1.助産師の定義・業務内容・その責務について説明できる。
2.助産業務に関連する法律および社会制度について説明できる。
3.実践場所に応じた管理に関する必要な知識が説明できる。
4.周産期における安全対策について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	管理の概念	助産管理の基本	福島
2	助産業務管理	助産業務管理の過程	福島
3	場に応じた助産業務管理の特徴①	助産業務管理の実際	内藤
4	場に応じた助産業務管理の特徴①	産科病棟の管理	福島
5	場に応じた助産業務管理の特徴②	NICUの管理	加茂
6	助産師の業務及び届け出に関わる関係法規		福島
7	女性および子どもの支援に関わる関連法規		福島
8	助産所の法的義務		福島
9	助産所の管理運営の基本		福島
10	チーム医療における連携①	チーム医療とは	福島
11	チーム医療における連携②	特定妊婦とチーム医療（事例検討）	福島
12	医療事故対策防止①	産科医療補償制度とは：事例検討	福島
13	医療事故対策防止②	産科医療補償制度で取り上げられた事例の検討	福島
14	安全対策①	リスク・マネジメントとは	福島
15	安全対策②	病棟における安全対策の事例検討	安全管理部の看護職
16	災害対策・支援活動①	災害対策の基本	安全管理部の看護職
17	災害対策・支援活動②	避難所HUGの演習	福島
18	助産とサービス	サービスとは	福島
19	助産サービスの質の保障	質の保証に関連する概念	福島
20	組織と助産サービス	組織とは	福島
21	助産サービスと組織文化	組織文化とは	福島
22	助産サービスと人的資本管理	人的資本管理とは	福島
23	助産所開業のシミュレーション①	コンセプトの検討	福島
24	助産所開業のシミュレーション②	必要な人材・物品等の検討	福島
25	助産所開業のシミュレーション③	必要書類の整理	福島
26	助産所開業のシミュレーション④	発表	福島
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【7】　評価方法・基準

授業時間数の2/3以上の出席を持って評価の対象とする。
試験（50%）、グループワークの参加度（ルーブリック参照）（10%）、プレゼンテーション（25%）、レポート内容（15%）から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

事例検討の評価については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【9】　教科書

我部山 キヨ子,毛利 多恵子編「助産学講座10助産管理」医学書院・2022　第6版

【10】　参考書

その他、随時参考図書を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

助産学実習ⅠおよびⅡの実習の際に実習施設の人、モノ、金、情報の動きについて意識しながら実習すること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**がん看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）、山下尚美（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がん看護を実践する上での基盤となる諸理論の基礎的概念を教授する。諸理論を概念枠組みとして用いている論文のクリティークや事例検討を通して概念の実践への応用を検討し、看護実践・研究・教育の視点を踏まえた分析や考察からがん患者・家族に対する看護援助の方略を探究する。

【３】　到達目標

1.がん看護を実践するための基盤となるストレス・コーピング理論、危機理論、がんサバイバーシップ、エンパワーメント、不確かさ理論、家族理論、症状マネジメントモデルなどの諸理論の基礎的概念を学び、諸理論を概念枠組みとして用いている論文のクリティークを行うことができる。
2.事例検討を通して概念の実践への応用方法を具体的に述べることができる。
3.諸理論の臨床での応用について看護実践・研究・教育の視点をふまえて分析・考察し、がん患者および家族に対する看護援助の方略を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	理論について	がん看護を実践するための基盤となる理論、Readingassignmentの紹介	村上
3-5	ストレス・コーピング理論	ストレス・コーピング理論（セリエの一般適応症候群、ラザルスのコーピング理論）の理解と実践への活用	村上
6-8	危機理論	危機理論（フィンクの危機モデル、アギュレラとメズィックの問題解決モデル）の理解と実践への活用	村上
9-11	がんサバイバーシップ	がんサバイバーシップの概念の理解と実践への活用	村上
12-14	エンパワーメン	エンパワーメント（パワーレスの状況、個人およびコミュニティのエンパワーメント）の理解と実践への活用	村上
15-17	不確かさ理論	不確かさ理論（ミッシェルの概念モデル、意味づけの困難感）の理解と実践への活用	山下
18-20	家族理論	家族理論（カルガリー家族看護モデル、社会システム）の理解と実践への活用	村上
21-23	症状マネジメントモデル	セルフケア理論を基盤とした症状真似コメントモデルの理解と実践への活用	村上
24-25	がん看護の課題と今後の展望	諸理論を用いたがん看護専門看護師としての活動戦略の構築	村上、山下
26-27	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上、山下

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer NursingⅡ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）、山下尚美（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がん療養時期（診断前後、積極的治療期、サバイバー期、再発・転移期、終末期）にそって、がん治療によりもたらされた身体的・精神的変化や、がんの進行に伴う身体活動制限や、サバイバーの抱える諸問題に対する機能の維持・回復（リハビリテーション）するための看護支援を教授する。療養時期の変遷とともに、対象者の抱える課題は変化することを理解し、継続的かつ包括的な看護支援について科学的根拠に基づいて探求する。

【３】　到達目標

1.各療養場面にそって、がん治療によりもたらされた身体的・精神的苦痛や、がんの進行に伴って生じてくる身体活動の制限、サバイバーの抱える問題など特有の諸問題に対して、対象者が適切なペースで機能を維持・回復（リハビリテーション）することができるような看護支援方法を具体的に述べることができる。
2.患者や家族、サバイバー、そして遺族が抱える課題は、がん療養時期とともに変化することを理解し、継続的かつ包括的な視点での看護支援方法について科学的根拠に基づいて述べることができる。
3.がん患者および家族やがんサバイバーがおかれている状況を多角的な視点で分析し、対象者のセルフケア能力を見極めて柔軟に看護援助を展開するための高度な実践方略について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がんの療養過程全般および遺族に対する継続看護について	日常生活動作・日常生活関連動作の特徴とアセスメント方法、筋力・体力低下の予防方法と離床支援の方法など基本的な看護支援	村上
2-5	診断前後の患者および家族に対する看護	初発症状の医学的査定方法と日常生活活動への影響に関するアセスメント方法、診断前後の患者および家族に対する精神的な看護支援	村上
6-9	積極的治療中にある患者および家族に対する看護	積極的治療中（がん薬物療法・放射線療法）の影響による活動量低下のアセスメント方法、活動量低下による廃用症候群予防・改善のためのリハビリテーションと看護支援	村上
10-13	がんサバイバーに対する看護	治療により器質的・機能的変化が生じたがんサバイバーの自律能力、セルフケア能力向上のための看護支援	村上
14-17	再発・転移の生じた患者および家族に対する看護	局所から全身へという治療展開やがんの集学的治療における有害事象、体力低下と廃用症候群、などの身体活動制限に対するリハビリテーションと看護支援	山下
18-21	終末期にある患者および家族、遺族に対する看護	終末期患者のADL査定や呼吸困難・浮腫に対するリハビリテーション方法と看護支援、家族や遺族の喪失への精神的な看護支援	山下
22-25	スタッフに対する精神的支援	がん患者や家族をケアするスタッフの精神的側面への支援の必要性と実際	村上
26-27	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上、山下

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学特論Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer NursingⅢ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 赤木究（埼玉県立がんセンター・腫瘍診断・予防科科長兼部長） 内藤拓（医学部・准教授） 密田亜希（大森病院・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00 外部講師の場合：授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がん看護専門看護師として専門的な知識を深めるために必要ながんの分子生物学、遺伝学、免疫学、病理学などを含む病態生理学の基礎から臨床までの広範な知見とがん疫学の最新の情報を教授する。

【３】　到達目標

1.がんのなりたちについて、分子生物学、腫瘍遺伝学、がん免疫学などの基礎知識を用いて説明することができる。
2.がん組織の病理学的・臨床的特徴と症状との関連を理解し、日常診療で行われている検査や診断の意義について述べることができる。
3.がん疫学とがん予防の動向を理解し、がん看護専門看護師の役割について具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	腫瘍に関する知識の必要性	がん看護専門看護師に求められる専門性	村上
3-4	がん医療の動向	がん医療の動向と専門的な知識を求められているがん看護専門看護師の役割	村上
5-7	発がんのメカニズム	がんの形態・分類、発がん・進展・再発・転移のメカニズムの基本知識	赤木
8-10	がんの分子生物	がん遺伝子とがん抑制遺伝子、がん細胞の分裂・増殖・細胞死のメカニズム、各臓器がんと遺伝子異常との関連	赤木
11-14	腫瘍遺伝学	腫瘍遺伝学概論、遺伝子診断などのヒトの遺伝に関連する基礎知識	村上
15-18	がん免疫学	がんと免疫応答の基礎知識、サイトカインに関する最新の情報とがん治療との関連	内藤
19-22	がんの病理学	腫瘍の形態学的特徴（肉眼像と組織像、良性腫瘍と悪性腫瘍、癌と肉腫） がん臨床のなかの病理診断（標本作製、細胞診と組織診、分子標的治療と病理診断、病理所見と臨床症状との関連）	密田
23-25	がん疫学	がんの疫学、発生要因と今後のがん予防医療における課題	村上
26-27	まとめ	講義のまとめを行う	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学特論Ⅳ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer NursingⅣ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 船橋公彦（大森病院・教授） 桐林孝治（大橋病院・講師） 有賀智之（都立駒込病院乳腺外科・医長） 岡元るみ子（社会医療法人木下会千葉西総合病院・外来化学療法センター長） 加藤裕久（湘南医療大学薬学部医療薬学科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00 外部講師の場合：授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

死亡原因上位を占める代表的ながんを中心に科学的根拠に基づいた最新の治療方法に関する知識（手術療法、薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど）、がん治療・症状マネジメントに活用される主たる薬剤の薬理作用・作用機序・適応等について教授する。事例検討を通して、包括的な支援を提供できるように、看護援助の方法について検討し、治療侵襲からの回復を促進する高度実践看護の方略を探究する。また、遺伝性腫瘍領域において看護の専門性を発揮している実際を学び、自らの専門看護師としての活動拡大に向けた視点を深める。

【３】　到達目標

1.死亡原因上位を占める肺がん、乳がん、大腸がん、造血器腫瘍などの代表的な疾患を中心に、科学的根拠に基づいた最新の治療方法（手術療法、薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど）について説明できる。
2.治療侵襲からの回復を促進する看護について高度実践レベルの援助方法を具体的に述べることができる。
3.がん治療・症状マネジメントに活用される主たる薬剤の薬理作用・作用機序・適応について深く知識を習得し、モニタリングや患者の服薬管理能力の向上させる方略を述べることができる。
4.事例検討を通して、包括的な支援を提供できるように、看護援助の方法について具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	がん治療法のアップデート（肺がん）	肺がんに関する最新の治療方法（縮小手術、遺伝子変異解析と抗がん剤の選択）	桐林
4-5	事例検討①	肺がん事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
6-8	がん治療法のアップデート（乳がん）	乳がん（散発性・遺伝性）に関する最新の治療方法	有賀
9-10	事例検討②	乳がん事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
11-13	がん治療法のアップデート（大腸がん）	大腸がん（散発性・遺伝性）に関する最新の治療方法	船橋
14-15	事例検討③	大腸がん事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
16-18	がん治療法のアップデート（造血器腫瘍）	がん化学療法による治療効果の評価、造血器腫瘍に対する主要な薬物療法レジメン（プロトコルの開発経緯、適応/与薬方法と与薬時の注意点、副作用の出現の仕方と特徴、レジメンに伴う支持療法など）	岡元
19-20	事例検討④	造血器腫瘍事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
21-24	がんの薬物療法	抗がん剤の臨床薬理（代表的な抗がん剤の作用機序、抗がん剤のPK/PD）、薬物の相互作用と有害作用、疼痛緩和ケア領域における医薬品情報の活用	加藤
25-26	がん治療支援における看護の役割開発	遺伝性腫瘍（HBOC・Lynch症候群・FAPなど）の家系の患者や家族に対する専門的な看護支援とその実際	村上
27	講実践看護への応用	治療侵襲からの回復を促進する包括的な支援方法による高度実践看護の方略を探求する。	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Cancer Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）、山下尚美（看護学研究科・講師） 秋月伸哉（都立駒込病院精神腫瘍科・メンタルクリニック・部長）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がんやがん治療に伴って生じる主な身体的・精神的症状（疼痛、呼吸困難、倦怠感、嘔気・嘔吐、不安・抑うつ・せん妄）の発現メカニズムおよび評価方法、緩和方法について教授する。さらに、セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルを活用し、症状の出現によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法を習得し、症状緩和のための看護を探究する。

【３】　到達目標

1.人々が身体に現れた症状をどのように認知するのか、症状の体験の理解とそのマネジメントの考え方、評価の方法について、セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルをもとに理解し、具体的な方略を述べることができる。
2.がん患者にみられる主な症状（疼痛、呼吸困難、倦怠感、嘔気・嘔吐、不安・抑うつ・せん妄）のメカニズムおよび評価方法に関する知識を学び、緩和するための看護支援を述べることができる。
3.今までに実施した症状緩和の看護について症状マネジメントモデルを用いて説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	症状マネジメントモデル	がん看護専門看護師として症状マネジメント能力を習得することの必要性、Readingassignmentの紹介	村上
2	症状マネジメントモデルの概要	セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルの開発経緯と臨床応用の実際	村上
3-6	症状の理解と看護支援（疼痛）	疼痛の発現メカニズムの理解と、疼痛によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	山下
7-10	症状の理解と看護支援（呼吸困難）	呼吸困難の発現メカニズムの理解と、呼吸困難によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
11-14	症状の理解と看護支援（倦怠感）	倦怠感の発現メカニズムの理解と、倦怠感によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
15-18	症状の理解と看護支援（嘔気・嘔吐）	嘔気・嘔吐の発現メカニズムの理解と、嘔気・嘔吐によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
19-22	症状の理解と看護支援（不安・抑うつ・せん妄）	不安・抑うつ・せん妄の発現メカニズムの理解と、不安・抑うつ・せん妄によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	秋月
23-26	事例検討	症状マネジメントモデルを用いた実践への適用	村上、山下
27	まとめ	まとめを行う	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について資料を作成し、プレゼンテーションを行い、討議する。
２．30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Cancer NursingⅡ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 辻哲也（慶應義塾大学医学部・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

治療によってもたらされた器質的・機能的変化（摂食・嚥下障害、発声障害、高次機能障害、リンパ浮腫、造血幹細胞移植、緩和ケア）について病態生理や解剖学的変化と、その変化によって生じる生活への影響を教授する。これらの変化に対する専門的ながんリハビリテーションについて習得し、維持・改善するための身体的・心理的・社会的かつ多角的な視点によるがんリハビリテーション看護の方略を探究する。さらに、フィールド演習を通し、考案したがんリハビリテーション看護の方略を改良し、高度実践看護実習において活用できるよう検討を重ねる。

【３】　到達目標

1.治療によってもたらされた器質的・機能的変化について、病態生理や解剖学的変化と、その変化に伴って生じる生活への影響を理解し、リハビリテーションの専門的な知識や技術を学び、維持・改善、および患者のセルフケア能力の向上のためのがんリハビリテーション看護の方略について述べることができる。
2.治療に続発する器質的・機能的変化がもたらす精神的・社会的影響を理解し、予防的介入、あるいは早期発見し効果的な介入を行うための看護実践の方略を作成することができる。
3.作成したがんリハビリテーション看護の方略についてフィールド演習を通して改良点を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がんリハビリテーションについて	がんリハビリテーション看護について	村上
2-3	がんリハビリテーションの概要	セルフケア能力やＱＯＬ向上のためのリハビリテーションの役割	辻
4-5	がん治療とリハビリテーション①	摂食・嚥下障害、発声障害、高次機能障害をもたらす器質的・機能的変化とリハビリテーションの実際	村上
6-7	がん治療とリハビリテーション②	がん治療がリンパ系に与える影響と病態生理や診断方法・治療方法、造血幹細胞移植時のリハビリテーションの実際	村上
8-11	緩和ケアにおけるリハビリテーション	がん性疼痛、骨転移、終末期における身体的リハビリテーションの実際、日常生活動作や生活関連動作へのアプローチの実際、体力低下と廃用症候群	村上
12-13	精神的リハビリテーション	治療に伴う患者や家族の精神的苦痛のアセスメント方法と介入方法およびコミュニケーション・スキルの訓練	村上
14-15	社会的リハビリテーション	がんサバイバーの生活の質を高めるための社会的リハビリテーションの実際	村上
15-23	フィールド演習	フィールド演習を通して、がん患者に必要ながんリハビリテーション看護の方略を作成する。	村上
24-27	事例検討	作成したがんリハビリテーション看護の方略を検討し、ディスカッションを通して改良する。	村上
27	まとめ	まとめを行う	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学演習Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Cancer NursingⅢ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 寺原敦朗（大森病院放射線科・教授） 中村陽一（大森病院緩和ケアセンター・教授） 藤本美生（兵庫県粒子医療センター附属神戸陽子線センター・がん看護専門看護師） 田中雄大（コパン訪問看護ステーション・がん看護専門看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00 外部講師の場合：授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がん患者の日常生活のQOLの維持・改善を図るための継続的かつ包括的な緩和ケアの方略を教授する。特に、通院治療や在宅療養を受ける患者の治療継続に関する医学的判断を学び、ケア（care）とキュア（cure）を融合させた高度な知識と技術について習得し、看護実践として提供できる能力を探求する。また、継続的かつ包括的な支援を提供するための看護介入モデルを作成し、高度実践看護実習において活用できるよう検討を重ねる。

【３】　到達目標

1.がん患者の日常生活のQOLの維持・改善を図るために、対象者のセルフケア能力のアセスメント方法と継続的かつ包括的な緩和ケアの方略を述べることができる。
2.通院治療や在宅療養を受ける患者の治療継続に関する医学的判断を学び、ケア（care）とキュア（cure）を融合させた高度な知識と技術について習得し、看護実践の方略を述べることができる。
3.各学生のサブスペシャリティ領域における継続的かつ包括的な支援を提供するための看護介入モデルを作成することができる。
4.他職種と連携・協働しながら支援するチームアプローチモデルを作成し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	日常生活のQOLの拡大支援方法と看護の専門性	対象者のセルフケア能力をアセスメントする方法を習得することの必要性・ケア（care）とキュア（cure）を融合させた継続的かつ包括的な緩和ケアの方略を開発することの必要性	村上
2-5	がん放射線療法に伴う有害事象に関する医学的判断	有害事象のアセスメント、有害事象に対する皮膚保護剤や栄養補助剤の適切な処方、治療遂行判断基準、皮膚炎予防と症状緩和方法	寺原
6-8	通院治療を受ける患者への看護支援	がん放射線療法を受ける患者の療養生活支援するためのアセスメント方法と高度な看護支援方法	藤本
9-10	緩和医療を受ける患者の身体症状に関する医学的判断	全身状態、栄養状態、日常生活動作、疼痛、倦怠感、浮腫などの診察方法と対処方法（適切な薬物投与など）	中村
11-13	在宅医療を受ける患者への看護支援	生活に基盤をおいたセルフマネジメントを支援するための統合的アセスメント方法と高度な看護支援方法（栄養摂取、排泄、清潔保持、日常生活動作の拡大など）	田中
14-25	フィールド演習	訪問看護の場でフィールド演習を行い、在宅療養を受ける対象者の苦痛緩和や日常生活のQOL維持・改善を目指した継続的かつ包括的な看護を推進する判断能力、実践能力を身につける。 対象者の療養生活に合わせた個別の看護を推進するシステムについて検討し、看護介入モデルを作成する。	田中、村上
26-27	まとめ	グループ討議を通して、作成した看護介入モデルをチームアプローチモデルへと発展させる	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**精神看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）後藤喜広（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

精神保健福祉の歴史的変遷を踏まえた精神保健福祉制度と体制について学び、現代の精神的健康問題について多面的に分析し、精神保健福祉と精神医療の今後の展望について探求する。

【３】　到達目標

１．精神保健医療福祉の制度と体制について、法制度の変遷、倫理、治療環境等の視点から理解することができる。
２．現代の精神的健康問題について多面的に分析し、関連する要因を述べることができる。
３．対象理解のための生活の評価に必要な基礎的理論と方法について理解することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1 - 2	精神保健医療福祉の制度と体制①	日本の精神保健医療福祉に関する法制度の歴史的変遷	伊藤
3 - 4	精神保健医療福祉の制度と体制②	諸外国の精神保健福祉および精神医療の現状	伊藤
5	ライフサイクルと危機①	ライフサイクルにおける危機	後藤
6	ライフサイクルと危機②	精神力動論と自我機能とその障害	後藤
7 - 8	家族の機能と病理①	家族システム論を活用した家族の理解	伊藤
9 - 10	家族の機能と病理②	精神障害者家族のアセスメントと家族支援	伊藤
11 - 12	社会の動向と精神的健康問題①	生活支援の制度と支援機関、就労支援と職場のメンタルヘルス	伊藤
13 - 14	社会の動向と精神的健康問題②	自殺予防、虐待、ひきこもり、依存症等の地域保健活動	伊藤
15 - 16	社会の動向と精神的健康問題③	心的外傷とPTSDの理解と看護	後藤
17 - 18	社会の動向と精神的健康問題④	スティグマと人権擁護、倫理的課題	後藤
19 - 20	対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論①	セルフケア理論に基づく精神・身体状況の評価	伊藤
21 - 22	対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論②	心理・社会的成長発達に基づく精神状態の評価	伊藤
23 - 24	精神状態のアセスメントに必要な技法①	地域、在宅、産業場面、臨床におけるアセスメント	伊藤
25 - 26	精神状態のアセスメントに必要な技法②	精神障害者と家族の地域生活支援とケアマネジメント	伊藤
27	まとめ	精神保健医療福祉における課題と今後の展望	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）、後藤喜広（看護学研究科・講師）、梅澤志乃（大森病院・看護師）、髙田みほ（大森病院・精神保健福祉士）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

現代の精神看護・医療・福祉におけるアプローチの実際について専門的な知識を教授する。また個人・家族・集団に効果的な支援を探求するとともに、対象の人権を擁護するための倫理的判断能力を養う。

【３】　到達目標

１．精神保健上の問題を抱えた人々への精神看護・医療・福祉におけるアプローチの理論と技法について説明できる。
２．対象の人権を擁護することについて、トラウマインフォームドケアの視点を用いて考察することができる。
３．対象者やその家族がその人らしく生き、回復することについて、自らの意見を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向①	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向	伊藤
2 - 3	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム	後藤
4 - 5	地域移行、地域定着のための支援①	精神科におけるソーシャルサポート	髙田
6 - 7	地域移行、地域定着のための支援②	地域移行のためのネットワークの活用	髙田
7 - 8	地域移行、地域定着のための支援③	地域定着支援とコミュニティの形成	伊藤
9 - 10	トラウマインフォームドケア①	トラウマインフォームドケアの概要	伊藤
11 - 12	トラウマインフォームドケア②	トラウマインフォームドケアの視点を用いた事例検討	伊藤
13 - 14	トラウマインフォームドケア③	トラウマインフォームドケアの実践	伊藤
15 - 16	多職種連携とコンサルテーション①	精神科における多職種連携	後藤
17 - 18	多職種連携とコンサルテーション②	コンサルテーション論	伊藤
19 - 20	多職種連携とコンサルテーション③	コンサルテーションを活用した介入アプローチ①	梅澤
21 - 22	多職種連携とコンサルテーション③	コンサルテーションを活用した介入アプローチ②	梅澤
23 - 24	精神障害者およびその家族の回復①	精神障害をもつ人とその家族の理解と自立を目指すための支援について、事例検討を通して探求する（リカバリーモデル、ストレングスモデル）	伊藤・後藤
25 - 26	精神障害者およびその家族の回復②	精神障害をもつ人とその家族の理解と自立を目指すための支援について、事例検討を通して探求する（自助グループ、ピアサポート）	伊藤・後藤
27	まとめ	精神保健上の問題を抱えた人々の回復とその支援	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）、後藤喜広（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマでフィールドワークを計画して実施する。フィールドワークを実施し、研究データの収集方法と分析方法を修得する。

【３】　到達目標

1. 先行文献を多角的に検討し、精神保健医療に関する現状と課題を説明することができる
2. 関心のあるテーマを検討し、演習の課題を明確にすることができる
3. フィールドワークを実施し、データ収集方法やデータ分析を修得することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	フィールドワークにおけるデータ収集と演習方法	伊藤・後藤
2	フィールドワークのテーマ選定	各自の関心のある事象を報告し、自分が取り組む研究課題を明確にする	伊藤・後藤
3 - 4	文献検討①	各自の研究課題に関連した文献を検討する	伊藤・後藤
5 - 6	文献検討②	文献検討の結果を報告し、討議する	伊藤・後藤
7 - 8	演習計画①	関心を持っているテーマに沿ってフィールドワーク計画を立案する	伊藤・後藤
9 - 10	演習計画②	フィールドワークに活用するフィールドノーツを作成する	伊藤・後藤
11 - 12	フィールドワーク①	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
13 - 14	フィールドワーク②	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
15 - 16	データ分析①	収集した情報をデータ化して、分析する	伊藤・後藤
17	演習実施報告①	フィールドワークの成果を発表し、討議する	伊藤・後藤
18 - 19	演習計画③	関心を持っているテーマに沿ってフィールドワーク計画を立案する	伊藤・後藤
20 - 21	フィールドワーク③	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
22 - 23	フィールドワーク④	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
24 - 25	データ分析②	収集した情報をデータ化して、分析する	伊藤・後藤
26 - 27	演習実施報告②	フィールドワークの成果を発表し、討議する	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
関心のあるテーマに基づいてフィールドワークを実施する。
30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Mental Health and Psychiatric NursingⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）、後藤喜広（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【２】　授業概要

各自が関心を持っている領域の視点から研究課題を明確にし、実証的な研究方法を検討できる能力を養う。

【３】　到達目標

１．各自が関心を持っている領域の視点から精神保健医療福祉における重要な課題を考察することができる。
２．自身の研究課題を明確にできる。
２．研究課題に取り組むための実証的な研究方法を検討し、研究計画書を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習ガイダンス	フィールドワークにおけるデータ収集と演習方法	伊藤・後藤
2 - 3	精神保健、精神看護における研究課題	精神保健、精神看護における研究課題の発表	伊藤・後藤
4 - 5	研究課題の明確化①	研究課題における研究の動向の検討①	伊藤・後藤
6 - 7	研究課題の明確化②	研究課題における研究の動向の検討②	伊藤・後藤
8 - 9	研究課題の明確化③	研究課題における研究の動向の検討③	伊藤・後藤
10 - 11	研究デザイン①	研究課題を明らかにするための研究の方法についての検討①	伊藤・後藤
12 - 13	研究デザイン②	研究課題を明らかにするための研究の方法についての検討②	伊藤・後藤
14 - 15	フィールドワークおよび予備調査	フィールドワークおよび予備調査に関する計画立案	伊藤・後藤
16 - 17	フィールドワーク①	観察法やインタビュー調査を用いた演習①	伊藤・後藤
18 - 19	フィールドワーク②	観察法やインタビュー調査を用いた演習②	伊藤・後藤
20 - 21	フィールドワーク③	観察法やインタビュー調査を用いた演習③	伊藤・後藤
22 - 23	フィールドワーク④	フィードバック・予備調査結果の分析①	伊藤・後藤
24 - 25	フィールドワーク⑤	フィードバック・予備調査結果の分析②	伊藤・後藤
26 - 27	研究計画書の作成	フィールドワーク・予備調査結果をふまえた研究計画書の作成	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で討議を行ったのちに、関心のある領域の視点に基づいてフィールドワークを実施する。
フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し自己の研究課題を深める。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学部研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

各院生の関心や看護実践および研究課題に沿えるよう、プレゼンテーションや討論を通して、院生個々の課題に具体的に活かせる方法を修得する。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【３】　到達目標

公衆衛生看護の現状、公衆衛生看護に関わる理論、公衆衛生看護活動の展開と評価方法、今後の課題について具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護の変遷	わが国における地域看護	岸
3	地域看護の変遷	わが国における地域看護活動の変遷（1）	岸
4	地域看護の変遷	わが国における地域看護活動の変遷（2）	岸
5	システム理論	システム理論（1）	岸
6	システム理論	システム理論（2）	岸
7	地域看護の課題	国際比較からみたわが国の問題（1）	岸
8	地域看護の課題	国際比較からみたわが国の問題（2）	岸
9	地域看護の課題	わが国の保健医療福祉の問題と課題（1）	岸
10	地域看護の課題	わが国の地域看護活動の問題と課題（2）	岸
11	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護（1）	岸
12	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護（2）	岸
13	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護（3）	岸
14	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護（4）	岸
15	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護（5）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験をふまえグループ討議を行う。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【10】　参考書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

学生の主体的な学びを重視し、学生のプレゼンテーションとディスカッションによる講義をすすめる。

【３】　到達目標

地域看護学研究における概念、量的・質的研究のデザインやデータ収集、分析、結果の公表の方法を具体的に説明できる。さらに、上記の研究方法を踏まえた上で関心のあるテーマにそった文献検討を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護学の概念	地域看護学研究の概念	岸
3	研究デザイン	量的研究のデザイン	岸
4	研究デザイン	質的研究のデザイン	岸
5	研究倫理	研究の倫理	岸
6	データ収集と分析	測定とデータ収集（1）	岸
7	データ収集と分析	測定とデータ収集（2）	岸
8	データ収集と分析	研究データの分析（1）	岸
9	データ収集と分析	研究データの分析（2）	岸
10	データ収集と分析	研究を伝える、結果の利用	岸
11	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う（1）	岸
12	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う（2）	岸
13	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う（3）	岸
14	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う（4）	岸
15	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う（5）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

学生のプレゼンテーションを中心に進める。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

近藤潤子監訳.(2010).看護研究：原理と方法.医学書院

【10】　参考書

近藤潤子監訳.(2010).看護研究：原理と方法.医学書院

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学部研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

各院生の関心や看護実践および研究課題に沿えるよう、プレゼンテーションや討論を通して、院生個々の課題に具体的に活かせる方法を修得する。

【３】　到達目標

公衆衛生看護の現状、公衆衛生看護に関わる理論、公衆衛生看護活動の展開と評価方法、今後の課題を具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護の概念	公衆衛生看護の定義・概念・理念(1)	岸
3	公衆衛生看護の概念	公衆衛生看護の定義・概念・理念(2)	岸
4	公衆衛生看護の概念	公衆衛生看護の定義・概念・理念(3)	岸
5	公衆衛生看護活動の変遷	公衆衛生看護活動の変遷（1）	岸
6	公衆衛生看護活動の変遷	公衆衛生看護活動の変遷（2）	岸
7	公衆衛生看護活動の変遷	公衆衛生看護活動の変遷（3）	岸
8	公衆衛生看護活動の課題	公衆衛生看護活動の課題（1）	岸
9	公衆衛生看護活動の課題	公衆衛生看護活動の課題（2）	岸
10	公衆衛生看護活動の課題	公衆衛生看護活動の課題（3）	岸
11	公衆衛生看護活動の課題	公衆衛生看護活動の課題（4）	岸
12	公衆衛生看護に関わる理論・モデル	公衆衛生看護に関わる理論（1）	岸
13	公衆衛生看護に関わる理論・モデル	公衆衛生看護に関わる理論（2）	岸
14	公衆衛生看護に関わる理論・モデル	公衆衛生看護に関わる理論（3）	岸
15	公衆衛生看護に関わる理論・モデル	公衆衛生看護に関わる理論（4）	岸
16	公衆衛生看護に関わる理論・モデル	公衆衛生看護に関わる理論（5）	岸
17	公衆衛生看護に関わる理論・モデル	公衆衛生看護に関わる理論（6）	岸
18	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（1）	岸
19	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（2）	岸
20	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（3）	岸
21	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（4）	岸
22	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（5）	岸
23	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（6）	岸
24	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（7）	岸
25	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（8）	岸
26	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（9）	岸
27	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価（10）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【10】　参考書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【11】　備考(関連科目等)

学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験をふまえグループ討議を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

2022年度

科目名(日本語)	**国際広域保健特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced International HealthⅠ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時~12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健・看護活動の対象理解に役立つ科目である。受講生の興味関心を活かし、テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。文献講読、発表、討論を通してActivethinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。

【３】　到達目標

国際保健・看護の概念、対象の特徴を説明できる。取り組むべき健康課題の重要性について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション 授業で講読する文献の決定	夏原
3-4	国際保健学とは	国際保健/看護の概念についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
5-6	人類生態学の視点から１	人間の多様性について講義による話題提供 ディスカッション	夏原
7-8	人類生態学の視点から２	人間の多様性について講義による話題提供 ディスカッション	夏原
9-10	健康と文化	健康観・病気観と文化についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
11-12	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴（歴史・地理的特徴）についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
13-14	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴（保健医療の状況）についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
15-16	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴（特殊な状況における活動）についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
17-18	健康と文化	世界の健康課題の背景についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
19-26	国際保健活動	取り組むべき課題Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.についてレポートに基づいて発表、ディスカッション	夏原
27	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%。

【８】　フィードバック方法

毎回授業時にレポートへのコメント書き込みと口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

ディスカッションで授業を進めるため、履修登録人数によっては開講しない年もある。
授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

2022年度

科目名(日本語)	**国際広域保健特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced International HealthⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時~12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健活動の方法を理解するのに役立つ授業である。受講生の興味関心を活かし、テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。文献講読、発表、討論を通してActivethinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。

【３】　到達目標

国際保健活動に関するデータ収集、分析、計画立案に関する代表的な方法論を説明できる。健康課題への対応方法について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション 講読課題の決定	夏原
3-4	健康とデータ	健康課題の探索（健康に関するデータ）について	夏原
3	健康とデータ	健康課題の探索（データ測定と分析）	夏原
4	健康と文化	文化が健康に影響を与える経路	夏原
5	健康と文化	異文化理解と看護理論	夏原
6	健康と文化	文化的適応としての医療	夏原
7－9	健康と文化	Cultural Awareness in Nursing and Health Care	夏原
10	健康と文化	文化人類学からみた異文化理解	夏原
11	国際保健の方法	フィールドワーク論	夏原
12	国際保健の方法	PRIMARY HEALTH CARE: 25 YEARS AFTER ALMA-ATA　PHCの変遷	夏原
13	国際保健の方法	Project cycle management	夏原
14	国際保健の方法	PRECEDE-PROCEED Model	夏原
15	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%。

【８】　フィードバック方法

毎回授業時にレポートへのコメント書き込みと口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書

Brathwaite, B. (Ed.). (2020). Diversity and Cultural Awareness in Nursing Practice (Transforming Nursing Practice Series) Paperback. Learning Matters; 1st edition.(3700円前後)

【10】　参考書

適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

ディスカッションで授業を進めるため、履修登録人数によっては開講しない年もある。
授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

2022年度

科目名(日本語)	国際広域保健演習Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in International Health Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時~12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

国際保健・看護の活動・研究に用いられる様々な方法についての基本を習得する科目である。方法論について学んだ後、データ収集からまとめまでを実際に体験する。

【３】　到達目標

国際保健・看護の活動・研究の課題をアセスメントする力をつける。人口学、栄養学、文化人類学等の調査方法論を学び、データの収集、分析、まとめをスーパーバイズのもとでできるようになる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	Research strategies in human biology	Planning a research project (Chap.1)	夏原
3	Research strategies in human biology	Research designs and sampling strategies (Chap.2)	夏原
4	Research strategies in human biology	Biocultural studies of ethnic groups (Chap.3)	夏原
5	Research strategies in human biology	Migration (Chap.4)	夏原
6	Research strategies in human biology	Nutritional studies in biological anthropology (Chap.6)	夏原
7	Research strategies in human biology	Historical demography and population structure (Chap.7)	夏原
8	Research strategies in human biology	Writing for publication (Chap.8)	夏原
9－13	調査方法	調査演習：人口調査、身体計測、食事調査、行動調査、インタビュー調査	夏原
14－15	まとめ	演習報告会（演習レポート作成・プレゼンテーション）	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

テキストの担当部分の内容を把握して発表する。他の院生の発表する部分も抄読することで、互いに質問しあうこと。
授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題40%、授業参加態度20%、演習レポート20%、最終プレゼンテーション20%。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

Lasker,G.W.,&Mascie-Taylor,C.N.(Eds.).Researchstrategiesinhumanbiology:
fieldandsurveystudies(Vol.13).CambridgeUniversityPress.(1993)
渡辺知保他.人間の生態学.朝倉書店.(2011)その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【10】　参考書

Lasker,G.W.,&Mascie-Taylor,C.N.(Eds.).Researchstrategiesinhumanbiology:
fieldandsurveystudies(Vol.13).CambridgeUniversityPress.(1993)
渡辺知保他.人間の生態学.朝倉書店.(2011)その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

2022年度

科目名(日本語)	**国際広域保健演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in International Health Ⅱ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時~12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

国際保健活動・研究分野の興味関心のあるテーマについてレビューができるようになる授業である。テーマについての論文抄読と発表、ディスカッションを通してCritical thinking能力をつける。

【３】　到達目標

国際的な国際保健・看護分野の論文・資料から必要な情報を得られるようになる。自分の研究テーマがFINERかを吟味し修士論文の計画書に活かすことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2−3	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（論旨一貫性）	夏原
4	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（図表）	夏原
5−6	論文の読み方	Systematic reviewsの読み方	夏原
7−14	論文購読	文献検討と発表	夏原
15	まとめ	Abstract, Introduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A4用紙２枚の資料を準備する。	夏原
		リフレクション、リフレーミング	

【６】　事前・事後学習とその時間

興味のあるテーマに関して文献検索し、内容を把握して発表する。他の学生の発表する論文についても内容を把握し、互いに質問しあうこと。
授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題40%、授業参加態度20%、レビュー結果のまとめ40%

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

HigginsJPT,GreenS(editors).CochraneHandbookforSystematicReviewsofInterventionsVersion6[2019].
https://training.cochrane.org/handbook/current

【10】　参考書

HigginsJPT,GreenS(editors).CochraneHandbookforSystematicReviewsofInterventionsVersion6[2019].
https://training.cochrane.org/handbook/current

【11】　備考(関連科目等)

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**国際保健学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Global Health Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

・国際保健活動の対象理解に役立つ科目である。文献講読、発表、討論を通してActive thinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。受講生の興味関心を活かし、各回テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。

【３】　到達目標

1.国際保健・看護の概念を歴史的変遷を踏まえて説明できる
2.国際保健・看護の対象の特徴を説明できる
3.国際保健が取り組むべき健康課題の重要性について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-4	国際保健/看護の概念	国際的視点からみた医療・看護の歴史的変遷	夏原
5-6	人類生態学の視点から１	生態系におけるヒトの特徴	夏原
7-8	人類生態学の視点から２	生態系の特徴と食	夏原
9-10	人類生態学の視点から３	生態系の特徴と身体・行動	夏原
11-12	人類生態学の視点から４	生態系の特徴と集団	夏原
13-14	人類生態学の視点から５	環境への適応と健康	夏原
15-16	人類生態学の視点から6	環境への適応と医療	夏原
17-18	人類生態学の視点から7	環境問題の本質	夏原
19-20	世界の健康課題の背景	人類生態学の視点からみた整理	夏原
21-22	国際保健活動の対象の特徴	・歴史・地理的特徴 ・保健医療の状況における特徴 ・特殊な状況における活動とその特徴	夏原
23-26	国際保健学が取り組むべき課題	Population issue, Communucable diseases, Non communucable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, などからトピックを選び、なぜその課題に取り組む必要があるのかをまとめる	夏原
27	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
・毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

・ディスカッションで授業を進めるため、履修登録人数によっては開講しない年もある。
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**国際保健学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Global Health Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

・国際保健活動の方法を理解するのに役立つ授業である。文献講読、発表、討論を通してActive thinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。受講生の興味関心を活かし、各回テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。

【３】　到達目標

1.国際保健活動に関するデータ収集、分析、計画立案に関する代表的な方法論を説明できる。
2.特定の健康課題への対応方法について、背景にある状況を関連付けながら根拠とともに説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	オリエンテーション	授業の進め方とねらいを理解する	夏原
3-4	健康とデータ1	健康課題の探索とデータ	夏原
5-6	健康とデータ2	データ測定と分析	夏原
7-8	健康と文化1	文化が健康に影響を与える経路	夏原
9-10	健康と文化2	異文化理解と看護理論	夏原
11-12	健康と文化3	文化的影響を考慮した健康課題への取り組み	夏原
13-16	PHC	PRIMARY HEALTH CARE: 25 YEARS AFTER ALMA-ATA PHCの変遷	夏原
17-18	PRECEDE-PROCEED Model	モデルの概説	夏原
19-22	Project cycle management	モデルの概説とプロジェクト	夏原
23-26	フィールドワーク論	調査・研究の現状と課題	夏原
27	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
・毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

・ディスカッションで授業を進めるため、履修登録人数によっては開講しない年もある。
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**国際保健学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Global Health Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健・看護の活動・研究に用いられる様々な方法についての基本を習得し、アセスメント力をつけるための科目である。方法論について学んだ後、データ収集からまとめまでを実際に体験する。

【３】　到達目標

1.疫学、人口学、栄養学、文化人類学等の調査方法論について、その特徴を説明できる。
2.状況に応じて適切な調査方法論を選択することができる。
3.基本的なデータの収集ができる。
4.データにあった分析、まとめをスーパーバイズのもとでできる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-4	Research strategies in human biology	Planning a research project (Chap.1)	夏原
5-6	Research strategies in human biology	Research designs and sampling strategies (Chap.2)	夏原
7-8	Research strategies in human biology	Biocultural studies of ethnic groups (Chap.3)	夏原
9-10	Research strategies in human biology	Migration (Chap.4)	夏原
11-12	Research strategies in human biology	Nutritional studies in biological anthropology (Chap.6)	夏原
13-14	Research strategies in human biology	Historical demography and population structure (Chap.7)	夏原
15-16	Research strategies in human biology	Writing for publication (Chap.8)	夏原
17-24	調査方法	調査演習：人口調査、身体計測、食事調査、行動調査、インタビュー調査	夏原
25-27	まとめ	演習報告会（演習レポート作成・プレゼンテーション）	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間
・30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
・毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準
毎回の課題40%、授業参加態度20%、演習レポート20%、最終プレゼンテーション20%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
Lasker,G.W.,&Mascie-Taylor,C.N.(Eds.).Research strategies in human biology: field and survey studies(Vol.13).Cambridge University Press.(1993)
渡辺知保他.人間の生態学.朝倉書店.(2011)その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍等を提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**国際保健学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Global Health Ⅱ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健活動・研究分野の興味関心のあるテーマについてレビューができるようになる授業である。テーマについての論文抄読と発表、ディスカッションを通してCritical thinking能力をつける。

【３】　到達目標

1.国際的な国際保健・看護分野の文献から自分の興味関心に沿った情報を取得できる。
2.文献から必要な情報を抽出できる。
3.抽出した情報に照らし合わせて自分の研究テーマがFINERかを吟味し修士論文の計画書に活かすことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-6	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（論旨一貫性）	夏原
7-8	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（図表）	夏原
9-10	論文の読み方	Systematic reviewsの読み方	夏原
11-25	論文講読	文献検討と発表 Abstract, Introduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A4用紙２枚の資料を準備する。	夏原
26-27	まとめ	リフレクション、リフレーミング	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
・興味のあるテーマに関して文献検索し、内容を把握して発表する。他の学生の発表する論文についても内容を把握し、互いに質問しあうこと。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題40%、授業参加態度20%、レビュー結果のまとめ40%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・論文を選択する際には、international journalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**看護教育論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Education of nursing science	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 新保幸洋（理学部・教授） 髙宮庸司郎（大森病院・看護部）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

教育の概念と教育方法の原理および成人教育の原理と方法を教授する。看護ケアの質向上と看護スタッフの能力開発のための看護継続教育のありかたを探求するために、既存の学習理論を教授する、さらに、教育実践を模擬的に実施することにより、スタッフの臨床判断能力育成に向けた方法を探求する。

【３】　到達目標

１．教育の概念と教育方法の原理および成人教育の原理と方法について説明することができる。
２．看護ケアの質向上と看護スタッフの能力開発のための看護継続教育のありかたについて、学習理論に基づいて説明することができる。
３．模擬授業を実施することにより、スタッフの臨床判断能力育成に向けた方法を探求する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1 - 3	教育とは	教育の概念・理念・本質 教育方法の概念と種類	新保
4 - 6	学習理論と教育方法	コースデザインと評価方法について	村上
7-12	教育実践に関する理論	状況に埋め込まれた学習 周辺的正統参加論 経験学習理論	村上
12-13	看護継続教育の方法と評価	経験学習理論の実践への活用 臨床判断能力育成に向けた経験の省察	髙宮
14-16	看護継続教育の方法と評価	看護の質保証と看護スタッフの能力開発	村上
17-20	授業設計	学生、スタッフ等の学習者を主体とした授業における授業設計	村上
21-25	模擬授業	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上
26-27	まとめ	講義のまとめを行う	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準
課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書
講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書
講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**看護理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Theory	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
その他

「その他」の内容

ケースメソッド

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

看護理論は「看護」という営みを理解し、新たな看護実践を創造する枠組として価値づけられる。本科目では、看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性について概観した後に、理論のクリティーク方法を学修する。また、代表的ないくつかの理論について論及し、看護理論の看護事象への活用可能性について議論する。さらに、選択した1 つの看護理論について枠組みを用いて分析し、その結果をプレゼンテーションする。これらにより、看護理論を看護実践に活用する能力、および看護事象を理論的に捉える能力を醸成する。

【３】　到達目標

1)看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を説明できる。
2) いくつかの看護論の背景、主要概念、枠組みを説明することができる。
3) 理論に基づく事例検討を行い、課題解決に看護理論を用いる方法を説明することができる。
4) 1つの看護理論について背景、主要概念、枠組み、事例への活用方法をプレゼンテーションすることができる。
5)看護実践の基盤となる諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用について検討し、自分の考えを論理的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
１・２	看護学の理論体系の発展経緯	看護における理論開発の歴史 看護理論の概観と看護科学、看護学との関連	菊池
３・４	看護現象の概念化や理論化の意味や重要性	看護理論の諸概念 卓越した看護実践への看護理論の活用 看護実践の質を維持・発展させるための理論構築 理論と概念、理論の分析と評価 看護実践・教育・研究における看護理論の重要性	菊池
５・６	ケアリング理論	ジーン・ワトソンの看護理論	菊池
７～10	セルフケア理論	ドロセア・オレムの看護理論①	菊池
11・12	クリティーク演習①	グループで選択した看護理論についてのクリティーク①	菊池
13～17	目標達成理論	アイモジン・キングの看護理論	菊池
18・19	クリティーク演習②	グループで選択した看護理論についてのクリティーク②	菊池
20～23	中範囲理論	病みの軌跡理論	菊池
24・25	クリティーク演習③	グループで選択した看護理論についてのクリティーク③	菊池
26・27	発表とまとめ	ワーク成果発表 看護理論を看護実践に活用する	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
ケースメソッドによるケースの検討や課題発表を行うので、事前準備をして積極的に参加すること。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

筒井真優美編集(2015)，看護理論家の業績と理論評価，医学書院，第２版

【10】　参考書

筒井真優美編（2008），看護理論　看護理論20の理解と実践への応用，南江堂，第３版.

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

科目名(日本語)	**疾病学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Medicine	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	湯浅　玲奈				
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	湯浅玲奈rnyuasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週金曜日：12:30～13:00 メールで事前に連絡をすること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、zoom

【２】　授業概要

疾患の病態生理を理解するために、人体の正常構造やその機能を再認識し、臨床医学、臨床看護に役立つ知識を身につけられるようにする。また、他の疾患と臨床症状が似ているために適切な診断と治療にすぐに結びつきづらい内分泌疾患や、加齢により生じる多様な変化などを、最近のトピックスなども幅広く取り入れて講義し、学生のプレゼンテーションやデスカッションも積極的に行う。

【３】　到達目標

疾患の病態生理を理解し、正しく説明できるようになる。
医療現場で実際に患者を診る際に、患者の心身の状態から病態をできる限り正確に把握し、可能な限り迅速に診断と適切な治療に結び付けることができるようになる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	内分泌学①	内分泌疾患の診断と治療　－下垂体疾患を中心に―	湯浅
2	内分泌学②	内分泌疾患の診断と治療　―甲状腺疾患を中心に―	湯浅
3	内分泌学③	内分泌疾患の診断と治療　―甲状腺疾患を中心に―	湯浅
4	内分泌学④	診断と治療　－副腎を中心に－	湯浅
5	内分泌学⑤	他の疾患と間違えられやすい内分泌疾患①	湯浅
6	内分泌学⑥	他の疾患と間違えられやすい内分泌疾患②	湯浅
7	腎臓学①	腎疾患と内分泌疾患	湯浅
8	腎臓学②	腎疾患と内分泌疾患	湯浅
9	腎臓学③	腎代替療法　－人工透・腹膜透析－	湯浅
10	腎臓学④	腎代替療法　一腎移植－	湯浅
11	更年期学①	女性の更年期障害	湯浅
12	更年期学②	女性の更年期障害①	湯浅
13	更年期学③	男性更年期②	湯浅
14	加齢医学①	加齢による生理的変化①	湯浅
15	加齢医学②	加齢による生理的変化②	湯浅
16	加齢医学③	加齢による変化と疾患①	湯浅
17	加齢医学④	加齢による変化と疾患②	湯浅
18	老年医学①	誤嚥性肺炎①	湯浅
19	老年医学②	誤嚥性肺炎②	湯浅
20	老年医学③	フレイルとはなにか	湯浅
21	老年医学④	フレイルと理学療法①	湯浅
22	老年医学⑤	フレイルと理学療法②	湯浅
23	緩和医療①	疼痛緩和　―担癌患者―	湯浅
24	緩和医療②	疼痛緩和　―非担癌患者―	湯浅
25	緩和医療③	広義の緩和医療①	湯浅
26	緩和医療④	広義の緩和医療②	湯浅
27	緩和医療⑤	グリーフケア	湯浅

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された資料がある場合は、講義前に理解をしておく。
30時間の講義に対しては、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み30%、プレゼンターテーション50%、レポート20%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

資料の配布、もしくは必要に応じ適宜参考図書等を提示する。

【10】　参考書

必要に応じ適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

基本的に対面形式にて実施するが、状況によっては対面形式と遠隔形式（zoomを用いたリアルタイム配信など）を組み合わせるハイブリッド方式にすることも対応できるようにする。

科目名(日本語)	**看護英語論文通読**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Methods of Nursing Research	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	吉朝　加奈				
担当教員	吉朝加奈（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	吉朝加奈kana.yoshiasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、Google Classroom、各自のPC

【２】　授業概要

・研究に必要な英語論文を読む力を養う。
・正確に内容を理解する力をつけるとともに、多数の文献の中から必要な情報を素早く得るための基本的な英語のReadingスキルを習得する。
・看護研究における専門用語や知識、看護論文の読み方の基礎力をつける。

以上、学習したことを実践し、経験的に学習するために、各受講者が自身の専門分野の先行研究から論文を選び講読する。
この英語論文については、学期中に段階的に読み進め、その内容について授業内で個人発表を行う。

【３】　到達目標

1. 健康や医療・看護に関わる英単語の習得方法を身につけることができる。
2. 基本的なReadingスキルを習得し、専門分野の英文をより早く正確に読むことができる。
3. 看護英語論文の読み方の基礎を身につけ、自らの専門分野の論文精読に活用できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	＜遠隔＞ ガイダンス、授業の概要。	吉朝
2-3	Reading Skill (1)、英語文献講読（１）	＜遠隔＞ Reading Skillについて解説と練習 テキスト Unit 1	吉朝
4-5	英語文献講読 (2)	＜対面＞ テキスト Unit 3	吉朝
6	Reading Skill (2)	＜対面＞ 「看護・医学論文」の読み方の基本 医療専門用語の基礎知識	吉朝
7-8	英語文献講読 (3)	＜対面＞ テキスト Unit 4/5	吉朝
9	Reading Skill (3)	＜対面＞ 課題の中間報告（各自のリサーチテーマと英語文献検索状況） Abstractの読み方	吉朝
10-11	英語文献講読 (4)	＜対面＞ テキスト Unit6/10	吉朝
12	Abstractを読む (1)	＜対面＞ 受講生が選択した英語論文のAbstractを読む（１）	吉朝
13-14	英語文献講読 (5)	＜対面＞ テキスト Unit 14	吉朝
15	Abstractを読む (2)	＜対面＞ 受講生が選択した英語論文のAbstractを読む (2)	吉朝
16-17	英語文献講読 (6)	＜対面＞ テキスト Unit 16/17	吉朝
18	Abstractを読む (3)	＜対面＞ 受講生が選択した英語論文のAbstractを読む (3)	吉朝
19-20	英語文献講読 (7)	＜対面＞ テキスト Unit 19	吉朝
21	個人発表 (1)	＜対面＞ 各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	吉朝
22-23	英語文献講読 (8)	＜対面＞ テキスト Unit 20	吉朝
24	個人発表 (2)	＜対面＞ 各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	吉朝
25-26	個人発表 (3)	＜遠隔＞ 各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	吉朝
27	まとめ	＜遠隔＞ 講義内容のまとめを行う。	吉朝

【６】　事前・事後学習とその時間

講義・演習（30 時間）：30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
事前に提示された文献については、必ず予習をして参加すること。

【７】　評価方法・基準

平常点（課題への取り組み・授業への貢献度）60%、個人発表40%で総合的に判断する。

【８】　フィードバック方法

評価については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

野口ジュディー、幸重美津子 (2012)『医療系学生のための総合英語』三修社

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

テキストは、可能な限り授業初日までに準備すること。
授業に英和・和英辞典（電子辞書可）を持参することを推奨。
対面形式を中心に、履修者と社会状況に応じて遠隔形式（zoom）と組み合わせて実施する。
履修者の専門分野や講義の進捗状況や社会状況等によって、授業計画や方式が変更になる場合がある。

科目名(日本語)	**心理学研究特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Psychology Research	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子keiko.itou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom,zoom,pc

【２】　授業概要

心理学全般に関する研究原理を概説し、次に分野ごとの代表的な研究例を参照しながら研究方法を教授する。対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について基本的な知識を体系的に学び、自らの看護実践や研究への心理学の活用について検討する。

【３】　到達目標

1. 心理学全般に関する研究原理の基礎的な知識について述べることができる。
2. 対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について概要を説明できる。
3. 臨床心理学における心理査定法、心理療法、研究法について述べることができる。
4. 心理学の基礎的な知識を活用した、研究の構想について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	心理学概論①	オリエンテーション、心理学研究の動向	伊藤
2	心理学概論②	心理学における研究法	伊藤
3	心理学概論③	感覚	伊藤
4	心理学概論④	知覚	伊藤
5	心理学概論⑤	認知・記憶	伊藤
6	心理学概論⑥	学習	伊藤
7	心理学概論⑦	感情	伊藤
8	心理学概論⑧	動機づけ	伊藤
9	心理学概論⑨	パーソナリティ	伊藤
10	心理学概論⑩	発達心理	伊藤
11	心理学概論⑪	社会心理（対人認知）	伊藤
12	心理学概論⑫	社会心理（援助行動・リーダーシップ）	伊藤
13 - 14	心理尺度の開発	心理尺度の開発	伊藤
15	心理尺度の活用	心理尺度の活用	伊藤
16 - 17	心理統計	統計ソフトJMPの基本的な使い方	伊藤
18 - 20	心理学研究の実際①	心理学の理論を活用した研究	伊藤
21 - 23	心理学研究の実際②	心理学を看護に応用した研究	伊藤
24 - 26	心理学を活用した研究の構想	心理学の基礎的な知識を活用した研究の構想	伊藤
27	まとめ	授業の総括	伊藤

【６】　事前・事後学習とその時間

講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

文献学習（20%）、課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題を共有する。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

原則としてzoomを用いたリアルタイム配信の遠隔形式で講義を行う。

科目名(日本語)	看護コンサルテーション論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Consultation	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上 好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 梅澤志乃（大森病院・精神看護専門看護師） 富田学（大森病院・感染症看護専門看護師） 黒澤亮子（大森病院・がん看護専門看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関する概念・技術を教授する。コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析する能力を養う。専門領域におけるコンサルテーションを実施する際の課題について検討し、事例を批判的に吟味しながら実践活動に応用できる能力を習得する。

【３】　到達目標

1.コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人もしくは組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについて説明することができる。
2.コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析し説明することができる。
3.学習した概念を用いて実際の現象を分析することを通して、専門看護師としてコンサルテーション機能を実践する際の自己の課題を明確にし、課題解決のための基礎的能力について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている

博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護コンサルテーションの概要	看護コンサルテーションについて	村上
2-8	看護コンサルテーションの概要	専門看護師の役割と機能（①コンサルタントの役割、②コンサルテーションのタイプと実践モデル、③内部コンサルテーションと外部コンサルテーション、④専門看護師としてどのようにコンサルテーションを実施するか①から③の概念を用いて検討する）	村上
9-15	看護コンサルテーションのプロセス	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	村上
16-19	臨床の場における看護コンサルテーションの実際（感染看護領域）	組織内における職種横断的感染対策における事例を用いながら、コンサルテーションのあり方を検討する。さらに、隔離を要する状態にある患者、HIV陽性患者などの倫理的配慮に関するコンサルテーションの実際を検討する	富田
20-23	臨床の場における看護コンサルテーションの実際（がん看護領域）	複雑な事例に対するがん看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、看護管理者と専門看護師との連携の実際と課題を検討する	黒澤
24-26	臨床の場における看護コンサルテーションの実際（リエゾン精神看護領域）	複雑な事例に対する精神看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、コンサルティ中心のコンサルテーション活動の実際と課題を検討する	梅澤
27	まとめ	講義のまとめを行う	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**看護学研究法特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Methods for Nursing Sciences and Arts	必修	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	坂本　なほ子				
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授）　野口麻衣子（東京大学医学系研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

看護研究に必要とされる知識を身につけ、研究テーマに即した方法を応用できるような実践的かつ倫理的な看護研究者を育成する。

【３】　到達目標

看護研究に必要とされる方法論と実践的アプローチ法を説明できる。
研究目的に適した研究方法を理解し応用し、研究対象を的確に把握、分析、解釈できる。
研究成果を看護学に応用するための知識・技術・態度を身につけ、実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション・自己紹介	オリエンテーション、各自の修士論文について自己紹介を兼ねて紹介する	坂本
2	研究の概念①	リサーチクエスチョン、研究仮説の設定、文献レビュー	坂本
3	研究の概念②	概念的文脈の開発	坂本
4	研究デザイン	各種研究デザインと選び方	坂本
5	測定とデータ収集①	データ収集法	坂本
6	測定とデータ収集②	データ収集法	坂本
7	研究データの分析①		坂本
8	研究データの分析②		坂本
9	研究データの分析③		坂本
10	研究計画書の作成①		坂本
11	研究計画書の作成②		坂本
12	研究計画書の作成③		坂本
13	質的研究について①	講義	野口
14	質的研究について①	講義	野口
15			野口
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			

【6】　事前・事後学習とその時間

講義は遠隔方式で行う。
講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(20%)、レポート(80%)から総合的に評価する。レポートについて3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を行う。

【9】　教科書

D.F.ポーリット&C.T.ベック著近藤潤子監訳『看護研究』第２版医学書院・2014年
キャシー・シャーマズ Kathy Charmaz (著), 岡部 大祐 (翻訳). (2013)グラウンデッド・セオリーの構築[第2版], ナカニシヤ出版.

【10】　参考書

講義にて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

自身の修士論文について再確認しておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

2022年度

科目名(日本語)	**看護技術特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Arts	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

文献の抄読を通して文献を批判的に読む能力を養い、各自が関心をよせる事象の周辺にある概念を整理する。
抄読内容をふまえて各自の看護実践を振り返り、研究課題を明らかにし、研究計画書作成につなげる。

【３】　到達目標

看護学における理論志向について学修し、看護・看護職者の本質やあり様について検討する。看護実践や看護職者について研究する目的や方法を再考することで、自立して研究を行う能力を身につける。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	科目のオリエンテーション 看護学の発展の経緯と実践の科学としての看護学の特徴 各自が気になる看護現象・そこに潜む特徴や課題についてのプレゼンテーション	菊池
2	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 前書き	菊池
3	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第１章：序論	菊池
4	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第２章：理論志向における用語	菊池
5	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第３章：看護学における概念領域：理論分析の枠組み	菊池
6	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第４章：クライアント領域	菊池
7	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第４章：クライアント領域	菊池
8	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第5章：クライアント-ナース領域	菊池
9	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第5章：クライアント-ナース領域	菊池
10	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第６章：看護の実践領域	菊池
11	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第６章：看護の実践領域	菊池
12	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第７章：環境領域	菊池
13	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第８章：看護理論開発	菊池
14	文献抄読	「看護学における理論志向の本質」 第９章：看護学における理論開発の諸問題	菊池
15	まとめ	看護学における関心事象の位置づけ 今後の課題	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

学生のプレゼンテーションを中心に進める。資料を作成しプレゼンテーションを行い、討議する。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

Hesook Suzie Kim著、上鶴重美監訳、看護学における理論志向の本質、日本看護協会出版会、2003.

【10】　参考書

開講時、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

2022年度

科目名(日本語)	**看護技術演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Nursing Arts	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

演習参加者間での活発なディスカッションにより、関心をよせる事象に対する分析力、およびプレゼンテーション力を養う。

【３】　到達目標

看護の本質や看護職の生成と発達に関連した各自の関心あるテーマに沿って、文献検討と参与観察やインタビューを行い、自身の研究課題を明確化し、記述する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概要	オリエンテーション 関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
2	演習計画の立案①	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
3	演習計画の立案②	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
4	演習計画の立案③	テーマに沿った演習課題の絞り込み	菊池
5	演習計画の立案④	データ収集・分析方法の検討	菊池
6	データ収集①	テーマに沿ったデータ収集①	菊池
7	データ収集②	テーマに沿ったデータ収集②	菊池
8	データ分析①	収集したデータの分析①	菊池
9	データ分析②	収集したデータの分析②	菊池
10	データ分析③	分析結果に基づく検討①	菊池
11	データ分析④	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読①	菊池
12	データ分析⑤	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読②	菊池
13	データ分析⑥	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読③	菊池
14	データ分析⑦	分析結果に基づく検討②	菊池
15	まとめ	関心事象についての考察	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

学生のプレゼンテーションを中心に進める。資料を作成しプレゼンテーションを行い、討議する。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

開講時、提示する。

【10】　参考書

開講時、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

各自の看護経験を振り返り、演習に対して各自が責任をもって主体的に取り組むことを期待する。

科目名(日本語)	**がん看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【2】　授業概要

がん看護学に関連する文献検討を通して、各自が取り組みたい現象の看護学上の位置づけを明確化し、テーマの焦点化ができるよう教授する。

【3】　到達目標

1.文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に説明することができる。
2.がん看護学の現象を広く概観した上で、自らが探求したいテーマを見出し、説明することができる。
3.探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について説明することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	最新がん医療の概観	探求したい現象や研究課題について討論し、学習目標を確認する	村上
3-10	がん医療に関する文献検討	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	村上
11-18	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	村上
19-26	研究方法に関する文献検討	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	村上
27	まとめ	学習目標に対する達成度の確認と、自己の研究課題を明確にする	村上

【6】　事前・事後学習とその時間

１．ゼミ形式、文献検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【2】　授業概要

がん看護学に関する新たな知の構築に向けて、自己が探求したい研究課題について適切な研究計画書を作成し、看護学特別研究へつながるよう教授する。

【3】　到達目標

1.文献検討やフィールドワーク、専門家へのコンサルテーションを実施し、自己の研究課題を明確にし、研究計画書素案を作成し説明できる。
2.研究の可能性を検討するための予備的な研究計画を記述できる。
3.がん看護学に関する新たな知の構築に向けて、研究デザインを検討し、看護学特別研究の計画を記述できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	課題の明確化	自己の研究課題を明確にする	村上
3-8	研究対象の検討	これまでの文献検討やフィールドワークを通して、研究対象を明確にする	村上
9-14	研究計画書素案の作成	文献検討、専門家へのコンサルテーションなどを実施し、研究計画書素案を作成する	村上
15-20	研究方法の妥当性・信頼性の検討	必要な予備的または試験的研究を行う	村上
21-24	研究計画書の作成	予備調査の結果をもとに研究計画書を作成する	村上
25-27	研究計画書の発表	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	村上

【6】　事前・事後学習とその時間

１．ゼミ形式、文献検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書
講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書
講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**高齢者看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Gerontological Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

まずは我が国の現状を客観的に理解する。その上で、看護師を含むケア提供者たちが抱えている問題を推測し解決のための方策を見出すための研究について討議していく。

【３】　到達目標

1. 高齢者に関するさまざまな調査報告書から現状分析ができる。
2. 医療ケア提供システムについて理解し、倫理的問題を含むさまざまな課題について述べることができる。
3. 高齢者看護の実践を支える理論について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者と社会1	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する	横井
2	高齢者と社会2	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する	横井
3	医療ケア提供システムの現状1	医療保険と高齢者看護	横井
4	医療ケア提供システムの現状2	医療保険と高齢者看護	横井
5	医療ケア提供システムの現状3	医療保険と高齢者看護	横井
6	医療ケア提供システムの現状4	介護保険と高齢者看護	横井
7	医療ケア提供システムの現状5	介護保険と高齢者看護	横井
8	医療ケア提供システムの現状6	介護保険と高齢者看護	横井
9	高齢者看護学を支える理論1	理論に関する文献検討	横井
10	高齢者看護学を支える理論2	理論に関する文献検討	横井
11	高齢者看護学を支える理論3	理論に関する文献検討	横井
12	高齢者看護学を支える理論4	理論に関する文献検討	横井
13	高齢者看護学を支える理論5	理論に関する文献検討	横井
14	高齢者看護学を支える理論6	理論に関する文献検討	横井
15	高齢者看護学を支える理論7	理論に関する文献検討	横井
16	高齢者看護学を支える理論8	理論に関する文献検討	横井
17	高齢者看護学と倫理1	エイジズムと看護実践	横井
18	高齢者看護学と倫理2	エイジズムと看護実践	横井
19	高齢者看護学と倫理3	安全と看護実践ー身体抑制の現状と課題ー	横井
20	高齢者看護学と倫理4	安全と看護実践ー身体抑制の現状と課題ー	横井
21	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて1	「プロセス」を支えるとは	横井
22	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて2	「プロセス」を支えるとは	横井
23	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて3	「プロセス」を支えるとは	横井
24	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて4	「プロセス」を支えるとは	横井
25	高齢者看護学の課題1	発表・討議	横井
26	高齢者看護学の課題2	発表・討議	横井
27	高齢者看護学の課題3	発表・討議	横井

【６】　事前・事後学習とその時間

最新の高齢者に関わる医療制度、介護保険制度の事前学習をすませておくこと。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取組み40%、レポート60%
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

文献講読を中心にセミナー形式ですすめる。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Reproductive Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	福島　富士子				
担当教員	福島富士子（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	福島富士子木曜日　8時～9時				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて学び、活用・応用できる資質を身につける。

【３】　到達目標

性・生殖看護学特講を基盤に、リプロダクティブヘルス/ライツに関する問題を追及し、新たなケア技術を開発するための知識と技術を探求し実践する。特に女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する諸問題を探求し、健康の保持増進に寄与する健康支援モデルの検討を行い、ヘルスプロモーションの視点から看護ケア、看護介入プログラムを開発できる能力を修得し、性・生殖の分野で必要な研究者としての資質と態度を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1		オリエンテーション：オリエンテーションと性教育に関する文献検討	福島
2		思春期教育の演習：小学校での性教育	福島
3		思春期教育の演習：中学校での性教育	福島
4		思春期教育の演習：高等学校における性教育	福島
5		性教育プログラム検討：小学・中学・高校における性教育プログラムの検討	福島
6		避妊教育演習：避妊・家族計画に関する教育演習	福島
7		思春期保健教育演習：喫煙・飲酒・ダイエットなどに対する教育演習	福島
8		性感染症予防教育：性感染症予防に関する教育演習	福島
9		性・生殖の看護課題：学生の持つ課題に対する演習を行い討論	福島
10		生殖看護演習：女性の健康支援に関する演習	福島
11		生殖看護演：産む性を育む性教育未婚女性への演習	福島
12		更年期女性演習：更年期障害をもつ女性への演習	福島
13		産前産後ケア：産前産後ケアプログラムの実際と検討	福島
14		育児支援システム：退院後から1か月の育児支援システム	福島
15		まとめ：性・生殖に関する課題を整理する	福島

【６】　事前・事後学習とその時間

臨地にて健康教育場面に参加し、分析する。

【７】　評価方法・基準

出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【10】　参考書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。

科目名(日本語)	国際広域保健学特講Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced International Health Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時~12時45分				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【2】　授業概要

国際保健・看護の活動・研究に関する国際的な知見を利用し、博士論文の研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。テーマに関してのレビューを行う。

【3】　到達目標

自身の研究課題を見出し、博士論文の研究目的を焦点化するためのレビュー論文が書ける。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-4	準備状況について確認	Literature Reviews について復習 https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/literature-reviews/	夏原
5-20	論文購読	受講生は各々の興味関心に沿った論文を選択し、事前に他の受講生と教員にも知らせる。 その回の担当者は、批判的吟味をしながら内容を発表し、質問に答えることで著者の思考過程を追う。 抄読を繰り返すことで、論文から必要な情報を効率よく得るだけでなく、論文執筆のポイントをつかむようにする。	夏原
21-27	レビュー論文アウトライン作成	受講生は自己の課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成し、発表する。 発表内容について質疑応答を経て修正を繰り返し、完成させる。	夏原

【6】　事前・事後学習とその時間

担当者は当日までに抄録の和訳とIntroduction,Method,Results,Discussionの概要をまとめ、A3用紙2枚程度の資料を人数分準備する。担当者は著者の立場で、他の受講生は査読者の立場で論文についてディスカッションする。
授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。

【7】　評価方法・基準

毎回のプレゼンテーションの資料準備40%、ディスカッション参加態度20%、レビュー論文のアウトライン（最終レポート）40%。

【８】　フィードバック方法
毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
論文を選択する際には、international journalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。

科目名(日本語)	国際広域保健学演習Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in International Health Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12時~12時45分				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【2】　授業概要

国際保健活動・研究に用いられる様々な方法についての実践能力を強化する科目である。博士論文の研究計画立案のためのフィールドワークを行う。

【3】　到達目標

興味関心を持った国際保健/看護活動・研究の課題を人口学、栄養学、文化人類学等のさまざまな調査方法論を駆使してフィールドワークし、アセスメントできる。研究目的に適応した研究方法を状況に応じて設定することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1−3	目的を達成させるための方法	院生各々の研究目的を達成するために必要な方法について精査する。	夏原
4−6	質の高いデータ収集	論文から情報を得て、方法論を身につけ、必要な技術の習熟を図る。	夏原
7−13	データ収集方法の調整	データ収集予定地でのフィールドワークを経て研究方法の修正を行う。	夏原
14−15	研究計画書作成	最終レポートとして博士論文の研究計画書の方法の原稿を提出する。	夏原

【6】　事前・事後学習とその時間

文献検討は国際広域保健学特論Ⅰと同様に行う。フィールドワークは充分な準備をもって臨み、学生が主体となって課題を実践する。
授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。

【7】　評価方法・基準

フィールドワーク事前準備40%、最終レポート60%

【8】　フィードバック方法

【9】　教科書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

フィールドワークの準備は言語の習得、調査許可取得を含めて各自の責任で取り組むこと。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護・ケアシステム特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【３】　到達目標

概念分析の哲学的基盤を理解した上で、地域看護学・ケアシステム関連分野の概念を科学的に分析する方法を具体的に説明できる。文献レビューを通じて、現在の概念の用いられ方を根拠を示しながら説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方、	岸
2	概念の哲学的基盤	地域看護学における概念	岸
3	概念の哲学的基盤	概念の哲学的基盤（1）	岸
4	概念の哲学的基盤	概念の哲学的基盤（2）	岸
5	概念分析	概念分析（1）	岸
6	概念分析	概念分析（2）	岸
7	概念分析	概念分析（3）	岸
8	メタ統合	統合的レビュー（1）	岸
9	メタ統合	統合的レビュー（2）	岸
10	メタ統合	メタ統合（1）	岸
11	メタ統合	メタ統合（2）	岸
12	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（1）	岸
13	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（2）	岸
14	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（3）	岸
15	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（4）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

RodgersBL,KnaflKA.(2000).ConceptsDevelopmentinNursing.

【10】　参考書

RodgersBL,KnaflKA.(2000).ConceptsDevelopmentinNursing.

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護・ケアシステム演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Community Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【３】　到達目標

文献の講読やフィールドワークを通じて、地域の健康課題を探求し、さらに、個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した地域看護活動の展開方法を具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護活動の展開	地域看護におけるアセスメント	岸
3	地域看護活動の展開	地域看護計画の立案	岸
4	地域看護活動の展開	地域看護における評価と科学的根拠	岸
5	地域看護活動の展開	地域看護におけるリーダーシップ	岸
6	地域看護活動の展開	地域ケアシステムの構築	岸
7	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討（1）	岸
8	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討（2）	岸
9	フィールドワーク	フィールドワーク（1）	岸
10	フィールドワーク	フィールドワーク（2）	岸
11	フィールドワーク	フィールドワーク（3）	岸
12	フィールドワーク	フィールドワーク（4）	岸
13	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（1）	岸
14	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（2）	岸
15	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（3）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

英語の書籍の精読を基にしたプレゼンテーションとフィールドワークよりすすめる。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

別途提示する。

【10】　参考書

別途提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護・健康政策特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing/ health policy	選択	講義	1年次･秋春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

院生が、今までに経験し、かつ関心を持つフィールドを題材にして、文献などにより健康政策の現状、問題点・課題を明示し、新たな方策案までをプレゼンテーションし討論する。
学生の主体的発表を組み合わせて行い、発表･討論を重視する。

【３】　到達目標

健康政策に関する理念、発展過程およびその背景、展開方法など、多面的に把握し、問題分析・評価し、新たな政策課題について根拠を示しながら説明できる。さらに課題解決のための研究・実践について具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	健康政策	わが国の健康政策の理念と変遷	岸
3	健康政策	健康政策の発展過程とその背景	岸
4	健康政策	健康政策の発展過程とその理論	岸
5	健康政策	健康政策に関する文献クリティーク	岸
6	文献検討・フィールド研究	院生各自が、関心ある健康政策について7～12までの講義において文献検討、フィールド研究等を実施する	岸
7	文献検討・フィールド研究	各種制度の背景、理念	岸
8	文献検討・フィールド研究	各種制度の発展過程	岸
9	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（1）	岸
10	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（2）	岸
11	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（3）	岸
12	文献検討・フィールド研究	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言	岸
13	成果発表・討論	院生によるパワーポイントを用いた発表と討論	岸
14	成果発表・討論	院生によるパワーポイントを用いた発表と討論	岸
15	成果発表・討論	健康政策と地域看護活動	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

文献検討は学生が主体的に学習する。院生各自のフィールド題材の発表で教員はコメンテーターの役割を担う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【10】　参考書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

2022年度

科目名(日本語)	**地域看護・健康政策演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Community Health Nursing /Health Policy	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

【２】　授業概要

臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ、地域看護分野のさまざまな場面で活用、応用できる資質を形成する。

【３】　到達目標

健康政策の変遷を踏まえつつ、地域保健法や介護保険法などの健康政策について、制度の実践活動事例にあたり、健康政策を具現化するための発展過程およびそこに求められる知識・技術を理解し実践する。政策化するための過程、計画立案、評価など、地域看護の専門家として必要な研究態度、知識、技術の修得を目指す。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と進め方	岸
2	政策形成過程	政策化、施策化、事業化とは（文献研究）	岸
3	政策形成過程	政策化、施策化、事業化とは（文献研究）	岸
4	政策形成過程	政策化、施策化、事業化のプロセス（演習）	岸
5	政策形成過程	政策化、施策化、事業化のプロセス（演習）	岸
6	政策形成過程	計画立案（演習）	岸
7	政策形成過程	予算化（演習）	岸
8	政策形成過程	プレゼンテーション（演習）	岸
9	政策形成過程	上記演習を題材に「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する（演習）	岸
10	施策化の実践事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	岸
11	施策化の実践事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	岸
12	施策化の実践事例の分析	上記演習を題材に「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	岸
13	施策化の実践事例の分析	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する（演習）	岸
14	施策化の実践事例の分析	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する（演習）	岸
15	施策化の実践事例の分析	健康政策と地域看護活動に対する研究的取組み	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ理解と知識の定着をはかる。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

【９】　教科書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【10】　参考書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名(日本語)	**国際保健学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Global Health	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健活動・研究に関する国際的な知見を利用し、博士論文の研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。テーマに関してのレビューを行う。

【３】　到達目標

1. 自身の興味関心を焦点化するためにInternational Journalを網羅的に検索し、情報を取得できる。
2. 文献や関連書籍などから自身の研究課題を焦点化するための情報を抽出できる。
3. 研究テーマを決定し、研究目的を文章化できる。
4. 博士論文の研究テーマに関してのレビュー論文を完成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	・オリエンテーション	夏原
3-4	準備状況について確認	・Literature Reviews について復習する	夏原
5-20	論文を読む	・各々の興味関心に沿った論文を選択し、事前に他のメンバーにも知らせる ・担当者は、批判的吟味をしながら内容を発表し、質問に答えることで著者の思考過程を追う ・論文から必要な情報を効率よく得るだけでなく、論文執筆のポイントをつかむようにする	夏原
21-27	まとめ	・自己の課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成し、質疑応答を経て完成させる	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
・論文を読む授業の際は、担当者は抄録の和訳とIntroduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A3用紙2枚程度の資料を人数分準備する。
・担当者は著者の立場で、他の受講生は査読者の立場で論文についてディスカッションする。

【７】　評価方法・基準

・到達目標1-3に関しての取り組み60%、到達目標4（最終レポートとしてレビュー論文を提出)40%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・論文を選択する際には、international journalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。

科目名(日本語)	**国際保健学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Global Health	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

・国際保健活動・研究に用いられる様々な方法についての実践能力を強化する科目である。
・博士論文の研究計画立案のためのフィールドワークを行う。

【３】　到達目標

１．目的達成に適した研究方法を、疫学、人口学、栄養学、文化人類学等のさまざまな調査方法論を駆使して状況に応じて設定することができる。
２．現場の状況に合わせて研究目的達成のために必要なデータを収集することができる。
３．収集したデータをデータの特性を活かしながら分析できる。
４．分析結果を先行研究に照らし合わせて解釈できる。
５．演習を踏まえて、博士論文完成までの実行可能なスケジュールを作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-6	目的を達成させるための方法	院生各々の研究目的を達成するために必要な方法について精査する。	夏原
7-12	質の高いデータ収集	論文から情報を得て、方法論を身につけ、必要な技術の習熟を図る。	夏原
13-22	データ収集方法の調整	データ収集予定地でのフィールドワークを経て研究方法の修正を行う。	夏原
23-27	研究計画書作成	最終レポートとして博士論文の研究計画書の方法の原稿を作成する。	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
・文献検討は国際保健学特論と同様に行う。
・フィールドワークは充分な準備をもって臨み、学生が主体となって課題を実践する。

【７】　評価方法・基準

・到達目標1と2に関しての取り組み30%、到達目標3-5に関しての取り組み40%、最終レポート30%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・フィールドワークの準備は言語の習得、調査許可取得を含めて各自の責任で取り組むこと。

科目名(日本語)	**精神看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子keiko.itou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【２】　授業概要

精神保健医療福祉に関連する文献検討を通して、現代の精神保健・精神看護に関する課題と対策について思考し、各自が取り組みたい研究テーマの焦点化ができるように教授する。

【３】　到達目標

1.文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握することができる。
2.精神保健医療福祉の現象を広く概観した上で、自らが探求したいテーマを見出すことができる。
3.探求したい現象を明らかにするための研究上のアプローチ方法について探求できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神保健福祉医療に関する動向の概観①	探求したい現象や研究課題について討論する	伊藤
2 - 3	精神保健福祉医療に関する動向の概観②	自らが探求したい研究課題の俯瞰図を作成し、関連する要因を整理する	伊藤
4 - 5	精神保健福祉医療に関する文献検討①	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
6 - 7	精神保健福祉医療に関する文献検討②	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
8 - 9	精神保健福祉医療に関する文献検討③	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
10 - 11	精神保健福祉医療に関する文献検討④	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
12 - 13	研究課題に関する文献検討①	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
14 - 15	研究課題に関する文献検討②	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
16 - 17	研究課題に関する文献検討③	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
18 - 19	研究課題に関する文献検討④	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
20 - 21	研究課題に関する文献検討⑤	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
22 - 23	研究方法に関する文献検討①	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	伊藤
24 - 25	研究方法に関する文献検討②	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	伊藤
26 - 27	まとめ	自己の研究課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成して、プレゼンテーションを行う	伊藤

【６】　事前・事後学習とその時間

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。
エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Mental Health and Psychiatric Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子keiko.itou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45 - 13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【２】　授業概要

精神保健・精神看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。
研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行い、看護学特別研究へつながるように教授する。

【３】　到達目標

１．精神保健・精神看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討できる。
２．予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	課題とするテーマの明確化	自己の研究課題とするテーマを明確にする	伊藤
2 - 3	研究対象の検討①	これまでの文献検討を通して、研究対象を明確にする	伊藤
4-5	研究対象の検討②	これまでの文献検討を通して、研究対象を明確にする	伊藤
6-7	フィールドワーク計画立案①	フィールドワークにおける演習計画を立案する	伊藤
8-9	フィールドワーク計画立案②	フィールドワークにおける演習計画を立案する	伊藤
10-11	フィールドワーク①	フィールドワークを実施する	伊藤
12-13	フィールドワーク②	フィールドワークを実施する	伊藤
14-15	フィールドワーク③	フィールドワークを実施する	伊藤
16-17	フィールドワーク④	フィールドワークを実施する	伊藤
18-19	研究課題の明確化①	研究課題に関連する現象を構成する概念を抽出する	伊藤
20-21	研究課題の明確化②	研究課題に関連する現象を構成する概念を明確にする	伊藤
22-23	研究計画書の作成①	自己の研究課題を明らかにするための適切なデザイン、方法を検討し研究計画を作成する	伊藤
24-25	研究計画書の作成②	自己の研究課題を明らかにするための適切なデザイン、方法を検討し研究計画を作成する	伊藤
26-27	研究計画の発表	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	伊藤

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドワークは充分な準備をもって臨み、学生が主体的に取り組む。
エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【３】　到達目標

概念分析の哲学的基盤を理解した上で、公衆衛生看護学関連分野の概念を科学的に分析する方法論を習得し、文献レビューを通じて、現在の概念の用いられ方について根拠を示しながら説明できる。また公衆衛生看護学で活用できる理論・ツールについて検討し、課題解決の方法について具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念（1）	岸
3	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念（2）	岸
4	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念（3）	岸
5	概念分析	公衆衛生看護学における概念（4）	岸
6	概念分析	公衆衛生看護学における概念（5）	岸
7	概念分析	概念分析（1）	岸
8	概念分析	概念分析（2）	岸
9	概念分析	概念分析（3）	岸
10	概念分析	概念分析（4）	岸
11	概念分析	概念分析（5）	岸
12	概念分析	概念分析（6）	岸
13	概念分析	概念分析（7）	岸
14	概念分析	概念分析（8）	岸
15	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（1）	岸
16	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（2）	岸
17	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（3）	岸
18	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（4）	岸
19	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（5）	岸
20	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（6）	岸
21	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（1）	岸
22	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（2）	岸
23	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（3）	岸
24	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（4）	岸
25	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（5）	岸
26	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（6）	岸
27	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（7）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外演習を行う。
学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。
文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

Rodgers BL,Knafl KA.(2000).Concept Development in Nursing.

【10】　参考書

Rodgers BL,Knafl KA.(2000).Concept Development in Nursing.

【11】　備考(関連科目等)

授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Community Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。
英語の書籍の精読を基にしたプレゼンテーションとフィールドワークよりすすめる。

【３】　到達目標

文献の講読やフィールドワークを通じて、地域の健康課題を探求し、さらに、個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護におけるアセスメント	岸
3	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護計画の立案	岸
4	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における評価	岸
5	公衆衛生看護活動の展開	地域ケアシステムの構築	岸
6	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における管理（1）	岸
7	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における管理（2）	岸
8	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（2）	岸
9			岸
10	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（1）	岸
11	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（2）	岸
12	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（3）	岸
13	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（4）	岸
14	フィールドワーク	フィールドワーク（1）	岸
15	フィールドワーク	フィールドワーク（2）	岸
16	フィールドワーク	フィールドワーク（3）	
17	フィールドワーク	フィールドワーク（4）	
18	フィールドワーク	フィールドワーク（5）	
19	フィールドワーク	フィールドワーク（6）	
20	フィールドワーク	フィールドワーク（7）	
21	フィールドワーク	フィールドワーク（8）	
22	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（1）	岸
23	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（2）	岸
24	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（3）	岸
25	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（4）	岸
26	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（5）	岸
27	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（6）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外演習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

別途提示する。

【10】　参考書

別途提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**看護理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Theory	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）・永田明（長崎大学・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。また、理論の構造を学修し、自分の関心領域の理論・概念の開発に向けた探求を行う。看護学の哲学的基盤を発展させるために、理論や概念を批判的に吟味する能力を養い、理論分析・構築の方法を修得する。

【３】　到達目標

1)看護科学の哲学的基盤について述べることができる
2)概念分析の方法や理論クリティークの方法を身につけ、理論を分析できる
3)理論構築の方法を説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている

博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1～3	看護学の理論体系の発展経緯	科目のオリエンテーション 看護学における理論と実践、研究の関係 思想史・科学史 看護における理論開発の歴史	菊池
4～6	理論の基本的成り立ちと理論の構造　1	看護理論の機能と構造 理論や概念のクリティーク	菊池
7～9	理論の基本的成り立ちと理論の構造　2	プレゼンテーションと討議 関心領域の理論を取り上げた理論や概念のクリティークの実践	菊池
10～12	理論開発　1	理論開発のレベル 理論開発の要素。アプローチ 概念開発	永田
13～15	概念分析　1	目的と使用 概念分析の手順	永田
16～18	概念分析　2	プレゼンテーションと討議 概念分析の実際	永田
19～21	理論開発　2	プレゼンテーションと討議 理論開発の実際と課題（中範囲理論または状況特定理論①）	菊池
22～24	理論開発　3	プレゼンテーションと討議 理論開発の実際と課題（中範囲理論または状況特定理論②）	菊池
25～27	理論活用	プレゼンテーションと討議 まとめ：理論の開発と活用	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う

【９】　教科書

JacquelineFawcett、著、大田喜久子筒井真優美訳：看護理論の分析と評価，医学書院.
Lorraine Olszewski Walker/Kay Coalson Avant 著，中木高夫　川﨑修一訳：看護における理論構築の方法. 医学書院.

【10】　参考書

筒井真優美編集(2015)，看護理論家の業績と理論評価，医学書院
Meleis, A. I. (2012). Theoretical nursing: Development and Progress (5th Revised Ed.).
Philadelphia: Lippincott Co..

【11】　備考(関連科目等)

授業形式は一部遠隔形式を取り入れる。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。